

履修要項

2026年度入学生用



奈良大学

目 次

奈良大学 建学の精神・教学の理念	5
3ポリシー	
「奈良大学の卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)(DP)	6
「奈良大学の教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)(CP)	8
「奈良大学の入学受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)(AP)	14
卒業認定・学位授与の方針と授業科目の関連表(カリキュラムマップ)	27
I. 履修科目の体系	
1. 授業科目の5つの区分	35
2. 卒業に必要な科目と単位	35
II. 各科目群の履修要項	
1. 基幹科目	
(1) 文学部・国文学科	
1) 卒業に必要な単位	39
2) 基幹科目の構成	40
3) 履修上の注意	40
4) 専攻分野とコース	41
5) 学年進行と履修モデル	42
6) 国文学科基幹科目配当表	43
(2) 文学部・史学科	
1) 卒業に必要な単位	45
2) 専攻分野とコース	45
3) 基幹科目の構成	46
4) 履修上の注意	47
5) 学年進行と履修モデル	48
6) 史学科基幹科目配当表	49
(3) 文学部・地理学科	
1) 卒業に必要な単位	51
2) 基幹科目の構成	52
3) 履修上の注意	52
4) 学年進行と履修モデル	54
5) 地理学科限定取得可能資格	59
6) 地理学科基幹科目配当表	61

(4) 文学部・文化財学科

1) 卒業に必要な単位	63
2) 専攻分野とコース	63
3) 基幹科目の構成	64
4) 履修上の注意	64
5) 学年進行と履修モデル	65
6) 文化財学科基幹科目配当表	67

(5) 社会学部・心理学科

1) 卒業に必要な単位	69
2) 基幹科目の構成	70
3) 学年進行と履修モデル	71
4) 履修上の注意	72
5) 専攻分野とコース	73
6) 心理学科限定取得資格	74
公認心理師	74
認定心理士	76
7) 心理学科基幹科目配当表	78

(6) 社会学部・総合社会学科

1) 卒業に必要な単位	80
2) 基幹科目の構成	81
3) 学年進行と履修モデル	82
4) 履修上の注意	83
5) 専門領域とコース	84
6) 総合社会学科の資格	84
7) 総合社会学科基幹科目配当表	86

(7) 各学科基幹科目D群の特記事項

1) 実務関係資格に関係する科目	88
2) 海外研修	89
3) プロジェクト	90

2. 外国語科目

(1) 外国語科目の目標	91
(2) 外国語科目の構成・概要	91
(3) 外国語科目の履修上の注意	92
(4) 外国語科目配当表	93

3. 健康・スポーツ科目

(1) 健康・スポーツ科目の目標	94
(2) 健康・スポーツ科目の構成・概要	94
(3) 健康・スポーツ科目の履修上の注意	94

(4) 健康・スポーツ科目担当表	95
4. 情報科目	
(1) 情報科目の目標	96
(2) 情報科目の構成・概要	96
(3) 情報科目の履修上の注意	97
(4) 情報科目担当表	97
5. キャリア科目	
(1) キャリア科目の目標	98
(2) キャリア科目の構成・概要	98
(3) キャリア科目の履修上の注意	98
(4) キャリア科目担当表	98
6. 指定する他学部・他学科科目の履修	
履修上の注意	99
7. 他大学単位互換科目の履修	
(1) 単位互換制度	99
(2) 履修上の注意	99
Ⅲ. 資格取得	
1. 取得できる免許・資格及びプログラム	103
2. 各資格の取得方法	
(1) 教育職員科目履修の手引	
1) 教育免許法施行規則第66条の6に定める科目	104
2) 「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」、「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち「教科の指導法に関する科目」	104
3) 大学が独自に設定する科目	105
4) 「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち「教科に関する専門的事項科目」	105
5) 履修登録単位数	105
6) 他学部・他学科履修による他教科免許（高校：地理歴史・公民）の取得について	106
7) その他	106
8) 教育職員科目担当表	106
(2) 学校図書館司書教諭資格	
1) 資格取得条件	113
2) 履修上の注意	113
3) 修了証の授与	113
4) 学校図書館司書教諭資格科目担当表	113
(3) 博物館学芸員資格	
1) 博物館学芸員資格取得実施要領	114

2) 博物館学芸員資格科目配当表	117
(4) 司書資格	
1) 資格取得条件	119
2) 履修上の注意	119
3) 司書資格科目配当表	119
(5) 学校司書プログラム	
1) プログラム修了条件	120
2) 履修上の注意	120
3) 学校司書単位修得証明書の発行	120
4) 学校司書プログラム科目配当表	120

IV. 履修登録

1. 履修計画作成の注意

(1) 履修に関する心得と単位

1) 履修計画について	123
2) 授業期間の形態	123
3) 単位制について	123

(2) 履修登録

1) 履修登録単位の制限	124
2) 履修登録上の注意	124

2. 履修計画作成の実際

3. 単位認定と成績

(1) 試験とレポート

1) 試験の種類	126
2) 試験の方法	126
3) レポート	126

(2) 成績

1) 成績評価	126
2) 成績発表	129
3) 成績の問い合わせ	129

(3) 卒業論文

文学部	129
社会学部	130
両学部共通	130
論文の提出期間	131

奈良大学 建学の精神

努力が天才であるとする信念を以て心の光となし、
自己の願望を遂げさせるものは自分自身であるとする信念を以て心の力となす。
この光に照らされ、この力に勇みつつ、
明るい人生の中に自己を見出して、常に大望を見失わず、自信满满努力して倦まざるもの、
これが即ちたくましき正しきに強き健児の姿であり、建学の精神である。

教学の理念

1. つねに真理の探求につとめ、伝統と現代感覚の調和をはかりつつ、
学術文化の創造と進歩に寄与する。
2. ふれあいと対話の教育を基調にして、豊かな人間性を養い、
独立自由を尊ぶとともに、友情あつく協調性に富んだ人材を育成する。
3. 国際的視野に立つ開かれた大学として、地域社会との連帯を深めながら、
ひろく人類社会の平和と発展に貢献する。

3ポリシー

奈良大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）（DP）

本学は建学の精神にもとづき、わが国屈指の歴史と文化に恵まれた奈良の地を活かし、学生ひとり一人の主体的な学びを重視した教育を行う。それを通じて修得した知識と経験をもとに、社会の一員として伝統への理解と現代感覚を兼ね備え、生涯にわたり主体的に活躍できる有為の人材の育成を目的としている。その実現のために、本学は所定の教育課程を修め、つぎに掲げる6つの能力を身につけた者に、学士

文 学 部	
1. 知識・技能の理解と活用	幅広く語学・教養科目を履修して柔軟な思考力を養うとともに、人文科学の理念にもとづいて、各学科の基礎から専門へと深化する学位プログラムにしたがって専門的な知識や技能を修得し、それらを応用する能力を身につけている。生活のさまざまな場面で実際に起こる問題に対して、自らのおかれた立場を認識したうえで、それらの知識や技能を柔軟に再構成して活用することができる。
2. 問題発見・解決力	人文科学の諸領域の学修によって得られた的確な思考力や判断力によって情報の収集や分析を行い、問題を正しく把握し認識する能力を身につけている。社会のさまざまな状況に応じて、収集した情報を自分のみならず、他人とも共有することで、共感的理解や建設的批判を導きつつ、幅広い観点から解決に至る考えや手段を構想して、問題の解決に向けて前進することができる。
3. 多様性の理解	幅広い視野をもち、自分の考えと異なるさまざまな意見や考えがあることがわかる能力を身につけている。よりよい社会の実現をめざして、自分が属する集団や地域のみならず、その集団や地域を越えた多様な人々と協働し、自分の属する集団や地域の特性を理解し、他の人々にわかりやすく示すとともに、彼らのもつ歴史や文化を尊重しながら行動することができる。
4. コミュニケーション能力	会話や文章を通じて、他人に対して自分の立場・気持ち・意見をわかりやすく伝え、また相手の真意を理解する能力を身につけている。さまざまな手段によって他人と交流できるようになった情報化社会において、時と場合に応じて適切なコミュニケーション・メディアを選択し、相手の立場・気持ち・意見に配慮しながら、自分の立場・気持ち・意見を望ましい言葉によって表すことができる。
5. 自立的で意欲的な態度	社会生活のさまざまな場面において、人文科学の諸領域の学修で培った先人の知恵や人々の営み、地域の文化・特性などの理解や、自分自身の経験を生かしながら、立場をわきまえ、意欲的かつ着実に行動できる能力を身につけている。社会に横たわるさまざまな課題・問題に対して傍観することなく、自分の果たすべき役割と責任を明確にしたうえで、主体的・能動的に行動することができる。
6. 倫理観・規範性	建学の精神にもとづいて、善悪を正しく見極め、社会のルールを遵守したうえで、自分の進むべき方向や、他人との相互理解を深める能力を身につけている。自分自身が地域の文化や伝統に育まれたものであることを知り、地域社会を構成する一員であるという自覚と責任をもって行動し、独断や偏見にもとづく主張や態度に対しては毅然とした態度で臨むことができる。

の学位を授与する。

1. 知識・技能の理解と活用、2. 問題発見・解決力、3. 多様性の理解
4. コミュニケーション能力、5. 自立的で意欲的な態度、6. 倫理観・規範性

社 会 学 部	
1. 知識・技能の理解と活用	<p>幅広く語学・教養科目を履修して柔軟な思考力を養うとともに、社会科学の諸領域がこれまで蓄積してきた基礎的および専門的知識を体系的に理解する能力を身につけている。さらに、現代社会のさまざまな現象の解明に役立つような知識や技能を修得し、現実生活においてそれらの知識・技能を活用し、社会問題の解決につなげることができる。</p>
2. 問題発見・解決力	<p>社会科学の諸領域の知識をもとにして広く社会のさまざまな問題を発見し、客観的なデータに基づいて解決の方法を探索したり提案したりすることができる能力を身につけている。さまざまな状況に応じて適切な情報ツールを活用した情報収集や情報分析ができる思考力や判断力を身につけており、得られた知見を他人とも共有し討議することで、問題の解決に向けて前進することができる。</p>
3. 多様性の理解	<p>幅広い視野をもち、社会には多様な属性や価値観をもつ人々が存在することを認識し、グローバル化した現代のさまざまな社会・文化を理解する能力を身につけている。自分たちと異なる人々も暮らしているという現実を直視し、自分たちだけでなく彼らをも社会や世界の一員ととらえ、それらの人々と協働して社会を作っているという関係を理解し、互いを尊重しながら行動することができる。</p>
4. コミュニケーション能力	<p>国内外を問わず社会生活を営むなかで、他人の立場・気持ち・意見を受け止めて理解するとともに、プレゼンテーションや文章表現・理解などのコミュニケーション能力を身につけている。自分の立場・気持ち・意見を明確に説明することができるだけでなく、相手の立場・気持ち・意見にも配慮することができ、さまざまな人々と協働して課題・問題に取り組むことができる。</p>
5. 自立的で意欲的な態度	<p>社会科学の諸領域の学修で培った、先入観や偏見にとらわれない知識と態度を積極的に生かして目標を立て、その実現のために自分の果たすべき役割と責任を自覚できる能力を身につけている。社会・集団の中で意欲的にかかわろうとする態度をもち、さらに、他人との相互理解も深めつつ、主体的・能動的にさまざまな課題・問題に取り組むことができる。</p>
6. 倫理観・規範性	<p>建学の精神にもとづいて、豊かな人間性と高い倫理観を備え、自分の良心にのっとり社会のルールを遵守して行動できる能力を身につけている。他人のリアリティを理解し尊重しようとする姿勢をもつと同時に、自分にとっての正しさと他人や社会にとっての正しさをそれぞれ相対化することができ、社会生活において倫理的な実践をすることができる。</p>

奈良大学の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）（CP）

奈良大学では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するために、次の通り教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を定めている。

文学部

「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）を達成するために、各学科に「基幹科目」、「外国語科目」、「健康・スポーツ科目」、「情報科目」、「キャリア科目」の5科目群を設ける。

各科目は、学修段階に応じ各学年に配当し、講義形式、演習形式、実習形式等、各科目の特性に応じた形式により、学生の主体的かつ能動的な学修となるよう留意して授業を実施する。

学修成果の評価は、各科目の特性に応じて公正かつ厳格に実施する。

国文学科

科目群		概要
基幹科目	必修科目	専門領域を学びつつ、社会的汎用能力を身につける。
		学問と社会 学問と社会の関わりを意識する。
		基礎演習 大学での「学びの技法」（スタディ・スキルズ）を身につける。
		演習 学年ごとに学び合う少人数クラスが設定されており、学びの過程を経るごとに古典文学、近現代文学、日本語の各領域に対する知見を深めることができる。課題に関する議論を通じて、客観的で多角的な問題意識とともに、他者に対する共感的な感覚や態度を養う。
		卒業論文 古典文学、近現代文学、日本語を基軸とし、そこにこれまでの学びを通じて得た歴史、芸能、出版、メディア表現など、周辺の文化領域に関する知識を援用することで、学際的かつ独創的な視点を持った論文を作成することを旨とする。
	その他、専門領域の学びに必須の科目 上代から近現代までの文学史を系統的に把握するとともに、歴史・芸能・出版・メディアなど、国文学に隣接する文化事象との影響関係についても学ぶことで、文学に関する広範な知識とそれを運用する技能を養う。	
	選択科目	A群 上代から近現代に至る日本の文学、古典・近現代の国語学、さらにはその隣接分野である中国文学に関する基礎的な知識を習得する。また各分野を相互に関連づけることで、国文学に関する体系的理解を図る。
		B群 各時代の文学における韻文・散文の特質、方言をはじめとする日本語の多様な局面、さらには文学を支える書物やメディアなど、国文学の各領域に関する個別的専門的な知識を習得し、各自の問題意識を深化させることを旨とする。
		C群 実地踏査や資料調査、演劇鑑賞や身体表現、編集実技といった実践的な学びを通じて、日本文化に対する幅広い感性や実際の文化の担い手となる技量を養うとともに、それらを社会に還元する手法を身につける。
		D群 日本語教育論、言語情報処理論、中国文学講読、書道、実地見学踏査、伝統芸能鑑賞、身体表現実習、資料調査実習、文芸創作実習、書物出版学実習、編集実習
外国語科目	学科教育に関連する人文、社会、自然にまたがる幅広い知識や教養を身につける。	
健康・スポーツ科目	哲学・思想、宗教学、倫理学、日本史、外国史、文学、心理学、社会学、教育学、文化人類学、現代史、民俗学、政治学、法学、日本国憲法、地理学、地誌学、経済学、生物進化学、生態学、情報学、人間学、考古学、美術史、差別・人権問題論、奈良文化論、国際関係論、現代社会と法、自然の保護、環境科学、経営学、販売管理論、海外研修、プロジェクト	
情報科目	グローバル化に対応し、学びを深めるために、英語科目を必修とするとともに、興味関心に応じてドイツ語、フランス語、中国語、韓国語を学ぶ。 また、外国人留学生のために外国語としての日本語を学修する科目も設置されている。	
キャリア科目	オーラルコミュニケーション初級、実践英語初級、英語読解初級、オーラルコミュニケーション中級、実践英語中級、英語読解中級、上級英語、ドイツ語初級、ドイツ語中級、フランス語初級、フランス語中級、中国語初級、中国語中級、韓国語初級、韓国語中級、日本語	
健康・スポーツ科目	身体運動の理解を深め、健康について生理学的に把握し、生涯を通じて自らの健康を管理・改善することを目的とする。	
情報科目	情報機器を用いた技術のみならず、高度情報社会における諸問題に対応できる能力を身につける。	
キャリア科目	卒業後の将来を考え、進路実現に向けた計画を立案し、実行する能力を身につける。	
健康・スポーツ科目	スポーツ実技、健康科学	
情報科目	情報倫理、情報リテラシー、コンピュータ基礎論、情報処理、画像編集、動画編集、プログラミング基礎、データベース論、データ分析法、Webプログラミング	
キャリア科目	キャリアデザイン、インターンシップ概論、インターンシップ実習、生涯学習概論	

史学科

科目群		概要	
		専門領域を学びつつ、社会的汎用能力を身につけるため。	
基幹科目	必修科目	<p>学問と社会</p> <p>学問と社会</p>	
		<p>基礎演習</p> <p>基礎演習</p>	
		<p>演習</p> <p>史学演習</p>	
		<p>卒業論文</p> <p>卒業論文</p>	
		<p>その他、専門領域の 学びに必須の科目</p> <p>歴史学という学問の基本的な作法を身につけるとともに、日本史と世界史の各時代、各地域に関する基礎的な史実を修得する。また、さまざまな種類の史料に幅広く接することで、史料の基礎的な扱い方を修得するとともに、自分の力で史料を調査し、多角的に分析、評価できる力を身につける。</p> <p>史学研究法、日本史概論、東洋史概論、西洋史概論、史料講読</p>	
	選択科目	A群	<p>日本史と世界史のさまざまな時代、地域、分野に関する基礎的な先行研究、および最新の研究動向と水準を幅広く修得し、歴史には多様な見方と評価方法があることを理解する。</p> <p>国際交流史基礎講義、日本史基礎講義、東洋史基礎講義、西洋史基礎講義</p>
		B群	<p>A群の基礎講義以上に、日本史と世界史のさまざまな時代、地域、分野に関する最新の研究動向と水準を修得し、歴史を多角的にとらえる力を身につけ、自らの拠って立つべき歴史観を構築する。</p> <p>国際交流史特殊講義、日本史特殊講義、東洋史特殊講義、西洋史特殊講義</p>
		C群	<p>日本史と世界史のさまざまな時代、地域に関する史料の実物やレプリカに触れ、それらの扱い方や整理・保存方法を修得する。また、実物やレプリカの史料を扱えばこそ可能となる研究手法を理解する。</p> <p>史料研究</p>
		D群	<p>学科教育に関連する人文、社会、自然にまたがる幅広い知識や教養を身につける。</p> <p>哲学・思想、宗教学、倫理学、文学、心理学、社会学、教育学、文化人類学、現代史、民俗学、政治学、法学、日本国憲法、地理学、地誌学、経済学、生物進化学、生態学、情報学、人間学、考古学、美術史、差別・人権問題論、奈良文化論、国際関係論、現代社会と法、自然の保護、環境科学、言語学、経営学、販売管理論、メディア学、人と防災、世界の人口問題、比較文化論、海外研修、プロジェクト</p>
	外国語科目	<p>グローバル化に対応し、学びを深めるために、英語科目を必修とするとともに、興味関心に応じてドイツ語、フランス語、中国語、韓国語を学ぶ。</p> <p>また、外国人留学生のために外国語としての日本語を学修する科目も設置されている。</p> <p>オーラルコミュニケーション初級、実践英語初級、英語読解初級、オーラルコミュニケーション中級、実践英語中級、英語読解中級、上級英語、ドイツ語初級、ドイツ語中級、フランス語初級、フランス語中級、中国語初級、中国語中級、韓国語初級、韓国語中級、日本語</p>	
健康・スポーツ科目	<p>身体運動の理解を深め、健康について生理学的に把握し、生涯を通じて自らの健康を管理・改善することを目的とする。</p> <p>スポーツ実技、健康科学</p>		
情報科目	<p>情報機器を用いた技術のみならず、高度情報社会における諸問題に対応できる能力を身につける。</p> <p>情報倫理、情報リテラシー、コンピュータ基礎論、情報処理、画像編集、動画編集、プログラミング基礎データベース論、データ分析法</p>		
キャリア科目	<p>卒業後の将来を考え、進路実現に向けた計画を立案し、実行する能力を身につける。</p> <p>キャリアデザイン、インターンシップ概論、インターンシップ実習、生涯学習概論</p>		

地理学科

科目群		概要
		専門領域を学びつつ、社会的汎用能力を身につける。
基幹科目	必修科目	学問と社会 学問と社会
		基礎演習 基礎演習
		演習 現代社会における地理学の役割について考えるとともに、地理学研究を行うための基礎的技術の習得と実践を行う。 地理学講読・調査法、地理学分析・表現法、地理学地域調査演習、地理学演習
		卒業論文 ゼミ教員から指導をうけ、的確な地図や図表を用いて地理学に関する卒業論文を作成する。卒業論文は、問題の所在の把握、段落や文章の構成、参考文献を理解した上でルールに沿ってまとめ、論理的な文章とする。 卒業論文
		その他、専門領域の学びに必須の科目 地理学の基礎的技法として古地図を含む空間情報の扱い方を理解するとともに、地理情報システム（GIS）など、地理学と関わりのある最新技術の利活用の方法を知る。また、調査・巡検を通して地域に関する情報を収集する方法について理解する。 地理学入門、地理学実習、人文地理学、自然地理学、地誌学、地図学基礎
	選択科目	A群 系統地理学的に地理学全体を概観できるようにする。日本および世界における地誌地域の文化・特性を理解できるようにする。人文社会科学と自然科学の融合である地理学を環境を通してみるができるようにする。 日本地誌概論、世界地誌概論、測量学概論、地理情報科学概論、計量地理学概論、環境地理学概論
		B群 幅広いニーズに合わせた多数の講義が開講されている。地域創生コース、歴史・文化コース、地域環境・防災コース、データサイエンスコースの4分野について、意欲的に学ぶことにより、多面的な知識とそれらを活用する能力を養成する。 都市地理学、経済地理学、村落地理学、歴史地理学、観光・交通地理学、人口地理学、地形学、気候学、水文学、災害地理学、地理学特殊講義
		C群 地理学の基礎的技法として、地図・空中写真・地理情報データの扱いを学ぶ。また、リモートセンシングやデータベースなど、より専門的な技法を習得し、地域に関する情報を自ら収集し、共有できるようにする。 測量技法、応用地図技法、フィールドワーク技法、リモートセンシング技法、GISデータ分析技法、GISマネジメント技法、GISプログラミング技法、海外巡検
		D群 学科教育に関連する人文、社会、自然にまたがる幅広い知識や教養を身につける。 哲学・思想、宗教学、倫理学、日本史、外国史、文学、心理学、社会学、教育学、文化人類学、現代史、民俗学、政治学、法学、日本国憲法、経済学、生物進化学、生態学、情報学、人間学、考古学、美術史、差別・人権問題論、奈良文化論、国際関係論、現代社会と法、自然の保護、環境科学、言語学、経営学、メディア学、数学、化学、物理学、比較文化論、販売管理論、海外研修、プロジェクト
	外国語科目	グローバル化に対応し、学びを深めるために、英語科目を必修とするとともに、興味関心に応じてドイツ語、フランス語、中国語、韓国語を学ぶ。 また、外国人留学生のために外国語としての日本語を学修する科目も設置されている。 オーラルコミュニケーション初級、実践英語初級、英語読解初級、オーラルコミュニケーション中級、実践英語中級、英語読解中級、上級英語、ドイツ語初級、ドイツ語中級、フランス語初級、フランス語中級、中国語初級、中国語中級、韓国語初級、韓国語中級、日本語
健康・スポーツ科目	身体運動の理解を深め、健康について生理学的に把握し、生涯を通じて自らの健康を管理・改善することを目的とする。 スポーツ実技、健康科学	
情報科目	情報機器を用いた技術のみならず、高度情報社会における諸問題に対応できる能力を身につける。 情報倫理、情報リテラシー、コンピュータ基礎論、情報処理、画像編集、動画編集、プログラミング基礎、データ分析法、Webプログラミング	
キャリア科目	卒業後の将来を考え、進路実現に向けた計画を立案し、実行する能力を身につける。 キャリアデザイン、インターンシップ概論、インターンシップ実習、生涯学習概論	

文化財学科

科目群		概要	
基幹科目		専門領域を学びつつ、社会的汎用能力を身につける。	
	必修科目	学問と社会	学問と社会の関わりを意識する。 学問と社会
		基礎演習	大学での「学びの技法」(スタディ・スキルズ)を身につける。 基礎演習
		演習	考古学、美術史、史科学、および保存科学の専門的研究を進め、卒業論文として成果をまとめる。報告を重ねるとともに、自らの考えをわかりやすく伝え、他者と議論する力を身につける。 文化財演習、考古学演習、美術史演習、史科学演習、保存科学演習
		卒業論文	自らのテーマに関する研究史や先行研究を十分に踏まえた上で、自らの課題解決に向けて筋道を立て、計画性のある十分な調査研究を行い、その成果を整理して、担当教員との綿密な相談も経ながら卒業論文を作成する。 卒業論文
		その他、専門領域の学びに必須の科目	考古学、美術史、史科学、保存科学の専門的研究を進めるにあたり、講読や実習によって基礎的な調査方法や研究方法を修得する。講読では基本的な文献の読み方や解釈方法を学び、実習では技術や観察方法を体得する。 文化財学研究法、考古学講読、美術史講読、史科学講読、保存科学講読、考古学実習、美術史実習、保存科学実習
	選択科目	A群	考古学、美術史、史科学、保存科学など主な専門分野を概観し、従来の研究成果にもとづき基礎的かつ必須の事項を学ぶ。文化財の種類・研究分野および文化財保護についての必須事項を確認し、基礎的な調査研究法を修得する。 考古学概論、美術史概論、史科学概論、保存科学概論
		B群	考古学、美術史、史科学、保存科学の特殊講義で専門的研究を学び、各分野の研究手法やその成果について深く学習する。自ら研究する卒業論文の調査方法や研究方法の参考にし、研究を深める。 考古学特殊講義、美術史特殊講義、史科学特殊講義、保存科学特殊講義
		C群	考古学、美術史、史科学、保存科学および世界遺産学等の各分野とその周辺分野におけるさまざまな研究視野にもとづく専門的知識を学び、自らの研究の方向と課題発見・解決の力を身につけるとともに研究の深化をめざす。 文化財情報学、文化財修景学、文化財分析学、文化財環境学、文化財修復学、考古学研究法、先史考古学、歴史考古学、仏教考古学、世界考古学、東洋美術史、日本彫刻史、日本絵画史、工芸史、文献史科学、宗教文化史、世界遺産学、建築史
		D群	学科教育に関連する人文、社会、自然にまたがる幅広い知識や教養を身につける。 哲学・思想、宗教学、倫理学、日本史、外国史、文学、心理学、社会学、教育学、文化人類学、現代史、民俗学、政治学、法学、日本国憲法、地理学、地誌学、経済学、情報学、人間学、差別・人権問題論、奈良文化論、国際関係論、現代社会と法、自然の保護、環境科学、言語学、経営学、販売管理論、メディア学、人と防災、世界の人口問題、比較文化論、海外研修、プロジェクト
外国語科目	グローバル化に対応し、学びを深めるために、英語科目を必修とするとともに、興味関心に応じてドイツ語、フランス語、中国語、韓国語を学ぶ。 また、外国人留学生のために外国語としての日本語を学修する科目も設置されている。 オーラルコミュニケーション初級、実践英語初級、英語読解初級、オーラルコミュニケーション中級、実践英語中級、英語読解中級、上級英語、ドイツ語初級、ドイツ語中級、フランス語初級、フランス語中級、中国語初級、中国語中級、韓国語初級、韓国語中級、日本語		
健康・スポーツ科目	身体運動の理解を深め、健康について生理学的に把握し、生涯を通じて自らの健康を管理・改善することを目的とする。 スポーツ実技、健康科学		
情報科目	情報機器を用いた技術のみならず、高度情報社会における諸問題に対応できる能力を身につける。 情報倫理、情報リテラシー、コンピュータ基礎論、情報処理、画像編集、動画編集、プログラミング基礎、データベース論、データ分析法		
キャリア科目	卒業後の将来を考え、進路実現に向けた計画を立案し、実行する能力を身につける。 キャリアデザイン、インターンシップ概論、インターンシップ実習、生涯学習概論		

社会学部

「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)を達成するために、各学科に「基幹科目」、「外国語科目」、「健康・スポーツ科目」、「情報科目」、「キャリア科目」の5科目群を設ける。

各科目は、学修段階に応じ各学年に配当し、講義形式、演習形式、実験実習形式等、各科目の特性に応じた形式により、学生の主体的かつ能動的な学修となるよう留意して授業を実施する。

学修成果の評価は、各科目の特性に応じて公正かつ厳格に実施する。

心理学科

科目群		概要
		専門領域を学びつつ、社会的汎用能力を身につける。
基幹科目	学問と社会	学問と社会の関わりを意識する。 学問と社会
	基礎演習	大学での「学びの技法」(スタディ・スキルズ)を身につける。 基礎演習
	演習	4学期にわたる段階的な学びにより、心理学における知識、技法、思考法、表現法を習得し、卒業論文作成に必要な探求能力を培う。また、対人関係や社会における問題を心理学的に捉えて研究課題を構築する能力を育成する。 臨床心理学演習、社会心理学演習
	卒業論文	大学の学びを通じて身につけた能力を総合的に発揮し、先行研究を踏まえた上で、自らの関心にもとづいて問題の発見、検証方法の策定、事例やデータの収集、結果の分析や解釈を行い、その成果として卒業論文を完成させる。 卒業論文
	その他、専門領域の学びに必須の科目	心理学、臨床心理学、社会心理学の概論に関する講義科目、及び心理学研究で用いる基礎的な実習科目を配置する。講義科目においては、より専門性の高い科目を履修する基幹となる概念や考え方の習得を目指す。実習科目においては、心の働きを検討する方法論の修得やデータ解析法、研究成果報告の技法の習得を目指す。 心理学概論、社会心理学概論、臨床心理学概論、心理学研究法、心理学統計法Ⅰ、心理学実験、臨床心理学基礎実習、社会心理学基礎実習
	A群	臨床心理学と社会心理学を中心に、広く心理学の諸領域にわたる講義科目を配置する。それらを履修することで、心の問題の発見とケア、組織や社会における特有の人間行動など、多様な問題を有機的につなげる力を身につける。 知覚・認知心理学、学習・言語心理学、神経・生理心理学、発達心理学、教育・学校心理学、社会・集団・家族心理学、応用社会心理学、感情・人格心理学
	B群	臨床心理学と社会心理学を中心に、特定の領域について深く掘り下げる講義科目、及び領域横断的な講義科目を配置する。概論的な講義科目の履修を前提に、各分野の専門的な知識を身につけるとともに、卒業研究に向けて多角的な研究視点の獲得を目指す。 青年心理学、進化心理学、応用心理学、集団力学、対人社会心理学、産業・組織心理学、文化心理学、障害者・障害児心理学、福祉心理学、心理学的支援法、司法・犯罪心理学、健康・医療心理学、精神疾患とその治療、人体の構造と機能及び疾病、臨床心理学特殊講義、社会心理学特殊講義
	C群	心理学研究で用いる多様な方法論の実習科目を配置する。対象者との関係構築の技法や研究課題の設定、検証の手順の策定、成果の報告方法について体系的・実践的に学修し、問題を自らの課題として捉え、考察する能力を育成する。 心理学統計法Ⅱ、関係行政論、公認心理師の職責、心理実践演習(心理実習)、心理的アセスメント、心理演習(カウンセリング)、社会心理学実験演習
	D群	学科教育に関連する人文、社会、自然にまたがる幅広い知識や教養を身につける。 哲学・思想、宗教学、倫理学、日本史、外国史、文学、社会学、教育学、文化人類学、現代史、民俗学、政治学、法学、日本国憲法、地理学、地誌学、経済学、生物進化学、生態学、情報学、人間学、考古学、美術史、差別・人権問題論、奈良文化論、国際関係論、現代社会と法、自然の保護、環境科学、言語学、経営学、メディア学、人と防災、世界の人口問題、数学、化学、物理学、販売管理論、海外研修、プロジェクト
	外国語科目	グローバル化に対応し、学びを深めるために、英語科目を必修するとともに、興味関心に応じてドイツ語、フランス語、中国語、韓国語を学ぶ。 また、外国人留学生のために外国語としての日本語を学修する科目も設置されている。 オーラルコミュニケーション初級、実践英語初級、英語読解初級、オーラルコミュニケーション中級、実践英語中級、英語読解中級、上級英語、ドイツ語初級、ドイツ語中級、フランス語初級、フランス語中級、中国語初級、中国語中級、韓国語初級、韓国語中級、日本語
健康・スポーツ科目	身体運動の理解を深め、健康について生理学的に把握し、生涯を通じて自らの健康を管理・改善することを目的とする。 スポーツ実技、健康科学	
情報科目	情報機器を用いた技術のみならず、高度情報社会における諸問題に対応できる能力を身につける。 情報倫理、情報リテラシー、コンピュータ基礎論、情報処理、画像編集、動画編集、プログラミング基礎、データベース論、データ分析法、Webプログラミング	
キャリア科目	卒業後の将来を考え、進路実現に向けた計画を立案し、実行する能力を身につける。 キャリアデザイン、インターンシップ概論、インターンシップ実習、生涯学習概論	

総合社会学科

科目群		概要
		専門領域を学びつつ、社会的汎用能力を身につける。
基幹科目	必修科目	学問と社会 学問と社会
		基礎演習 基礎演習
		演習 4学期にわたる段階的な学びにより、社会科学の思考法・表現方法を習得し、卒業論文作成に必要な探求能力を培う。 演習
		卒業論文 大学の学びを通じて身につけた能力を総合的に発揮し、先行研究を踏まえた上で、自らの関心にもとづいて問題の発見、検証方法の策定、事例やデータの収集、結果の分析や解釈を行い、その成果として卒業論文を完成させる。 卒業論文
		その他、専門領域の学びに必須の科目 現代社会を総合的に理解するために必要とされる社会科学諸領域の基礎的な知識を修得し、上級学年で求められる調査研究を行う上での礎を築く。 社会調査概論、社会学基礎、社会調査法、経済学、社会体験実習
	選択科目	A群 必修科目をふまえ、社会学を中心とした社会科学諸領域の知識を深く得ることにより、現代社会の諸問題を発見し、多様な価値観や社会的現実の存在を理解する。 情報学、政治学、家政学、地域社会学、家族社会学、国際政治学、現代社会と哲学、現代社会と倫理、社会統計学Ⅰ、産業社会学、情報社会学、環境社会学、消費社会学、地域政策学、経済社会学
		B群 卒業論文作成に向け、調査研究を自ら組織するための専門的・応用的知識の習得および実証的なデータの収集と分析能力を身につける。 デジタルアーカイブ概論、文化情報論、国際社会学、ジェンダーとライフコース、産業と技術の発展、消費者行動分析、企業倫理と消費者、組織社会学、地域行政学、開発社会学、災害社会学、サステナビリティ論、人口知能概論、計算社会科学、総合社会学特殊講義
		C群 多様な方法論の実習科目を配置する。対象者との関係構築の技法や研究課題の設定、検証の手順の策定、成果の報告方法について体系的・実践的に学修し、問題を自らの課題として捉え、考察する能力を育成する。 社会統計学Ⅱ、知的財産管理論、量的分析法、質的分析法、プログラミング言語、社会調査実習
		D群 学科教育に関連する人文、社会、自然にまたがる幅広い知識や教養を身につける。 哲学・思想、宗教学、倫理学、日本史、外国史、文学、心理学、教育学、現代史、民俗学、法学、日本国憲法、地理学、地誌学、生物進化学、生態学、考古学、美術史、差別・人権問題論、奈良文化論、自然の保護、環境科学、言語学、メディア学、人と防災、世界の人口問題、数学、化学、物理学、比較文化論、販売管理論、海外研修、プロジェクト
	外国語科目	グローバル化に対応し、学びを深めるために、英語科目を必修とするとともに、興味関心に応じてドイツ語、フランス語、中国語、韓国語を学ぶ。 また、外国人留学生のために外国語としての日本語を学修する科目も設置されている。 オーラルコミュニケーション初級、実践英語初級、英語読解初級、オーラルコミュニケーション中級、実践英語中級、英語読解中級、上級英語、ドイツ語初級、ドイツ語中級、フランス語初級、フランス語中級、中国語初級、中国語中級、韓国語初級、韓国語中級、日本語
健康・スポーツ科目	身体運動の理解を深め、健康について生理学的に把握し、生涯を通じて自らの健康を管理・改善することを目的とする。 スポーツ実技、健康科学	
情報科目	情報機器を用いた技術のみならず、高度情報社会における諸問題に対応できる能力を身につける。 情報倫理、情報リテラシー、コンピュータ基礎論、情報処理、画像編集、動画編集、プログラミング基礎、データベース論、データ分析法	
キャリア科目	卒業後の将来を考え、進路実現に向けた計画を立案し、実行する能力を身につける。 キャリアデザイン、インターンシップ概論、インターンシップ実習、生涯学習概論	

奈良大学の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）（AP）

奈良大学では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに定める教育課程を受けるための条件として、次に示す知識、技能、能力、態度、興味、意欲等を有する人を受け入れる。

- AP1（知識と技能）：高等学校で履修する教科・科目を幅広く修得し、大学で学ぶための基礎学力を有する人、もしくは、同等の知識と技能を有する人
- AP2（思考力・判断力と表現力）：人や社会について、知識や情報をもとに筋道を立てて自分の考えをまとめ、論理的・総合的に判断し、それを文章や口頭で表現できる人
- AP3（主体性と協働的態度）：社会的な活動に主体的に、かつ、他者とコミュニケーションをとりながら協働して取り組むことのできる人
- AP4（探究心と応用力）：人類の歴史や社会、人間性を探究する本学での学びに興味を持ち、その学びを社会で活用しようとする意欲を有する人

なお、本学では、受け入れを多面的・総合的に評価するために、上記のアドミッション・ポリシーを各入学制度に応じたかたちで重み付けをし反映させている。

<p>総合型選抜 (AP3、AP4の比率が高い)</p>	<p>建学の精神をふまえて、本学で学ぶことに強い意欲を持つ人を受け入れる。受け入れの判断については、各学科の求める人物像との適合を重視し、各学科が定める多面的で総合的な評価方法（調査書、口頭試問、プレゼンテーション、フィールドワーク、体験講義、レポートなど）を用いる。</p>
<p>学校推薦型選抜 (AP2、AP3の比率が高い)</p>	<p>建学の精神をふまえて、本学で学ぶことに強い意欲を持ち、高等学校で履修する教科・科目を幅広く修得し、大学で学ぶための基礎学力を有する人、もしくは、同等の知識と技能を有する人について、基礎学力試験、小論文、口頭試問、調査書、推薦書などを用いて、多面的・総合的に評価して受け入れる。</p>
<p>一般選抜 【大学入学共通テスト 利用入試含】 (AP1、AP2の比率が高い)</p>	<p>本学で学ぶことに強い意欲を持ち、高等学校で履修する教科・科目を幅広く修得し、大学で学ぶための基礎学力を有する人、もしくは、同等の知識と技能を有する人を、学力試験や大学入学共通テスト、調査書、大学入学希望理由書などを用いて、多面的・総合的に評価して受け入れる。</p>
<p>通信教育部入試 (AP2、AP4の比重が高い)</p>	<p>建学の精神をふまえて、本学で学ぶことに強い意欲を持つ幅広い年代の人を受け入れる。受け入れの判断については、在宅学習が中心の大学通信教育の学習方法を理解し、学ぶ意思を確認する志望理由書により行う。</p>

<文学部国文学科>

高校までの国語の授業をはじめとして、これまでに触れてきた様々な日本の文学・言葉、または文化に対して強い興味や関心を持ち、国文学科の専門的な学びに高い意欲をもって臨む人物を評価します。そのため、国語の知識・語彙力・文章力はもちろんのこと、物事に主体性を持って参画し、他者とのコミュニケーションをとりながら問題解決をはかる力を持つ人を求めます。

<p>学校推薦型選抜前期後期</p>	<p>建学の精神をふまえて、本学で学ぶことに強い意欲を持ち、高等学校で履修する教科・科目を幅広く修得し、大学で学ぶための基礎学力を有する人、もしくは、同等の知識と技能を有する人を求めます。 試験内容は、基礎学力試験、小論文、調査書、推薦書などを用いて、多面的・総合的に評価して受け入れます。</p>
<p>一般選抜</p>	<p>本学で学ぶことに強い意欲を持ち、高等学校で履修する教科・科目を幅広く修得し、大学で学ぶための基礎学力を有する人、もしくは、同等の知識と技能を有する人を求めます。 試験内容は、学力試験や大学入学希望理由書などを用いて、総合的に評価します。</p>
<p>一般選抜（大学入学共通テスト利用入試）</p>	<p>本本学で学ぶことに強い意欲を持ち、高等学校で履修する教科・科目を幅広く修得し、大学で学ぶための基礎学力を有する人、もしくは、同等の知識と技能を有する人を求めます。 試験内容は、大学入学共通テストの成績を用いて評価します。</p>
<p>総合型選抜（AO入試）</p>	<p>建学の精神をふまえて、本学で学ぶことに強い意欲を持つ人を求めます。 試験内容は、学科が定める多面的で総合的な評価方法（調査書、口頭試問、体験講義、小論文、プレゼンテーション）を用いて、求める人物像との適合を重視します。</p>
<p>指定校制推薦入学選考 （奈良大学附属高等学校 特別推薦入学選考含む）</p>	<p>高等学校から推薦のあった人で、本学への明確な志向と熱意を有しており、建学の精神をふまえて本学で学ぶことに強い意欲を持ち、それにふさわしい能力を有する人を求めます。 選考内容は、口頭試問・提出書類等で評価します。</p>
<p>奈良大学校友特別推薦</p>	<p>卒業生・在校生保護者から推薦のあった人で、本学への明確な志向と熱意を有しており、建学の精神をふまえて本学で学ぶことに強い意欲を持ち、それにふさわしい能力を有する人を求めます。 選考内容は、口頭試問・提出書類等で評価します。</p>
<p>専門高校、専門学科・総合学科対象入試</p>	<p>本学で学ぶことに強い意欲を持ち、専門高校・専門学科・総合学科の卒業生（卒業見込者も含む）を対象にした入試で、高等学校での専門教育を主とする学科、または総合学科での学びをふまえて、本学での専門的な学びに意欲のある人を求めます。 試験内容は、提示するテーマに関する小論文と口頭試問、調査書等で評価します。</p>
<p>芸術入試</p>	<p>本学で学ぶことに強い意欲を持ち、これまでに芸術、文化活動に取り組んできた人で、入学後は国文学科において文学・言語・文化の伝統を学び、各自の芸術活動、芸術表現に結び付ける研究ができる意欲のある人を求めます。 試験内容は、提示するテーマに関する小論文と口頭試問、調査書等で評価します。</p>

外国人留学生入試	本学で学びえた能力を生かして、国内外で国際的に活躍することを志す外国人学生を求めます。 試験内容は、提示するテーマに関する小論文と口頭試問等です。併せて、日本留学試験の日本語の部分を点数化して評価します。
編入学試験	本学で学ぶことに強い意欲を持ち、国文学科での専門教育に必要とされる専門分野の知識・学力を有した人を求めます。 試験内容は、提示するテーマに関する小論文、口頭試問、活動報告書、大学入学希望理由書等で評価します。
社会人入試	本学で学ぶことに強い意欲を持ち、生涯を通じて学問を深めたい社会人で、国文学科で必要とされる専門分野の基礎的な知識・学力を有する人を求めます。 試験内容は、提示するテーマに関する小論文、口頭試問、活動報告書、大学入学希望理由書等で評価します。
社会人編入学試験	本学で学ぶことに強い意欲を持ち、国文学科での専門教育に必要とされる専門分野の知識・学力を有した社会人を求めます。 試験内容は、提示するテーマに関する小論文、口頭試問、活動報告書、大学入学希望理由書等で評価します。

<文学部国文学科>

入試区分	AP1 (知識と技能)	AP2 (思考力・判断力と表現力)	AP3 (主体性と協働的態度)	AP4 (探究心と応用力)
学校推薦型選抜前期後期	○	◎	◎	○
一般選抜	◎	◎	△※	△※
一般選抜（大学入学共通テスト利用入試）	◎	◎	-	-
総合型選抜（AO入試）	○	◎	○	◎
指定校制推薦入学選考（附属高等学校特別推薦入学選考含む）	○	○	◎	○
奈良大学校友特別推薦	○	○	◎	○
専門高校、専門学科・総合学科対象入試	○	◎	◎	○
芸術入試	○	◎	◎	○
外国人留学生入試	○	◎	○	○
編入学試験	○	◎	○	○
社会人入試	○	◎	○	○
社会人編入学試験	○	◎	○	○

※一般選抜のAP3・AP4の△は、一部の試験で評価します。

<文学部史学科>

史学科では、日本史または世界史に関する一定以上の基礎学力を有していること、史料やデータから史実を導き出し史実と史実の相互関係を論理的に説明できること、歴史上の諸問題について他者と建設的な議論ができること、時代や国・地域を問わず歴史上の幅広いテーマに関心を持ち、過去と現在の関係を考え抜こうとする意欲を有していることを評価します。以上の条件を基準に、歴史学に強い関心を有する人を求めます。

<p>学校推薦型選抜前期後期</p>	<p>建学の精神をふまえて、本学で学ぶことに強い意欲を持ち、高等学校で履修する教科・科目を幅広く修得し、大学で学ぶための基礎学力を有する人、もしくは、同等の知識と技能を有する人を求めます。 試験内容は、基礎学力試験、小論文、調査書、推薦書などを用いて、多面的・総合的に評価して受け入れます。</p>
<p>一般選抜</p>	<p>本学で学ぶことに強い意欲を持ち、高等学校で履修する教科・科目を幅広く修得し、大学で学ぶための基礎学力を有する人、もしくは、同等の知識と技能を有する人を求めます。 試験内容は、学力試験や大学入学希望理由書などを用いて、総合的に評価します。</p>
<p>一般選抜（大学入学共通テスト利用入試）</p>	<p>本学で学ぶことに強い意欲を持ち、高等学校で履修する教科・科目を幅広く修得し、大学で学ぶための基礎学力を有する人、もしくは、同等の知識と技能を有する人を求めます。 試験内容は、大学入学共通テストの成績を用いて評価します。</p>
<p>総合型選抜（AO入試）</p>	<p>建学の精神をふまえて、本学で学ぶことに強い意欲を持つ人を求めます。 試験内容は、学科が定める多面的で総合的な評価方法（調査書、口頭試問、プレゼンテーション）を用いて、求める人物像との適合を重視します。</p>
<p>指定校制推薦入学選考 （奈良大学附属高等学校 特別推薦入学選考含む）</p>	<p>高等学校から推薦のあった人で、本学への明確な志向と熱意を有しており、建学の精神をふまえて本学で学ぶことに強い意欲を持ち、それにふさわしい能力を有する人を求めます。 選考内容は、口頭試問・提出書類等で評価します。</p>
<p>奈良大学校友特別推薦</p>	<p>卒業生・在校生保護者から推薦のあった人で、本学への明確な志向と熱意を有しており、建学の精神をふまえて本学で学ぶことに強い意欲を持ち、それにふさわしい能力を有する人を求めます。 選考内容は、口頭試問・提出書類等で評価します。</p>
<p>外国人留学生入試</p>	<p>本学で学べた能力を生かして、国内外で国際的に活躍することを志す外国人学生を求めます。 試験内容は、提示するテーマに関する小論文と口頭試問等です。併せて、日本留学試験の日本語の部分点数化して評価します。</p>
<p>編入学試験</p>	<p>本学で学ぶことに強い意欲を持ち、史学科での専門教育に必要とされる専門分野の知識・学力を有した人を求めます。 試験内容は、専門、口頭試問、活動報告書、大学入学希望理由書等で評価します。</p>

社会人入試	本学で学ぶことに強い意欲を持ち、生涯を通じて学問を深めたい社会人で、史学科で必要とされる専門分野の基礎的な知識・学力を有する人を求めます。試験内容は、提示するテーマに関する小論文、口頭試問、活動報告書、大学入学希望理由書等で評価します。
社会人編入学試験	本学で学ぶことに強い意欲を持ち、史学科での専門教育に必要とされる専門分野の知識・学力を有した社会人を求めます。試験内容は、提示するテーマに関する小論文、口頭試問、活動報告書、大学入学希望理由書等で評価します。

<文学部史学科>

入試区分	AP1 (知識と技能)	AP2 (思考力・判断力と表現力)	AP3 (主体性と協働的態度)	AP4 (探究心と応用力)
学校推薦型選抜前期後期	◎	◎	◎	○
一般選抜	◎	◎	△※	△※
一般選抜（大学入学共通テスト利用入試）	◎	◎	-	-
総合型選抜（AO入試）	◎	◎	◎	◎
指定校制推薦入学選考（附属高等学校特別推薦入学選考含む）	◎	○	◎	◎
奈良大学校友特別推薦	◎	○	◎	◎
外国人留学生入試	◎	◎	○	◎
編入学試験	◎	◎	○	◎
社会人入試	◎	◎	○	◎
社会人編入学試験	◎	◎	○	◎

※一般選抜の AP3・AP4 の△は、一部の試験で評価します。

<文学部地理学科>

文系・理系を問わず、フィールドワークを通じて、地域創生、地球環境、防災、歴史、文化など、幅広い分野に関心を持つことができる人を評価します。また、国内外を問わず旅行が好きな人、地図を見ながら歩くのが好きな人、地域創生や防災に関わりたいと考えている人、コンピュータによるデータ分析に興味のある人を求めます。

<p>学校推薦型選抜前期後期</p>	<p>建学の精神をふまえて、本学で学ぶことに強い意欲を持ち、高等学校で履修する教科・科目を幅広く修得し、大学で学ぶための基礎学力を有する人、もしくは、同等の知識と技能を有する人を求めます。 試験内容は、基礎学力試験、小論文、調査書、推薦書などを用いて、多面的・総合的に評価して受け入れます。</p>
<p>一般選抜</p>	<p>本学で学ぶことに強い意欲を持ち、高等学校で履修する教科・科目を幅広く修得し、大学で学ぶための基礎学力を有する人、もしくは、同等の知識と技能を有する人を求めます。 試験内容は、学力試験や大学入学希望理由書などを用いて、総合的に評価します。</p>
<p>一般選抜（大学入学共通テスト利用入試）</p>	<p>本学で学ぶことに強い意欲を持ち、高等学校で履修する教科・科目を幅広く修得し、大学で学ぶための基礎学力を有する人、もしくは、同等の知識と技能を有する人を求めます。 試験内容は、大学入学共通テストの成績を用いて評価します。</p>
<p>総合型選抜（AO入試）</p>	<p>建学の精神をふまえて、本学で学ぶことに強い意欲を持つ人を求めます。 試験内容は、学科が定める多面的で総合的な評価方法（調査書、口頭試問、プレゼンテーション、フィールドワーク、レポートなど）を用いて、求める人物像との適合を重視します。</p>
<p>指定校制推薦入学選考（奈良大学附属高等学校特別推薦入学選考含む）</p>	<p>高等学校から推薦のあった人で、本学への明確な志向と熱意を有しており、建学の精神をふまえて本学で学ぶことに強い意欲を持ち、それにふさわしい能力を有する人を求めます。 選考内容は、口頭試問・提出書類等で評価します。</p>
<p>奈良大学校友特別推薦</p>	<p>卒業生・在校生保護者から推薦のあった人で、本学への明確な志向と熱意を有しており、建学の精神をふまえて本学で学ぶことに強い意欲を持ち、それにふさわしい能力を有する人を求めます。 選考内容は、口頭試問・提出書類等で評価します。</p>
<p>専門高校、専門学科・総合学科対象入試</p>	<p>本学で学ぶことに強い意欲を持ち、専門高校・専門学科・総合学科の卒業生（卒業見込者も含む）を対象にした入試で、高等学校での専門教育を主とする学科、または総合学科での学びをふまえて、本学での専門的な学びに意欲のある人を求めます。 試験内容は、提示するテーマに関する小論文と口頭試問、調査書等で評価します。</p>
<p>地域貢献入試</p>	<p>本学で学ぶことに強い意欲を持ち、これまでの学習や当該地域での経験をふまえて培われた「地域へ貢献」する意識があり、地域の課題に自ら積極的に取り組み、本学での学びの中でさらに地域貢献へのスキル、活用法を学ぶ意欲をもった人を求めます。 試験内容は、提示するテーマに関する小論文と口頭試問、調査書等で評価します。</p>

外国人留学生入試	本学で学びえた能力を生かして、国内外で国際的に活躍することを志す外国人学生を求めます。 試験内容は、提示するテーマに関する小論文と口頭試問等です。併せて、日本留学試験の日本語の部分を点数化して評価します。
編入学試験	本学で学ぶことに強い意欲を持ち、地理学科での専門教育に必要とされる専門分野の知識・学力を有した人を求めます。 試験内容は、専門、英語、口頭試問、活動報告書、大学入学希望理由書等で評価します。
社会人入試	本本学で学ぶことに強い意欲を持ち、生涯を通じて学問を深めたい社会人で、地理学科で必要とされる専門分野の基礎的な知識・学力を有する人を求めます。 試験内容は、提示するテーマに関する小論文、口頭試問、活動報告書、大学入学希望理由書等で評価します。
社会人編入学試験	本学で学ぶことに強い意欲を持ち、地理学科での専門教育に必要とされる専門分野の知識・学力を有した社会人を求めます。 試験内容は、提示するテーマに関する小論文、口頭試問、活動報告書、大学入学希望理由書等で評価します。

<文学部地理学科>

入試区分	AP1 (知識と技能)	AP2 (思考力・判断力と表現力)	AP3 (主体性と協働的態度)	AP4 (探究心と応用力)
学校推薦型選抜前期後期	○	◎	◎	○
一般選抜	◎	◎	△※	△※
一般選抜（大学入学共通テスト利用入試）	◎	◎	-	-
総合型選抜（AO入試）	○	◎	◎	◎
指定校制推薦入学選考（附属高等学校特別推薦入学選考含む）	○	○	◎	○
奈良大学校友特別推薦	○	○	◎	○
専門高校、専門学科・総合学科対象入試	○	◎	◎	○
地域貢献入試	○	◎	◎	○
外国人留学生入試	○	◎	○	○
編入学試験	○	◎	○	○
社会人入試	○	◎	○	○
社会人編入学試験	○	◎	○	○

※一般選抜のAP3・AP4の△は、一部の試験で評価します。

<文学部文化財学科>

文化財に強い関心があり、考古学・美術史学・史科学・保存科学などを学んでさまざまな形で文化財の研究・保存・活用に取り組む意欲のある人を評価します。また、教室で教わる文化財学だけに満足せず、自ら史跡を訪れ、文化財に向き合い、調査し、考察するという、本学科が重視する「現地現物主義」の学問を志す人を求めます。

<p>学校推薦型選抜前期後期</p>	<p>建学の精神をふまえて、本学で学ぶことに強い意欲を持ち、高等学校で履修する教科・科目を幅広く修得し、大学で学ぶための基礎学力を有する人、もしくは、同等の知識と技能を有する人を求めます。 試験内容は、基礎学力試験、小論文、調査書、推薦書などを用いて、多面的・総合的に評価して受け入れます。</p>
<p>一般選抜</p>	<p>本学で学ぶことに強い意欲を持ち、高等学校で履修する教科・科目を幅広く修得し、大学で学ぶための基礎学力を有する人、もしくは、同等の知識と技能を有する人を求めます。 試験内容は、学力試験や大学入学希望理由書などを用いて、総合的に評価します。</p>
<p>一般選抜（大学入学共通テスト利用入試）</p>	<p>本学で学ぶことに強い意欲を持ち、高等学校で履修する教科・科目を幅広く修得し、大学で学ぶための基礎学力を有する人、もしくは、同等の知識と技能を有する人を求めます。 試験内容は、大学入学共通テストの成績を用いて評価します。</p>
<p>総合型選抜（AO入試）</p>	<p>建学の精神をふまえて、本学で学ぶことに強い意欲を持つ人を求めます。 試験内容は、学科が定める多面的で総合的な評価方法（調査書、口頭試問、プレゼンテーション、フィールドワーク、レポートなど）を用いて、求める人物像との適合を重視します。</p>
<p>指定校制推薦入学選考（奈良大学附属高等学校特別推薦入学選考含む）</p>	<p>高等学校から推薦のあった人で、本学への明確な志向と熱意を有しており、建学の精神をふまえて本学で学ぶことに強い意欲を持ち、それにふさわしい能力を有する人を求めます。 選考内容は、口頭試問・提出書類等で評価します。</p>
<p>奈良大学校友特別推薦</p>	<p>卒業生・在校生保護者から推薦のあった人で、本学への明確な志向と熱意を有しており、建学の精神をふまえて本学で学ぶことに強い意欲を持ち、それにふさわしい能力を有する人を求めます。 選考内容は、口頭試問・提出書類等で評価します。</p>
<p>外国人留学生入試</p>	<p>本学で学べた能力を生かして、国内外で国際的に活躍することを志す外国人学生を求めます。 試験内容は、提示するテーマに関する小論文と口頭試問等です。併せて、日本留学試験の日本語の部分点数化して評価します。</p>
<p>編入学試験</p>	<p>本学で学ぶことに強い意欲を持ち、文化財学科での専門教育に必要とされる専門分野の知識・学力を有した人を求めます。 試験内容は、専門、英語、口頭試問、活動報告書、大学入学希望理由書等で評価します。</p>

社会人入試	<p>本学で学ぶことに強い意欲を持ち、生涯を通じて学問を深めたい社会人で、文化財学科で必要とされる専門分野の基礎的な知識・学力を有する人を求めます。</p> <p>試験内容は、提示するテーマに関する小論文、英語、口頭試問、活動報告書、大学入学希望理由書等で評価します。</p>
社会人編入学試験	<p>本学で学ぶことに強い意欲を持ち、文化財学科での専門教育に必要とされる専門分野の知識・学力を有した社会人を求めます。</p> <p>試験内容は、専門、英語、口頭試問、活動報告書、大学入学希望理由書等で評価します。</p>

<文学部文化財学科>

入試区分	AP1 (知識と技能)	AP2 (思考力・判断力と表現力)	AP3 (主体性と協働的態度)	AP4 (探究心と応用力)
学校推薦型選抜前期後期	○	◎	◎	○
一般選抜	◎	◎	△※	△※
一般選抜（大学入学共通テスト利用入試）	◎	◎	-	-
総合型選抜（AO入試）	○	◎	◎	◎
指定校制推薦入学選考（附属高等学校特別推薦入学選考含む）	○	○	◎	○
奈良大学校友特別推薦	○	○	◎	○
外国人留学生入試	○	◎	○	○
編入学試験	○	◎	○	○
社会人入試	○	◎	○	○
社会人編入学試験	○	◎	○	○

※一般選抜のAP3・AP4の△は、一部の試験で評価します。

<社会学部心理学科>

心理学での学びは、自分を見つめ、人を思いやり、支えあえる仲間との出会い生活のさまざまなシーンで活用できる心理学領域の知識・技能を幅広く身につけることを目指しています。入学後の学びを通じて、社会に貢献しようとする強い意志のある人、学業、課外活動、社会的活動等に積極的、持続的に取り組む熱意のある人を求めます。

<p>学校推薦型選抜前期後期</p>	<p>建学の精神をふまえて、本学で学ぶことに強い意欲を持ち、高等学校で履修する教科・科目を幅広く修得し、大学で学ぶための基礎学力を有する人、もしくは、同等の知識と技能を有する人を求めます。 試験内容は、基礎学力試験、小論文、調査書、推薦書などを用いて、多面的・総合的に評価して受け入れます。</p>
<p>一般選抜</p>	<p>本学で学ぶことに強い意欲を持ち、高等学校で履修する教科・科目を幅広く修得し、大学で学ぶための基礎学力を有する人、もしくは、同等の知識と技能を有する人を求めます。 試験内容は、学力試験や大学入学希望理由書などを用いて、総合的に評価します。</p>
<p>一般選抜（大学入学共通テスト利用入試）</p>	<p>本学で学ぶことに強い意欲を持ち、高等学校で履修する教科・科目を幅広く修得し、大学で学ぶための基礎学力を有する人、もしくは、同等の知識と技能を有する人を求めます。 試験内容は、大学入学共通テストの成績を用いて評価します。</p>
<p>総合型選抜（AO入試・キャリアAO入試）</p>	<p>建学の精神をふまえて、本学で学ぶことに強い意欲を持つ人を求めます。 試験内容は、学科が定める多面的で総合的な評価方法（調査書、口頭試問、体験講義、レポートなど）を用いて、求める人物像との適合を重視します。</p>
<p>指定校制推薦入学選考（奈良大学附属高等学校特別推薦入学選考含む）</p>	<p>高等学校から推薦のあった人で、本学への明確な志向と熱意を有しており、建学の精神をふまえて本学で学ぶことに強い意欲を持ち、それにふさわしい能力を有する人を求めます。 選考内容は、口頭試問・提出書類等で評価します。</p>
<p>奈良大学校友特別推薦</p>	<p>卒業生・在校生保護者から推薦のあった人で、本学への明確な志向と熱意を有しており、建学の精神をふまえて本学で学ぶことに強い意欲を持ち、それにふさわしい能力を有する人を求めます。 選考内容は、口頭試問・提出書類等で評価します。</p>
<p>専門高校、専門学科・総合学科対象入試</p>	<p>本学で学ぶことに強い意欲を持ち、専門高校・専門学科・総合学科の卒業生（卒業見込者も含む）を対象にした入試で、高等学校での専門教育を主とする学科、または総合学科での学びをふまえて、本学での専門的な学びに意欲のある人を求めます。 試験内容は、提示するテーマに関する小論文と口頭試問、調査書等で評価します。</p>
<p>地域貢献入試</p>	<p>本学で学ぶことに強い意欲を持ち、これまでの学習や当該地域での経験をふまえて培われた「地域へ貢献」する意識があり、地域の課題に自ら積極的に取り組み、本学での学びの中でさらに地域貢献へのスキル、活用法を学ぶ意欲をもった人を求めます。 試験内容は、提示するテーマに関する小論文と口頭試問、調査書等で評価します。</p>

外国人留学生入試	本学で学びえた能力を生かして、国内外で国際的に活躍することを志す外国人学生を求めます。 試験内容は、提示するテーマに関する小論文と口頭試問等です。併せて、日本留学試験の日本語の部分を点数化して評価します。
編入学試験	本学で学ぶことに強い意欲を持ち、心理学科での専門教育に必要とされる専門分野の知識・学力を有した人を求めます。 試験内容は、提示するテーマに関する小論文、口頭試問、活動報告書、大学入学希望理由書等で評価します。
社会人入試	本学で学ぶことに強い意欲を持ち、生涯を通じて学問を深めたい社会人で、心理学科で必要とされる専門分野の基礎的な知識・学力を有する人を求めます。 試験内容は、提示するテーマに関する小論文、口頭試問、活動報告書、大学入学希望理由書等で評価します。
社会人編入学試験	本学で学ぶことに強い意欲を持ち、心理学科での専門教育に必要とされる専門分野の知識・学力を有した社会人を求めます。 試験内容は、提示するテーマに関する小論文、口頭試問、活動報告書、大学入学希望理由書等で評価します。

<社会学部心理学科>

入試区分	AP1 (知識と技能)	AP2 (思考力・判断力と表現力)	AP3 (主体性と協働的態度)	AP4 (探究心と応用力)
学校推薦型選抜前期後期	○	◎	◎	○
一般選抜	◎	◎	△※	△※
一般選抜（大学入学共通テスト利用入試）	◎	◎	-	-
総合型選抜（AO入試・キャリアAO入試）	○	◎	◎	◎
指定校制推薦入学選考（附属高等学校特別推薦入学選考含む）	○	○	◎	○
奈良大学校友特別推薦	○	○	◎	○
専門高校、専門学科・総合学科対象入試	○	◎	◎	○
地域貢献入試	○	◎	◎	○
外国人留学生入試	○	◎	○	○
編入学試験	○	◎	○	○
社会人入試	○	◎	○	○
社会人編入学試験	○	◎	○	○

※一般選抜のAP3・AP4の△は、一部の試験で評価します。

＜社会学部総合社会学科＞

総合社会学科では、複雑で多面的な現代社会を批判的・合理的に理解することを学びます。こうした知的活動に深い関心を持ち、社会の中でより良く生きていくための課題とそれを達成する方法を自発的に探り、これを実践していくことで社会に貢献していく意欲のある人を求めます。

<p>学校推薦型選抜前期後期</p>	<p>建学の精神をふまえて、本学で学ぶことに強い意欲を持ち、高等学校で履修する教科・科目を幅広く修得し、大学で学ぶための基礎学力を有する人、もしくは、同等の知識と技能を有する人を求めます。 試験内容は、基礎学力試験、小論文、調査書、推薦書などを用いて、多面的・総合的に評価して受け入れます。</p>
<p>一般選抜</p>	<p>本学で学ぶことに強い意欲を持ち、高等学校で履修する教科・科目を幅広く修得し、大学で学ぶための基礎学力を有する人、もしくは、同等の知識と技能を有する人を求めます。 試験内容は、学力試験や大学入学希望理由書などを用いて、総合的に評価します。</p>
<p>一般選抜（大学入学共通テスト利用入試）</p>	<p>本学で学ぶことに強い意欲を持ち、高等学校で履修する教科・科目を幅広く修得し、大学で学ぶための基礎学力を有する人、もしくは、同等の知識と技能を有する人を求めます。 試験内容は、大学入学共通テストの成績を用いて評価します。</p>
<p>総合型選抜（AO入試・キャリアAO入試）</p>	<p>建学の精神をふまえて、本学で学ぶことに強い意欲を持つ人を求めます。 試験内容は、学科が定める多面的で総合的な評価方法（調査書、口頭試問、体験講義、レポートなど）を用いて、求める人物像との適合を重視します。</p>
<p>指定校制推薦入学選考（奈良大学附属高等学校特別推薦入学選考含む）</p>	<p>高等学校から推薦のあった人で、本学への明確な志向と熱意を有しており、建学の精神をふまえて本学で学ぶことに強い意欲を持ち、それにふさわしい能力を有する人を求めます。 選考内容は、口頭試問・提出書類等で評価します。</p>
<p>奈良大学校友特別推薦</p>	<p>卒業生・在校生保護者から推薦のあった人で、本学への明確な志向と熱意を有しており、建学の精神をふまえて本学で学ぶことに強い意欲を持ち、それにふさわしい能力を有する人を求めます。 選考内容は、口頭試問・提出書類等で評価します。</p>
<p>専門高校、専門学科・総合学科対象入試</p>	<p>本学で学ぶことに強い意欲を持ち、専門高校・専門学科・総合学科の卒業生（卒業見込者も含む）を対象にした入試で、高等学校での専門教育を主とする学科、または総合学科での学びをふまえて、本学での専門的な学びに意欲のある人を求めます。 試験内容は、提示するテーマに関する小論文と口頭試問、調査書等で評価します。</p>
<p>地域貢献入試</p>	<p>本学で学ぶことに強い意欲を持ち、これまでの学習や当該地域での経験をふまえて培われた「地域へ貢献」する意識があり、地域の課題に自ら積極的に取り組み、本学での学びの中でさらに地域貢献へのスキル、活用法を学ぶ意欲をもった人を求めます。 試験内容は、提示するテーマに関する小論文と口頭試問、調査書等で評価します。</p>

外国人留学生入試	本学で学びえた能力を生かして、国内外で国際的に活躍することを志す外国人学生を求めます。 試験内容は、提示するテーマに関する小論文と口頭試問等です。併せて、日本留学試験の日本語の部分を点数化して評価します。
編入学試験	本学で学ぶことに強い意欲を持ち、総合社会学科での専門教育に必要とされる専門分野の知識・学力を有した人を求めます。 試験内容は、提示するテーマに関する小論文、口頭試問、活動報告書、大学入学希望理由書等で評価します。
社会人入試	本学で学ぶことに強い意欲を持ち、生涯を通じて学問を深めたい社会人で、総合社会学科で必要とされる専門分野の基礎的な知識・学力を有する人を求めます。 試験内容は、提示するテーマに関する小論文、口頭試問、活動報告書、大学入学希望理由書等で評価します。
社会人編入学試験	本学で学ぶことに強い意欲を持ち、総合社会学科での専門教育に必要とされる専門分野の知識・学力を有した社会人を求めます。 試験内容は、提示するテーマに関する小論文、口頭試問、活動報告書、大学入学希望理由書等で評価します。

<社会学部総合社会学科>

入試区分	AP1 (知識と技能)	AP2 (思考力・判断力と表現力)	AP3 (主体性と協働的態度)	AP4 (探究心と応用力)
学校推薦型選抜前期後期	○	◎	◎	○
一般選抜	◎	◎	△※	△※
一般選抜（大学入学共通テスト利用入試）	◎	◎	-	-
総合型選抜（AO入試・キャリアAO入試）	○	◎	◎	◎
指定校制推薦入学選考（附属高等学校特別推薦入学選考含む）	○	○	◎	○
奈良大学校友特別推薦	○	○	◎	○
専門高校、専門学科・総合学科対象入試	○	◎	◎	○
地域貢献入試	○	◎	◎	○
外国人留学生入試	○	◎	○	○
編入学試験	○	◎	○	○
社会人入試	○	◎	○	○
社会人編入学試験	○	◎	○	○

※一般選抜のAP3・AP4の△は、一部の試験で評価します。

卒業認定・学位授与の方針と授業科目の関連表(カリキュラムマップ)

カリキュラムマップとは、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)(CP)の各科目区分の個々の科目が、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)(DP)の6つの項目のうちいずれを達成するためのものであるかを可視化したものです。

文学部 国文学科

科目群		科目名 各科目の到達目標は 講義要項(シラバス)を参照してください。	「卒業認定・学位授与の方針」で重視する項目						
			① 知識・ 技能の 理解と 活用	② 問題発 見・解 決力	③ 多様性 の理解	④ コミュ ニケー ション 能力	⑤ 自律的 で意欲 的な態 度	⑥ 倫理性 ・規範 性	
基幹科目	必修科目	学問と社会	学問と社会	○		○		○	
		基礎演習	基礎演習	○			○	○	
		演習	言語文学、国文学講読、国文学演習		○		○	○	○
		卒業論文	卒業論文	○	○	○	○	○	○
		その他、専門領域の学びに必須の科目	国文学の世界	○		○			
	選択科目	A群	国文学史、国語学概論、 古典文学概論、近代文学概論、 現代文化論、 中国文学概論、 日本語の歴史	○	○	○			
		B群	神話伝承論、平安文学論、中世文学論、近世文学論、 書物論、メディア文化論、比較交流論 和歌歌謡論、近代小説論、近代詩歌論、現代文学論 古典日本語論、現代日本語論 国文学特殊講義、国語学特殊講義	○	○	○			
		C群	日本語教育論、言語情報処理論 中国文学講読、 書道、 実地見学踏査、 伝統芸能鑑賞、身体表現実習、資料調査実習、文芸創作 実習、書物出版学実習、編集実習			○	○	○	○
		D群	哲学・思想、宗教学、倫理学、日本史、外国史、文学、 心理学、社会学、教育学、文化人類学、現代史、民俗学、 政治学、法学、日本国憲法、地理学、地誌学、経済学、 生物進化学、生態学、情報学、人間学、考古学、美術史、 差別・人権問題論、奈良文化論、国際関係論、現代社会 と法、自然の保護、環境科学、経営学、販売管理論、海 外研修、プロジェクト	○	○	○			
	外国語科目	オーラルコミュニケーション初級、実践英語初級、英語 読解初級、 オーラルコミュニケーション中級、実践英語中級、英語 読解中級、 上級英語 ドイツ語初級、ドイツ語中級、フランス語初級、フラン ス語中級、 中国語初級、中国語中級、韓国語初級、韓国語中級 日本語	○		○	○	○		
	健康・スポーツ科目	スポーツ実技、 健康科学	○	○	○	○			
	情報科目	情報倫理、情報リテラシー コンピュータ基礎論、情報処理、画像編集、動画編集、 プログラミング基礎 データベース論、データ分析法、Webプログラミング	○	○				○	
キャリア科目	キャリアデザイン インターンシップ概論、インターンシップ実習 生涯学習概論				○	○			

史学科

科目群		科目名 各科目の到達目標は 講義要項（シラバス）を参照してください。	「卒業認定・学位授与の方針」で重視する項目						
			① 知識・ 技能の 理解と 活用	② 問題発 見・解 決力	③ 多様性 の理解	④ コミュ ニケー ション 能力	⑤ 自律的 で意欲 的な態 度	⑥ 倫理性 ・規範 性	
基幹科目	必修科目	学問と社会	学問と社会	○		○		○	
		基礎演習	基礎演習	○			○	○	
		演習	史学演習		○	○	○	○	○
		卒業論文	卒業論文	○	○	○	○	○	○
		その他、専門 領域の学びに 必須の科目	史学研究法、日本史概論、東洋史概論、西洋史概論、史料講読	○	○	○		○	○
	選択科目	A群	国際交流史基礎講義、日本史基礎講義、東洋史基礎講義、西洋史基礎講義	○		○			○
		B群	国際交流史特殊講義、日本史特殊講義、東洋史特殊講義、西洋史特殊講義	○	○	○		○	○
		C群	史料研究	○		○		○	○
		D群	哲学・思想、宗教学、倫理学、文学、心理学、社会学、教育学、文化人類学、現代史、民俗学、政治学、法学、日本国憲法、地理学、地誌学、経済学、生物進化学、生態学、情報学、人間学、考古学、美術史、差別・人権問題論、奈良文化論、国際関係論、現代社会と法、自然の保護、環境科学、言語学、経営学、販売管理論、メディア学、人と防災、世界の人口問題、比較文化論、海外研修、プロジェクト	○	○	○			
外国語科目		オーラルコミュニケーション初級、実践英語初級、英語読解初級、 オーラルコミュニケーション中級、実践英語中級、英語読解中級、 上級英語 ドイツ語初級、ドイツ語中級、フランス語初級、フランス語中級、 中国語初級、中国語中級、韓国語初級、韓国語中級 日本語	○		○	○	○		
健康・スポーツ科目		スポーツ実技、 健康科学	○	○	○	○			
情報科目		情報倫理、情報リテラシー コンピュータ基礎論、情報処理、画像編集、動画編集、 プログラミング基礎 データベース論、データ分析法	○	○				○	
キャリア科目		キャリアデザイン インターンシップ概論、インターンシップ実習 生涯学習概論				○	○		

地理学科

科目群		科目名 各科目の到達目標は 講義要項（シラバス）を参照してください。	「卒業認定・学位授与の方針」で重視する項目						
			① 知識・ 技能の 理解と 活用	② 問題発 見・解 決力	③ 多様性 の理解	④ コミュ ニケー ション 能力	⑤ 自律的 で意欲 的な態 度	⑥ 倫理性 ・規範 性	
基幹科目	必修科目	学問と社会	学問と社会	○		○		○	
		基礎演習	基礎演習	○			○	○	
		演習	地理学講読・調査法、地理学分析・表現法、地理学地域調査演習、地理学演習		○		○	○	○
		卒業論文	卒業論文	○	○	○			
		その他、専門領域の学びに必須の科目	地理学入門、地理学実習、人文地理学、自然地理学、地誌学、地図学基礎	○	○	○	○	○	○
	選択科目	A群	日本地誌概論、世界地誌概論、測量学概論、地理情報科学概論、計量地理学概論、環境地理学概論	○		○		○	
		B群	都市地理学、経済地理学、村落地理学、歴史地理学、観光・交通地理学、人口地理学、地形学、気候学、水文学、災害地理学、地理学特殊講義	○	○	○		○	
		C群	測量技法、応用地図技法、フィールドワーク技法、リモートセンシング技法、GISデータ分析技法、GISマネジメント技法、GISプログラミング技法、海外巡検	○		○		○	○
		D群	哲学・思想、宗教学、倫理学、日本史、外国史、文学、心理学、社会学、教育学、文化人類学、現代史、民俗学、政治学、法学、日本国憲法、経済学、生物進化学、生態学、情報学、人間学、考古学、美術史、差別・人権問題論、奈良文化論、国際関係論、現代社会と法、自然の保護、環境科学、言語学、経営学、メディア学、数学、化学、物理学、比較文化論、販売管理論、海外研修、プロジェクト	○	○	○			
	外国語科目	オーラルコミュニケーション初級、実践英語初級、英語読解初級、 オーラルコミュニケーション中級、実践英語中級、英語読解中級、 上級英語 ドイツ語初級、ドイツ語中級、フランス語初級、フランス語中級、 中国語初級、中国語中級、韓国語初級、韓国語中級 日本語	○		○	○	○		
健康・スポーツ科目	スポーツ実技、 健康科学	○	○	○	○				
情報科目	情報倫理、情報リテラシー コンピュータ基礎論、情報処理、画像編集、動画編集、 プログラミング基礎 データ分析法、Webプログラミング	○	○				○		
キャリア科目	キャリアデザイン インターンシップ概論、インターンシップ実習 生涯学習概論				○	○			

文化財学科

科目群		科目名 各科目の到達目標は 講義要項（シラバス）を参照してください。	「卒業認定・学位授与の方針」で重視する項目						
			① 知識・ 技能の 理解と 活用	② 問題発 見・解 決力	③ 多様性 の理解	④ コミュ ニケー ション 能力	⑤ 自律的 で意欲 的な態 度	⑥ 倫理性 ・規範 性	
基幹科目	必修科目	学問と社会	学問と社会	○		○		○	
		基礎演習	基礎演習	○			○	○	
		演習	文化財演習、考古学演習、美術史演習、史科学演習、保存科学演習		○		○	○	○
		卒業論文	卒業論文	○	○	○	○	○	○
		その他、専門領域の学びに必須の科目	文化財学研究法、考古学講読、美術史講読、史科学講読、保存科学講読、考古学実習、美術史実習、保存科学実習	○	○	○		○	
	選択科目	A群	考古学概論、美術史概論、史科学概論、保存科学概論	○	○	○		○	
		B群	考古学特殊講義、美術史特殊講義、史科学特殊講義、保存科学特殊講義	○	○	○		○	
		C群	文化財情報学、文化財修景学、文化財分析学、文化財環境学、文化財修復学、考古学研究法、先史考古学、歴史考古学、仏教考古学、世界考古学、東洋美術史、日本彫刻史、日本絵画史、工芸史、文献史科学、宗教文化史、世界遺産学、建築史	○	○	○		○	
		D群	哲学・思想、宗教学、倫理学、日本史、外国史、文学、心理学、社会学、教育学、文化人類学、現代史、民俗学、政治学、法学、日本国憲法、地理学、地誌学、経済学、情報学、人間学、差別・人権問題論、奈良文化論、国際関係論、現代社会と法、自然の保護、環境科学、言語学、経営学、販売管理論、メディア学、人と防災、世界の人口問題、比較文化論、海外研修、プロジェクト	○	○	○		○	
外国語科目		オーラルコミュニケーション初級、実践英語初級、英語読解初級、 オーラルコミュニケーション中級、実践英語中級、英語読解中級、 上級英語 ドイツ語初級、ドイツ語中級、フランス語初級、フランス語中級、 中国語初級、中国語中級、韓国語初級、韓国語中級 日本語	○		○	○	○		
健康・スポーツ科目		スポーツ実技、 健康科学	○	○	○	○			
情報科目		情報倫理、情報リテラシー コンピュータ基礎論、情報処理、画像編集、動画編集、 プログラミング基礎 データベース論、データ分析法	○	○				○	
キャリア科目		キャリアデザイン インターンシップ概論、インターンシップ実習 生涯学習概論				○	○		

社会学部 心理学科

科目群		科目名 各科目の到達目標は 講義要項（シラバス）を参照してください。	「卒業認定・学位授与の方針」で重視する項目						
			① 知識・ 技能の 理解と 活用	② 問題発 見・解 決力	③ 多様性 の理解	④ コミュ ニケー ション 能力	⑤ 自律的 で意欲 的な態 度	⑥ 倫理性 ・規範 性	
基幹科目	必修科目	学問と社会	学問と社会	○		○		○	
		基礎演習	基礎演習	○			○	○	
		演習	臨床心理学演習、社会心理学演習		○		○	○	○
		卒業論文	卒業論文	○	○	○			
		その他、専門領域の学びに必須の科目	心理学概論、社会心理学概論、臨床心理学概論、心理学研究法、心理学統計法Ⅰ、心理学実験、臨床心理学基礎実習、社会心理学基礎実習	○	○	○	○	○	○
	選択科目	A群	知覚・認知心理学、学習・言語心理学、神経・生理心理学、発達心理学、教育・学校心理学、社会・集団・家族心理学、応用社会心理学、感情・人格心理学	○		○		○	
		B群	青年心理学、進化心理学、応用心理学、集団力学、対人社会心理学、産業・組織心理学、文化心理学、障害者・障害児心理学、福祉心理学、心理学的支援法、司法・犯罪心理学、健康・医療心理学、精神疾患とその治療、人体の構造と機能及び疾病、臨床心理学特殊講義、社会心理学特殊講義	○		○		○	
		C群	心理学統計法Ⅱ、関係行政論、公認心理師の職責、心理実践演習（心理実習）、心理的アセスメント、心理演習（カウンセリング）、社会心理学実験演習	○	○		○	○	○
		D群	哲学・思想、宗教学、倫理学、日本史、外国史、文学、社会学、教育学、文化人類学、現代史、民俗学、政治学、法学、日本国憲法、地理学、地誌学、経済学、生物進化学、生態学、情報学、人間学、考古学、美術史、差別・人権問題論、奈良文化論、国際関係論、現代社会と法、自然の保護、環境科学、言語学、経営学、メディア学、人と防災、世界の人口問題、数学、化学、物理学、販売管理論、海外研修、プロジェクト	○	○	○			
	外国語科目	オーラルコミュニケーション初級、実践英語初級、英語読解初級、 オーラルコミュニケーション中級、実践英語中級、英語読解中級、 上級英語 ドイツ語初級、ドイツ語中級、フランス語初級、フランス語中級、 中国語初級、中国語中級、韓国語初級、韓国語中級 日本語	○		○	○	○		
健康・スポーツ科目	スポーツ実技、 健康科学	○	○	○	○				
情報科目	情報倫理、情報リテラシー コンピュータ基礎論、情報処理、画像編集、動画編集、プログラミング基礎 データベース論、データ分析法、Webプログラミング	○	○				○		
キャリア科目	キャリアデザイン インターンシップ概論、インターンシップ実習 生涯学習概論				○	○			

総合社会学科

科目群		科目名 各科目の到達目標は 講義要項（シラバス）を参照してください。	「卒業認定・学位授与の方針」で重視する項目						
			① 知識・ 技能の 理解と 活用	② 問題発 見・解 決力	③ 多様性 の理解	④ コミュ ニケー ション 能力	⑤ 自律的 で意欲 的な態 度	⑥ 倫理性 ・規範 性	
基幹科目	必修科目	学問と社会	学問と社会	○		○		○	
		基礎演習	基礎演習	○			○	○	
		演習	演習		○		○	○	○
		卒業論文	卒業論文	○	○	○			
		その他、専門 領域の学びに 必須の科目	社会調査概論、社会学基礎、社会調査法、経済学、社会 体験実習	○			○	○	○
	選択科目	A群	情報学、政治学、家政学、地域社会学、家族社会学、国 際政治学、現代社会と哲学、現代社会と倫理、社会統計 学Ⅰ、産業社会学、情報社会学、環境社会学、消費社会学、 地域政策学、経済社会学	○		○		○	○
		B群	デジタルアーカイブ概論、文化情報論、国際社会学、ジェ ンダーとライフコース、産業と技術の発展、消費者行動 分析、企業倫理と消費者、組織社会学、地域行政学、開 発社会学、災害社会学、サステナビリティ論、人工知能 概論、計算社会科学、総合社会学特殊講義	○	○	○	○		
		C群	社会統計学Ⅱ、知的財産管理論、量的分析法、質的分析 法、プログラミング言語、社会調査実習	○	○				○
		D群	哲学・思想、宗教学、倫理学、日本史、外国史、文学、 心理学、教育学、現代史、民俗学、法学、日本国憲法、 地理学、地誌学、生物進化学、生態学、考古学、美術史、 差別・人権問題論、奈良文化論、自然の保護、環境科学、 言語学、メディア学、人と防災、世界の人口問題 数学、化学、物理学、比較文化論、販売管理論、海外研修、 プロジェクト	○	○	○			
	外国語科目	オールコミュニケーション初級、実践英語初級、英語 読解初級、 オールコミュニケーション中級、実践英語中級、英語 読解中級、 上級英語 ドイツ語初級、ドイツ語中級、フランス語初級、フラン ス語中級、 中国語初級、中国語中級、韓国語初級、韓国語中級 日本語	○		○	○	○		
	健康・スポーツ科目	スポーツ実技、 健康科学	○	○	○	○			
	情報科目	情報倫理、情報リテラシー コンピュータ基礎論、情報処理、画像編集、動画編集、 プログラミング基礎、データベース論、データ分析法	○	○				○	
キャリア科目	キャリアデザイン インターンシップ概論、インターンシップ実習 生涯学習概論				○	○			

履修科目の体系

I. 履修科目の体系

1. 授業科目の5つの区分

本学の授業科目は、つぎの5つから構成されている。

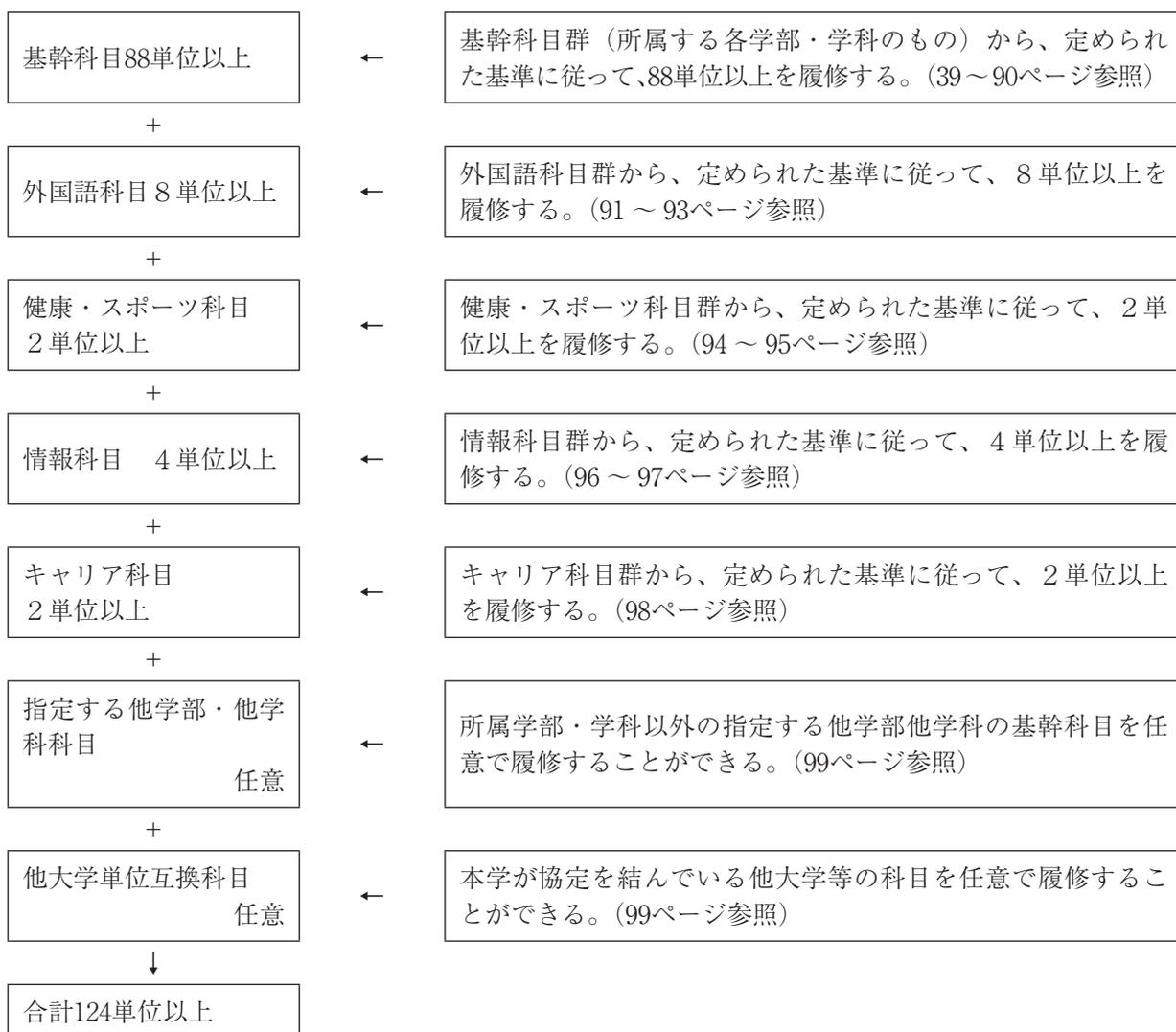
- 1) 基幹科目：各学科の学修の中心となる科目。(39～90ページ参照)
- 2) 外国語科目：グローバル化への対応と、教養ある人間として異文化を理解し尊重するための科目
- 3) 健康・スポーツ科目：生涯を通じて自らの健康を管理・改善し健やかに生きるための科目
- 4) 情報科目：データ処理技術に加え、インターネット社会の諸問題に対応するための科目
- 5) キャリア科目：卒業後の進路を考え、進路実現の計画を立案し、実行するための科目

2. 卒業に必要な科目と単位

基幹科目、外国語科目、健康・スポーツ科目、情報科目、キャリア科目については、下の図に示すようにそれぞれ所定の開講科目群から履修し、合計124単位以上を修得しなければならない。

ただし、基幹科目、外国語科目、健康・スポーツ科目、情報科目、キャリア科目の各区分の単位数はあくまで最低の要件であり、合計しても104単位なので、124単位にはさらに20単位必要である。124単位に達するように基幹科目を中心に各区分の最低の卒業要件を超えて単位を修得する必要がある。

なお、所属学部学科以外の指定する他学部・他学科科目や他大学単位互換科目の履修を認めており、これらの修得した単位も20単位の一部に算入することができる。



各科目群の履修要項

Ⅱ. 各科目群の履修要項

1. 基幹科目

(1) 文学部・国文学科

古典文学・近現代文学・表象文化・日本語・出版文化・伝承文化の6領域を複合的に学ぶことで、日本の言葉と文学・文化のプロフェッショナルを育成する。

1) 卒業に必要な単位

科目区分		単位数	
基幹科目	必修科目	40	
	選択科目	A群	14以上
		B、C群	16以上
		D群	18以上
外国語科目	A群（英語）	4以上	A、B群から 4以上
	B群（ドイツ語、フランス語、 中国語、韓国語）		
	C群（日本語 [※留学生のみ]）		
健康・スポーツ科目	スポーツ実技Ⅰ・Ⅱ、 健康科学Ⅰ・Ⅱ	2以上	
情報科目	情報倫理、情報リテラシー	4	4 以上
キャリア科目	キャリアデザイン	2	2 以上
上記の区分のすべての科目（外国語科目C群は留学生のみ履修可）の卒業要件を超えて修得した単位 指定する他学部・他学科科目 他大学単位互換科目			20 以上
合計			124

各科目区分の最低要件のみでは計104単位（88単位＋8単位＋2単位＋4単位＋2単位）であり、卒業要件124単位にはさらに20単位必要である。この20単位については基幹科目の選択科目を最低要件より多く履修するか、あるいは、基幹科目以外の選択科目、指定する他学部・他学科の科目、他大学の単位互換科目を興味関心に応じて履修することで獲得できる。

※留学生はC群（日本語）から4単位に加え、母語を除くA、B、C群から4単位、合計8単位

2) 基幹科目の構成

基幹科目は、下表のように構成されている。

	科目区分	単位数	配当年次	科目の概要
必修科目	学問と社会	1科目2	1	大学で学ぶ「学問」の考え方を、専門分野を超えて社会の様々な場面で応用し、将来に生かすための科目
	基礎演習Ⅰ・Ⅱ	2科目4	1	各学科の学修内容も入れつつ、大学での学びの技法（スタディ・スキルズ）を身に付けるための科目
	国文学の世界	1科目2	1	国文学の世界を広く知るための導入科目
	言語文学Ⅰ・Ⅱ	2科目4	1	少人数による国文学研究入門の科目
	国文学講読Ⅰ・Ⅱ	4科目8	2	作品の読解と研究入門のための基礎科目
	国文学演習Ⅰ・Ⅱ	4科目8	3	作品研究の実際を学ぶ最も重要な科目
	国文学演習Ⅲ・Ⅳ	2科目4	4	卒業論文のための基礎知識習得の科目
	卒業論文	1科目8	4	卒業論文作成を目的とする個別指導
選択科目	A群	14以上	1-4	各分野の幅広い知識を習得する概論科目
	B群・C群	16以上	2-4	特定分野の特殊講義、実習・見学・鑑賞
	D群	18以上	1-4	学科教育に関連する人文、社会、自然にまたがる幅広い知識や教養

3) 履修上の注意

- ・3年次配当科目は、原則として2年次末までに卒業要件46単位以上を修得しなければ履修できない。
- ・2年次までの修得単位が46単位未満の場合は、「国文学演習Ⅰ・Ⅱ」と「国文学演習Ⅲ・Ⅳ」を同時履修することができない。
- ・必修科目の履修方法
 1. 学問と社会は、1年次に1科目履修。
 2. 基礎演習Ⅰ・Ⅱは、1年次に2科目履修。
 3. 言語文学Ⅰ・Ⅱは、1年次に2科目履修。
 4. 国文学講読Ⅰ・Ⅱは、2年次に4科目履修。ガイダンス時のクラス分けによる。
 5. 国文学演習Ⅰ・Ⅱは、3年次に4科目履修。ガイダンス時のクラス分けによる。
 6. 国文学演習Ⅲ・Ⅳは、3年次の12月の卒論ガイダンス時の指示に従い、4年次に履修。
 7. 卒業論文は国文学演習Ⅲ・Ⅳと同じ教員の科目を登録する。
- 【重要】必修科目の登録クラス（言語文学Ⅰ・Ⅱはのぞく）は、国文学科が指定するガイダンス等の手続きで決定される。そのため所定の手続きを経ず、無断で登録した場合には、登録が無効になるので注意すること。また一度決定したクラスは変更できないため、他の必修科目・資格科目と重ならないクラスを選択すること。
- ・選択科目の履修方法…原則として人数制限・クラス指定はない。
 1. A群…1年次から履修可。ただし、中国文学概論Ⅰなど4科目は2年次からの履修となる。
 2. B群…神話伝承論など8科目は2年次から、書物論など7科目は3年次から履修可。
 3. C群…実地見学踏査Ⅰ・Ⅱ、伝統芸能鑑賞は4月初のガイダンスで指示。なお、実地見学踏査Ⅱは、実地見学踏査Ⅰを先に履修しておかなければならない。
 4. D群…学科教育に関連する人文、社会、自然にまたがる幅広い知識や教養を身につける。
 - ・「環境科学Ⅰ」と「環境科学Ⅱ」は2科目で1つの授業であり、2時限連続して開講されるので、各科目を個別単独には履修できない。必ず、指定された組合せに従い2科目同時に履修すること。
 - ・「販売管理論Ⅰ～Ⅲ」はリテールマーケティング（販売士）資格取得のための科目である。通常授業とは別に資格試験対策講座も適宜実施する。履修上の注意や方法については、88ページを改めて参照すること。

- ・海外研修は、実際の海外での研修に加え、事前事後にも授業を実施する。履修上の注意や方法については、89ページを改めて参照すること。
- ・プロジェクトは、対象事業のスケジュール次第なので、授業は不定期に実施する。履修上の注意や方法については、90ページを改めて参照すること。

・その他

既に単位を修得した科目は再び履修できない。ただし、国文学特殊講義、国語学特殊講義については、この限りではない。

4) 専攻分野とコース

・国文学科の専攻分野

国文学科では、各学生が自身の興味にそって独自のカリキュラムが作れるよう、次の6分野を立てている。以下に、それぞれの分野に該当する代表的な科目を示すので、「講義要項（シラバス）」をよく読んで選択して欲しい。もちろん、この6分野はあくまで目安であるので、これにこだわらずに自由にメニューを組むこともできる。

分類・内容	選択A群	選択B群	選択C群	選択D群
古典文学 幅広い時代の文学を伝統文化とともに学ぶ	古典文学概論Ⅰ・Ⅱ 中国文学概論Ⅰ・Ⅱ 国文学史Ⅱ・Ⅲ	平安文学論 中世文学論 近世文学論 和歌歌謡論	中国文学講読Ⅰ・Ⅱ	文学 日本史Ⅰ・Ⅱ
近現代文学 さまざまな角度から近現代文学に接近する	近代文学概論Ⅰ・Ⅱ 国文学史Ⅳ	近代小説論 近代詩歌論 現代文学論 国文学特殊講義		現代史
表象文化 文学を複合領域としてとらえる	現代文化論	メディア文化論		
日本語 日本語のしくみ・応用を知る	国語学概論Ⅰ・Ⅱ 日本語の歴史Ⅰ・Ⅱ	古典日本語論 現代日本語論 国語学特殊講義	日本語教育論 言語情報処理論	
出版文化 現代まで続く出版文化を学ぶ		書物論	資料調査実習 文芸創作実習 書物出版学実習 編集実習	
伝承文化 神話や伝統芸能に触れる	国文学史Ⅰ	神話伝承論 比較交流論	実地見学踏査Ⅰ・Ⅱ 伝統芸能鑑賞 身体表現実習 書道Ⅰ・Ⅱ	民俗学 奈良文化論

5) 学年進行と履修モデル

以上をまとめた年次別の履修モデルが次に示す表である。なお、D群の海外研修やプロジェクト、外国語科目、健康・スポーツ科目、情報科目、キャリア科目、指定する他学部他学科科目、他大学単位互換科目の履修も含めた学年進行にともなう履修上の注意や方法については、88ページ以下を改めて参照すること。

基幹科目 88単位以上	1年次	2年次	3年次	4年次
必修科目 (40単位)	学問と社会 (2単位) 基礎演習Ⅰ・Ⅱ (2単位×2) 国文学の世界 (2単位) 言語文学Ⅰ・Ⅱ (2単位×2)	国文学講読Ⅰ・Ⅱ (2単位×4)	国文学演習Ⅰ・Ⅱ (2単位×4)	国文学演習Ⅲ・Ⅳ (2単位×2) 卒業論文 (8単位)
選択科目A群 (14単位以上)	国文学史Ⅰ・国文学史Ⅱ 国文学史Ⅲ・国文学史Ⅳ 国語学概論Ⅰ・国語学概論Ⅱ 古典文学概論Ⅰ・古典文学概論Ⅱ 近代文学概論Ⅰ・近代文学概論Ⅱ 現代文化論(各科目2単位)			
	中国文学概論Ⅰ・中国文学概論Ⅱ 日本語の歴史Ⅰ・日本語の歴史Ⅱ (各科目2単位)			
選択科目B群 (選択B群・C群 から16単位以上)	神話伝承論・平安文学論・中世文学論 近世文学論 ・近代小説論・現代文学論 古典日本語論・現代語日本語論(各科目2単位)			
	書物論・メディア文化論 比較交流論・和歌歌謡論 近代詩歌論 ・国文学特殊講義 国語学特殊講義(各科目2単位)			
選択科目C群 (選択B群・C群 から16単位以上)	実地見学踏査Ⅰ(1単位)			
	実地見学踏査Ⅱ(1単位)			
	伝統芸能鑑賞(2単位)			
	日本語教育論・言語情報処理論 中国文学講読Ⅰ・中国文学講読Ⅱ 身体表現実習・資料調査実習・文芸創作実習 (各科目2単位)			
選択科目D群 (18単位以上)	書道Ⅰ・書道Ⅱ 書物出版学実習 編集実習(各科目2単位)			
	日本史Ⅰ・日本史Ⅱ 外国史Ⅰ・外国史Ⅱ 現代史 文学 奈良文化論 など			
	美術史Ⅰ・美術史Ⅱ 民俗学 など			

※教職免許(国語)を取る学生は、網かけの科目を「教科及び教科の指導法に関する科目」としても数えることができる。

6) 国文学科基幹科目配当表

区分	科目名	単位	配当 年次	備考	
必修科目	学問と社会	2	1	40単位必修 合計88単位 以上必修	
	基礎演習Ⅰ	2	1		
	基礎演習Ⅱ	2	1		
	国文学の世界	2	1		
	言語文学Ⅰ	2	1		
	言語文学Ⅱ	2	1		
	国文学講読Ⅰ	2	2		2科目4単位
	国文学講読Ⅱ	2	2		〃
	国文学演習Ⅰ	2	3		2科目4単位
	国文学演習Ⅱ	2	3		〃
	国文学演習Ⅲ	2	4		
	国文学演習Ⅳ	2	4		
	卒業論文	8	4		当年度卒業可能な者のみ履修可
選択科目	A群	国文学史Ⅰ	2	1-4	14単位以上必修
		国文学史Ⅱ	2	1-4	
		国文学史Ⅲ	2	1-4	
		国文学史Ⅳ	2	1-4	
		国語学概論Ⅰ	2	1-4	
		国語学概論Ⅱ	2	1-4	
		古典文学概論Ⅰ	2	1-4	
		古典文学概論Ⅱ	2	1-4	
		近代文学概論Ⅰ	2	1-4	
		近代文学概論Ⅱ	2	1-4	
		現代文化論	2	1-4	
		中国文学概論Ⅰ	2	2-4	
		中国文学概論Ⅱ	2	2-4	
		日本語の歴史Ⅰ	2	2-4	
		日本語の歴史Ⅱ	2	2-4	
		B群	神話伝承論	2	
	平安文学論		2	2-4	
	中世文学論		2	2-4	
	近世文学論		2	2-4	
	書物論		2	3-4	
	メディア文化論		2	3-4	
	比較交流論		2	3-4	
	和歌歌謡論		2	3-4	
	近代小説論		2	2-4	
	近代詩歌論		2	3-4	
	C群	現代文学論	2	2-4	
		古典日本語論	2	2-4	
		現代日本語論	2	2-4	
		国文学特殊講義	2	3-4	
		国語学特殊講義	2	3-4	
日本語教育論		2	2-4		
言語情報処理論		2	2-4		
中国文学講読Ⅰ		2	2-4		
中国文学講読Ⅱ		2	2-4		
書道Ⅰ		2	3-4		
書道Ⅱ		2	3-4		
実地見学踏査Ⅰ		1	1-3		
実地見学踏査Ⅱ		1	2-4		
伝統芸能鑑賞		2	1-4		
身体表現実習	2	2-4			
資料調査実習	2	2-4			
文芸創作実習	2	2-4			
書物出版学実習	2	3-4			
編集実習	2	3-4			

選択科目 D群	哲学・思想Ⅰ	2	1-4	18単位以上必修		
	哲学・思想Ⅱ	2	1-4			
	宗教学	2	1-4			
	倫理学	2	1-4			
	日本史Ⅰ	2	1-4			
	日本史Ⅱ	2	1-4			
	外国史Ⅰ	2	1-4			
	外国史Ⅱ	2	1-4			
	文学	2	1-4			
	心理学	2	1-4			
	社会学	2	1-4			
	教育学	2	1-4			
	文化人類学	2	1-4			
	現代史	2	1-4			
	民俗学	2	2-4			
	政治学	2	1-4			
	法学	2	1-4			
	日本国憲法	2	1-4			
	地理学Ⅰ	2	1-4			
	地誌学Ⅰ	2	1-4			
	経済学	2	1-4			
	生物進化学	2	1-4			
	生態学	2	1-4			
	情報学	2	1-4			
	人間学Ⅰ	2	1-4			
	人間学Ⅱ	2	1-4			
	考古学Ⅰ	2	2-4			
	考古学Ⅱ	2	2-4			
	美術史Ⅰ	2	2-4			
	美術史Ⅱ	2	2-4			
	差別・人権問題論	2	1-4			
	奈良文化論	2	1-4			
	国際関係論	2	2-4			
	現代社会と法	2	1-4			
	自然の保護	2	1-4			
	環境科学Ⅰ	2	1-4			
	環境科学Ⅱ	2	1-4			
	経営学	2	1-4			
	販売管理論Ⅰ	2	2-4			
	販売管理論Ⅱ	2	2-4			
	販売管理論Ⅲ	2	2-4			
	海外研修	2	1-4			
	プロジェクト	1	1-4			
	[注記] 必修科目40単位、選択科目A群14単位以上、選択科目B群、C群から16単位以上、 選択科目D群18単位以上、合計88単位以上					

(2) 文学部・史学科

古代以来、歴史や文化の舞台となった奈良・大和の地に蓄積された豊富な素材に触れながら、広い観点から日本史と世界史を探究することを教育目標とする。歴史学を構成する多様な分野の基礎的な知識と専門的研究方法を学ぶとともに、より広い視野からの学習能力をもつ人材の育成をめざす。

1) 卒業に必要な単位

科目区分		単位数			
基幹科目	必修科目	44			88 以上
	選択科目	A群	8以上	A、B、C群から 10以上	
		B群	8以上		
		C群			
D群	18以上				
外国語科目	A群（英語）	4以上	A、B群から 4以上		8 以上
	B群（ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語）				
	C群（日本語 [※留学生のみ]）				
健康・スポーツ科目	スポーツ実技Ⅰ・Ⅱ、健康科学Ⅰ・Ⅱ	2以上		2 以上	
情報科目	情報倫理、情報リテラシー	4			4 以上
キャリア科目	キャリアデザイン	2			2 以上
上記の区分のすべての科目（外国語科目C群は留学生のみ履修可）の卒業要件を超えて修得した単位 指定する他学部・他学科科目 他大学単位互換科目					20 以上
合計					124

各科目区分の最低要件のみでは計104単位（88単位＋8単位＋2単位＋4単位＋2単位）であり、卒業要件124単位にはさらに20単位必要である。この20単位については基幹科目の選択科目を最低要件を超えて履修するか、あるいは、基幹科目以外の科目区分の選択科目、指定する他学部・他学科科目、他大学単位互換科目を興味関心に応じて履修することができる。

※留学生はC群（日本語）から4単位に加え、母語を除くA、B、C群から4単位、合計8単位

2) 専攻分野とコース

・史学科の分野構成

本学では、史料講読や史学演習については、それぞれの分野の中で、さらに時代や時期による区分がされている。ただし、いかなる地域の歴史を学ぶにせよ、他の地域や国際的な関係のなかで理解しなければならない。そこで、日本史、世界史（東洋史・西洋史）について広く学ぶとともに、国際交流史を通して地域や国家の枠をこえた世界史的な視野を身につける必要がある。

そのため、2年次では日本史、世界史（東洋史・西洋史）のうち、複数分野の史料講読を履修したうえで、3年次生に進む段階で、いずれかの史料講読を選ぶとともに、その分野の史学演習に進み、卒業論文を執筆することになる。

3) 基幹科目の構成

基幹科目は、下表のように構成されている。

	科目区分	単位数	配当年次	科目の概要
必修科目	学問と社会	1科目2	1	大学で学ぶ「学問」の考え方が、専門分野を超えて社会の様々な場面で応用し、将来に生かすための科目
	基礎演習	2科目4	1	各学科の学修内容も入れつつ、大学での学びの技法（スタディ・スキルズ）を身に付けるための科目
	史学研究法	1科目2	1	歴史学の諸分野についての入門
	日本史概論	2科目4	1	日本史の基礎的知識の修得
	東洋史概論	2科目4	1	東洋史の基礎的知識の修得
	西洋史概論	2科目4	1	西洋史の基礎的知識の修得
	史料講読	4科目8	2-3	史料の取扱の基礎
	史学演習	4科目8	3-4	自分自身のテーマの設定とその具体的研究
	卒業論文	1科目8	4	4年間の総まとめ
選択科目	A群	8以上	2-4	各分野の基礎的知識の修得
	B群	8以上	3-4	より深い知識の修得と研究の実態についての学習
	C群		2-4	史料の取扱の基礎的知識と技術
	D群	18以上	1-4	学科教育に関連する人文、社会、自然にまたがる幅広い知識や教養

「学問と社会」以外の、それぞれの科目の更に具体的な内容は以下のとおりである。

基礎演習：クラス編成をし、クラスごとにレポートの書き方や文章作法、口頭発表やプレゼンテーション、ディスカッションの方法を身につけ、大学での「学びの技法」を習得する。また、歴史学の方法論や各時代・地域の基礎的知識を得ることで、2年次以降の学習に向けた導入とする。

史学研究法：クラス編成をし、クラスごとに史学科の教員が、担当する分野の基本知識と研究法について、数回ずつリレーして講義を行う。歴史学は時代と地域によって細分化されているのが現状なので、この講義で、歴史学全体についての見通しを学生諸君に持ってもらうことを目指す。また、各時代と各地域の持つ問題点や特徴について入門的知識を得ることで、2年次生における史料講読での学習にむけての準備とする。

概 論：日本史、世界史（東洋史、西洋史）の様々な分野について、全体的な流れや研究状況を講義し、その分野についての基礎的な知識を得ることを目的とする。半期ごとに、2単位科目として開講されている。3分野とも2科目必修なので通年で受講することが望ましい。

史料講読：すべての歴史学の基礎となるのは史料であり、歴史学を学ぶ者は研究する分野の史料を使いこなす力を持つことが要求される。史料講読では、授業で史料を読解していくことによって、研究に不可欠な史料読解の能力と、その分野についての基礎的知識を修得することを目指す。史料講読では、ただたんに授業時間を消化していくのではなく、予習（例えば徹底的に辞書を引くこと）が不可欠である。

史学演習：学生ひとりひとりが、自ら選んだテーマについて研究の成果を発表し、発表の内容について、担当教員や同じ演習の仲間から質問や意見を示されることによって、研究能力を身に付けていくことを目指す。3年次生では、自らの研究課題を見出すことが目標となり、4年次生では、卒業論文の準備として成果を積み重ねていく。

卒業論文：演習において積み重ねた研究が、卒業論文になる。卒業論文作成に十分な時間を割くために、その他の卒業に必要な単位は、可能なかぎり3年次生までに修得しておくことが望ましい。

基礎講義：日本史・東洋史・西洋史、そして国や地域の枠をこえた国際交流史について、それぞれの担当者が研究している問題に沿って基礎的な内容を自身の研究の成果を踏まえて講義する。講義のテーマそのものについてだけでなく、各分野の基本的な研究方法についても、基礎講義を通じて学ぶことができる。

特殊講義：それぞれの担当者が研究している問題について、自身の研究の成果を踏まえて講義する。講義のテーマそのものについてだけでなく、研究の方法についても、特殊講義を通じて学ぶことができる。

史料研究：歴史研究の材料＝史料は、印刷された文字として存在するのではなく、具体的な「モノ」としての形をもって存在する。したがって、史料を取り扱うには基礎的な知識と技術が必要とされる。それを学ぶのが、史料研究である。

なお、基幹選択科目D群の中にも、現代史など、歴史学関係の科目や考古学・美術史など歴史学に隣接する科目がある。これら歴史学そのものの科目以外の基幹選択科目D群や、他学科・他学部科目の受講とも併せて、より広い視野から歴史学の学習研究がおこなえるようになっている。歴史学はそれ自体孤立して存在するのではなく、周辺の諸学と密接な関連を有しているため、これらの科目を積極的に受講することによって、より広い視野を養い、学習に役立ててほしい。

4) 履修上の注意

- ・ 3年次配当科目は、原則として2年次末までに卒業要件46単位以上を修得しなければ履修できない。
- ・ 演習Ⅰ・Ⅱをともに修得していない場合、演習Ⅲ・Ⅳの履修はできない。
- ・ 必修科目の履修方法
 1. 学問と社会は、1年次に1科目履修。
 2. 基礎演習は、1年次に2科目履修。
 3. 史料講読は、2年次で異なる分野の史料講読Ⅰ・Ⅱ（各2単位）を履修し、3年次では史料講読Ⅲ・Ⅳ（各2単位）を同一分野で履修する。
 4. 史学演習は、3年次で史学演習Ⅰ・Ⅱ（各2単位）、4年次では史学演習Ⅲ・Ⅳ（各2単位）を、同一分野で履修する。
 5. 史料講読Ⅲ・Ⅳと史学演習Ⅰ～Ⅳは同じ分野を履修すること。
 6. 卒業論文については、126ページ以下を参照のこと。
- ・ 選択科目の履修方法
 1. 特殊講義については、一度単位を修得した教員の授業を再度履修して単位を修得することが認められている。
 2. D群…学科教育に関連する人文、社会、自然にまたがる幅広い知識や教養を身につける。
 - ・ 「環境科学Ⅰ」と「環境科学Ⅱ」は2科目で1つの授業であり、2時限連続して開講されるので、各科目を個別単独には履修できない。必ず、指定された組合せに従い2科目同時に履修すること。
 - ・ 「販売管理論Ⅰ～Ⅲ」はリテールマーケティング（販売士）資格取得のための科目である。通常授業とは別に資格試験対策講座も適宜実施する。履修上の注意や方法については、88ページを改めて参照すること。
 - ・ 海外研修は、実際の海外での研修に加え、事前事後にも授業を実施する。履修上の注意や方法については、89ページを改めて参照すること。
 - ・ プロジェクトは、対象事業のスケジュール次第なので、授業は不定期に実施する。履修上の注意や方法については、90ページを改めて参照すること。

5) 学年進行と履修モデル

以上をまとめた年次別の履修モデルが次に示す表である。なお、D群の海外研修やプロジェクト、外国語科目、健康・スポーツ科目、情報科目、キャリア科目、指定する他学部他学科科目、他大学単位互換科目の履修も含めた学年進行にともなう履修上の注意や方法については、88ページ以下を改めて参照すること。

基幹科目 88単位以上	1年次	2年次	3年次	4年次
必修科目 (44単位)	学問と社会 (2単位) 基礎演習Ⅰ・Ⅱ (2単位×2) 史学研究法 (2単位) 日本史概論Ⅰ・Ⅱ 東洋史概論Ⅰ・Ⅱ 西洋史概論Ⅰ・Ⅱ (各2単位)	史料講読Ⅰ (2単位) 史料講読Ⅱ (2単位)	史料講読Ⅲ (2単位) 史料講読Ⅳ (2単位) 史学演習Ⅰ (2単位) 史学演習Ⅱ (2単位)	史学演習Ⅲ (2単位) 史学演習Ⅳ (2単位) 卒業論文 (8単位)
選択科目A群 (8単位以上)		国際交流史基礎講義 Ⅰ～Ⅵ 日本史基礎講義 Ⅰ～Ⅴ 東洋史基礎講義 Ⅰ～Ⅴ 西洋史基礎講義 Ⅰ～Ⅴ		
選択科目B群 (8単位以上)			国際交流史特殊講義 Ⅰ～Ⅴ 日本史特殊講義 Ⅰ～Ⅸ 東洋史特殊講義 Ⅰ～Ⅳ 西洋史特殊講義 Ⅰ～Ⅳ	
選択科目C群 (選択A群・B群・ C群から10単位 以上)		史料研究Ⅰ～Ⅲ		
選択科目D群 (18単位以上)	現代史・文学・ 地理学Ⅰ・地理学Ⅱ・地誌学Ⅰ・地誌学Ⅱ など 民俗学・考古学Ⅰ・考古学Ⅱ・美術史Ⅰ・美術史Ⅱなど			

※教職免許(社会、地理歴史)を取る学生は、網かけの科目を「教科及び教科の指導法に関する科目」としても数えることができる。

- 1年次

選択科目D群、外国語科目、「学問と社会」、「基礎演習」が中心となる。歴史学専門科目としては「史学研究法」及び日本史・東洋史・西洋史の「概論」が必修である。また、教員免許状の取得にかかわる科目の一部が1年次生から履修可能であり、免許状の取得を希望する学生は、1年次生の段階で可能な限りの履修が望ましい。

- 2年次

史料講読が始まる。史料講読は、各分野の史料を読んでいくことによって、研究についての基礎的訓練を行おうとするものである。史料講読Ⅰ・Ⅱでは前期・後期で日本史、世界史(東洋史・西洋史)のうち異なる分野を履修し、それぞれの史料読解についての基礎的な手法や、歴史

的背景、基本的な事項を学び、歴史を学ぶ上で必要な幅広い視野を身につける。

史料研究と基礎講義も、2年次生から履修できる。さらに、他学科・他学部の開講科目も、それぞれの配当年次にしたがって、2年次生から履修可能となる。

• 3年次

史料講読Ⅲ・Ⅳを受講するとともに、史学演習がはじまる。ここで、いずれかの専攻に所属することになり、原則として、その分野で卒業論文を書くこととなる。史料講読では、卒業論文を書こうとしている分野の史料について、より高度な読解力を身につけていく。

史学演習では、自分でテーマを探し、それを発表し、教員や他のメンバーの批評を受けるという学習を体験する。史学演習において積み重ねた研究が、卒業論文となる。

また、より専門的な内容となる特殊講義が3年次生から履修できる。

• 4年次

最大の課題は、卒業論文の作成であり、それに十分な時間を割くために、その他の卒業に必要な単位は、可能な限り3年次生までに修得しておくことが望ましい。

6) 史学科基幹科目配当表

区分	科目名	単 位	配 当 年 次	備考		
必修科目	学問と社会	2	1	44単位必修	合計88単位 以上必修	
	基礎演習Ⅰ	2	1			
	基礎演習Ⅱ	2	1			
	史学研究法	2	1			
	日本史概論Ⅰ	2	1			
	日本史概論Ⅱ	2	1			
	東洋史概論Ⅰ	2	1			
	東洋史概論Ⅱ	2	1			
	西洋史概論Ⅰ	2	1			
	西洋史概論Ⅱ	2	1			
	史料講読Ⅰ	2	2			
	史料講読Ⅱ	2	2			
	史料講読Ⅲ	2	3			
	史料講読Ⅳ	2	3			
	史学演習Ⅰ	2	3			
	史学演習Ⅱ	2	3			
	史学演習Ⅲ	2	4			
	史学演習Ⅳ	2	4			
	卒業論文	8	4			
選択科目	A群	国際交流史基礎講義Ⅰ	2	2-4	8単位以上 必修	A群、B群、C群から 10単位以上必修
		国際交流史基礎講義Ⅱ	2	2-4		
		国際交流史基礎講義Ⅲ	2	2-4		
		国際交流史基礎講義Ⅳ	2	2-4		
		国際交流史基礎講義Ⅴ	2	2-4		
		国際交流史基礎講義Ⅵ	2	2-4		
		日本史基礎講義Ⅰ	2	2-4		
		日本史基礎講義Ⅱ	2	2-4		
		日本史基礎講義Ⅲ	2	2-4		
		日本史基礎講義Ⅳ	2	2-4		
		日本史基礎講義Ⅴ	2	2-4		
		東洋史基礎講義Ⅰ	2	2-4		
		東洋史基礎講義Ⅱ	2	2-4		
		東洋史基礎講義Ⅲ	2	2-4		
		東洋史基礎講義Ⅳ	2	2-4		
		東洋史基礎講義Ⅴ	2	2-4		
		西洋史基礎講義Ⅰ	2	2-4		
		西洋史基礎講義Ⅱ	2	2-4		
		西洋史基礎講義Ⅲ	2	2-4		
		西洋史基礎講義Ⅳ	2	2-4		
西洋史基礎講義Ⅴ	2	2-4				

B 群	国際交流史特殊講義Ⅰ	2	3-4	8単位以上 必修	
	国際交流史特殊講義Ⅱ	2	3-4		
	国際交流史特殊講義Ⅲ	2	3-4		
	国際交流史特殊講義Ⅳ	2	3-4		
	国際交流史特殊講義Ⅴ	2	3-4		
	日本史特殊講義Ⅰ	2	3-4		
	日本史特殊講義Ⅱ	2	3-4		
	日本史特殊講義Ⅲ	2	3-4		
	日本史特殊講義Ⅳ	2	3-4		
	日本史特殊講義Ⅴ	2	3-4		
	日本史特殊講義Ⅵ	2	3-4		
	日本史特殊講義Ⅶ	2	3-4		
	日本史特殊講義Ⅷ	2	3-4		
	日本史特殊講義Ⅸ	2	3-4		
	東洋史特殊講義Ⅰ	2	3-4		
	東洋史特殊講義Ⅱ	2	3-4		
	東洋史特殊講義Ⅲ	2	3-4		
	東洋史特殊講義Ⅳ	2	3-4		
	西洋史特殊講義Ⅰ	2	3-4		
	西洋史特殊講義Ⅱ	2	3-4		
西洋史特殊講義Ⅲ	2	3-4			
西洋史特殊講義Ⅳ	2	3-4			
C 群	史料研究Ⅰ	2	2-4		
	史料研究Ⅱ	2	2-4		
	史料研究Ⅲ	2	2-4		
D 群	哲学・思想Ⅰ	2	1-4	18単位以上必修	
	哲学・思想Ⅱ	2	1-4		
	宗教学	2	1-4		
	倫理学	2	1-4		
	文学	2	1-4		
	心理学	2	1-4		
	社会学	2	1-4		
	教育学	2	1-4		
	文化人類学	2	1-4		
	現代史	2	1-4		
	民俗学	2	2-4		
	政治学	2	1-4		
	法学	2	1-4		
	日本国憲法	2	1-4		
	地理学Ⅰ	2	1-4		
	地理学Ⅱ	2	1-4		
	地誌学Ⅰ	2	1-4		
	地誌学Ⅱ	2	1-4		
	経済学	2	1-4		
	生物進化学	2	1-4		
	生態学	2	1-4		
	情報学	2	1-4		
	人間学Ⅰ	2	1-4		
	人間学Ⅱ	2	1-4		
	考古学Ⅰ	2	2-4		
	考古学Ⅱ	2	2-4		
	美術史Ⅰ	2	2-4		
	美術史Ⅱ	2	2-4		
	差別・人権問題論	2	1-4		
	奈良文化論	2	1-4		
	国際関係論	2	2-4		
	現代社会と法	2	1-4		
	自然の保護	2	1-4		
	環境科学Ⅰ	2	1-4		
	環境科学Ⅱ	2	1-4		
	言語学	2	2-4		
	経営学	2	1-4		
	販売管理論Ⅰ	2	2-4		
	販売管理論Ⅱ	2	2-4		
	販売管理論Ⅲ	2	2-4		
メディア学	2	3-4			
人と防災	2	2-4			
世界の人口問題	2	2-4			
比較文化論	2	3-4			
海外研修	2	1-4			
プロジェクト	1	1-4			
[注記] 必修科目44単位、選択科目A群8単位以上、選択科目B群8単位以上、 選択科目A群、B群、C群から10単位以上、選択科目D群から18単位以上、合計88単位以上					

(3) 文学部・地理学科

地理学科は地理学的な考え方を通して地域社会の多様性や各々の地域の固有の自然環境、歴史、文化、社会について研究する学科である。現代社会における様々な課題を自然地理学および人文地理学の視点から総合的に把握し、地域社会や世界の未来について自分なりの判断を導き出すとともに、高度な情報通信技術と地理空間情報の仕組みを利活用し、地域社会の現状把握や課題解決の方策を提案することができる人材の育成を目指している。また、講義や文献だけでは得られない地理的素養を身につけるためにフィールドワークを重視している。

1) 卒業に必要な単位

科目区分		単位数	
基幹科目	必修科目	42	
	選択科目	A群	8以上
		B群	16以上
		C群	4以上
		D群	18以上
外国語科目	A群（英語）	4以上	A、B群から 4以上
	B群（ドイツ語、フランス語、 中国語、韓国語）		
	C群（日本語 [※留学生のみ]）		
健康・スポーツ科目	スポーツ実技Ⅰ・Ⅱ、 健康科学Ⅰ・Ⅱ	2以上	
情報科目	情報倫理、情報リテラシー	4	4以上
キャリア科目	キャリアデザイン	2	2以上
上記の区分のすべての科目（外国語科目C群は留学生のみ履修可）の卒業要件を超えて修得した単位 指定する他学部・他学科科目 他大学単位互換科目			20以上
合計			124

各科目区分の最低要件のみでは計104単位（88単位＋8単位＋2単位＋4単位＋2単位）であり、卒業要件124単位にはさらに20単位の修得が必要である。この20単位については、基幹科目の選択科目を最低要件よりも多く履修するか、あるいは、基幹科目以外の科目区分の選択科目、指定する他学部・他学科科目、他大学単位互換科目から興味関心に応じて自由に履修することが可能である。

※留学生はC群（日本語）から4単位に加え、母語を除くA、B、C群から4単位、合計8単位

2) 基幹科目の構成

基幹科目は、下表のように構成されている。

	科目区分	単位数	配当年次	科目の概要
必修科目	学問と社会	1科目2	1	大学で学ぶ「学問」の考え方が、専門分野を超えて社会の様々な場面で応用し、将来に生かすための科目
	基礎演習	2科目4	1	各学科の学修内容も入れつつ、大学での学びの技法（スタディ・スキルズ）を身に付けるための科目
	地理学入門	1科目2	1	地理学に関する基礎的な知識と技法
	地理学実習	1科目2	1	
	人文地理学	2科目4	1	
	自然地理学	2科目4	1	
	地誌学	1科目2	1	
	地図学基礎	1科目2	1	
	地理学講読・調査法	1科目2	2	地理学研究の基礎的な知識と技法
	地理学分析・表現法	1科目2	2	
	地理学地域調査演習	1科目4	3	地理学研究の実践
	地理学演習	1科目4	4	
	卒業論文	1科目8	4	地理学研究の実践成果
選択科目	A群	8以上	1 - 2	地理学に関する概論
	B群	16以上	2 - 4	地理学に関する各論
	C群	4以上	2 - 4	地理学に関する技法
	D群	18以上	1 - 4	学科教育に関連する人文、社会、自然にまたがる幅広い知識や教養

3) 履修上の注意

- ・3年次配当科目は、原則として2年次末までに卒業要件46単位以上を修得しなければ履修できない。

- ・地理学科における履修方針

地理学科の専門科目は基礎的な科目を1～2年次に配当し、発展科目および応用的な科目を3～4年次に配当している。応用科目は基礎科目の内容が習得されていることを前提とした、より実践的かつ高度な内容となっている。したがって、基礎科目の単位が修得できていない場合には原則として応用科目の履修は認めない。専門科目の配当年次を確認するとともに、次の注意事項を事前に確認しておくこと。

配当年次が1年次となっている地理学科の必修科目と2年次ゼミに相当する科目は、2年次末までに履修し、単位を修得しなければ、原則として、配当年次が3年次以上となっている科目を履修することはできない。

- ・必修科目の履修方法

1. 基礎演習、地理学入門、地理学実習、人文地理学、自然地理学、地誌学、地図学基礎はそれぞれ1年次に配当された科目であり、地理学を学ぶ上での基礎的な知識と技能を身につけることを目的とする。本学の交換留学制度や3年次編入、2年次以上での転学部・転学科など、学科で特別に認めた場合を除き、これらの科目と2年次の地理学講読・調査法および地理学分析・表現法の単位を全て修得していなければ3年次の地理学地域調査演習および4年次の地理学演習は履修できない。
2. 学問と社会は、1年次に1科目履修。
3. 基礎演習は、1年次に2科目履修。
4. 地理学講読・調査法は2年次ゼミに相当する科目であり、地理学に関わる文献の読解と討論

およびフィールドワークの基礎を学ぶことを目的とする。本学の交換留学制度の利用など、学科で特別に認めた場合を除き、地理学地域調査演習および地理学演習との同時履修はできない。また、選択科目の地理学特殊講義との同時履修もできない。なお、各クラス共に人数制限があるため、事前オリエンテーション時の指示に従うこと。

5. 地理学分析・表現法は2年次ゼミに相当する科目であり、地理空間データの分析、各種情報の地理学的表現方法について学ぶことを目的とする。本学の交換留学制度の利用など、学科で特別に認めた場合を除き、地理学地域調査演習および地理学演習との同時履修はできない。また、選択科目の地理学特殊講義との同時履修もできない。原則として、地理学講読・調査法と同一教員のクラスを履修する。なお、各クラス共に人数制限があるため、事前オリエンテーション時の指示に従うこと。
6. 地理学地域調査演習は3年次ゼミに相当する科目であり、1～2年次までに習得した基礎的な知識と技能を踏まえた上でフィールドワークを実践し、地理学研究の基礎を習得することを目的とする。本学の交換留学制度の利用など、学科で特別に認めた場合を除き、基礎演習、地理学入門、地理学実習、人文地理学、自然地理学、地誌学、地図学基礎、地理学講読・調査法、地理学分析・表現法、地理学演習との同時履修はできない。なお、各クラス共に人数制限があるため、事前オリエンテーション時の指示に従うこと。
7. 地理学演習は4年次ゼミに相当する科目であり、1～2年次までに習得した基礎的な知識と技能に加えて、3年次での実践的な経験を踏まえつつ、単独で地理学研究を遂行し、卒業論文としてまとめることを目的とする。本学の交換留学制度の利用など、学科で特別に認めた場合を除き、地理学講読・調査法、地理学分析・表現法、地理学地域調査演習との同時履修はできない。また、原則として地理学地域調査演習と同一教員のクラスを履修する。なお、各クラス共に人数制限があるため、事前オリエンテーション時の指示に従うこと。

・選択科目の履修方法

1. A群は「概論科目」（地理学の基礎的かつ全般的な内容について学ぶ科目）によって構成され、いずれも1年次から履修することができる。各コースに応じた科目を履修することが望ましいが、特に制限は設けていない。各コースについては54～58ページを参照すること。なお、配当年次は1年次から2年次となっているが、3年次以上でも履修することが可能であるため、必要に応じて履修すること。
2. B群は「各論科目」（地理学に関わる特定分野の深い知識を習得し研究の実態について学ぶ科目）によって構成される。具体的な分野名称をもつ科目は当該分野についての深い知識を習得するための科目であり、2年次から履修することができる。各コースに応じた科目を履修することが望ましいが、特に制限は設けていない。
 - ・地理学特殊講義は地理学に関わる研究の実態を知るための科目であり、3年次から履修することができる。なお、地理学特殊講義は本学の交換留学制度の利用など、地理学科が特に認めた場合を除き、基礎演習、地理学入門、地理学実習、人文地理学、自然地理学、地誌学、地図学基礎、地理学講読・調査法、地理学分析・表現法の全ての科目を修得していることが前提となる。
3. C群は「技法科目」（地理学に関わる様々な技術の習得を目指す科目）によって構成され、いずれも2年次から履修することができる。器具・施設の利用の関係で人数制限を行う場合もあるので、事前登録を要する場合には注意すること。
 - ・測量技法は測量士補資格に必要な科目であり、不定期に実施される集中実習科目である。測量技法は測量学概論の修得者あるいは同時履修者に限って履修でき、履修希望者が多い場合には上位年次生以上を優先する。詳細についてはオリエンテーション時の指示に従うこと。
 - ・フィールドワーク技法は地理学におけるフィールドワークの方法を学ぶための科目であり、実践を通して調査の方法を学ぶ。履修希望者が多い場合には上位年次生以上を優先する。詳細についてはオリエンテーション時の指示に従うこと。
 - ・GISデータ分析技法、リモートセンシング技法は高度な情報技術に関わる科目であるため、事前に情報科目のコンピュータ基礎論、情報処理を履修していることが望ましい。
 - ・リモートセンシング技法はデジタル画像処理に関わる科目であるため、事前に情報科目の

画像編集を履修していることが望ましい。

4. D群は「隣接科目」（地理学との関係性が強い科目あるいは地理学研究を深めるために重要な科目）によって構成され、学科教育に関連する人文、社会、自然にまたがる幅広い知識や教養を身につけることを目的とする。いずれも1年次から履修することができる。各コースに関連する科目をバランスよく履修することが望ましい。

- ・「環境科学Ⅰ」と「環境科学Ⅱ」は2科目で1つの授業であり、2時限連続して開講されるので、各科目を個別単独には履修できない。必ず、指定された組合せに従い2科目同時に履修すること。
- ・「販売管理論Ⅰ～Ⅲ」はリテールマーケティング（販売士）資格取得のための科目である。通常授業とは別に資格試験対策講座も適宜実施する。履修上の注意や方法については、88ページを改めて参照すること。
- ・海外研修は実際の海外での研修に加え、事前事後にも授業を実施する。履修上の注意や方法については89ページを改めて参照すること。
- ・プロジェクトは対象事業のスケジュール次第なので、授業は不定期に実施する。履修上の注意や方法については90ページを改めて参照すること。

4) 学年進行と履修モデル

地理学科では以下の4つのコースを設定している。これは地理学科での授業内容を社会での実践的な課題に応じて整理したものであり、それぞれのコースに対応した科目を履修することで効率的にバランスの取れた履修をすることができる。ただし、それぞれのコースによって各学年の履修科目を制限するものではない。

以上を踏まえた上で、各コースの各学年での科目の履修例を示す。以下の履修モデルは各コースでの学びを体系的に学ぶためのものであるが、履修すべき科目を制限していない。特に、選択科目D群については様々な科目が配されているため、講義要項をよく確認し、各自のテーマや関心に合わせて履修すること。なお、情報科目は地理学科の専門科目ではないが、各コースの推奨科目を示す。また、以下の履修例では資格に関わる科目が含まれていないため、資格の取得希望者は資格関連の科目を加える必要がある。

なお、D群の海外研修やプロジェクト、外国語科目、健康・スポーツ科目、情報科目、キャリア科目、指定する他学部他学科科目、他大学単位互換科目の履修も含め、学年進行にともなう履修上の注意や方法については88ページ以下を改めて参照すること。

・「都市農村・観光交通」コースの履修モデル

地方の発展と活性化に焦点を当てたコース。それぞれの地域が抱えている問題について、都市、農山漁村、産業立地、経済、交通、観光といったキーワードを通して整理する。また、そうした観点から現状を把握するとともに、地域創生の可能性を模索することを目的とする。

下表に示す履修例において、選択科目C群のGISデータ分析技法は情報技術に関わる科目であるため、事前に情報科目のコンピュータ基礎論および情報処理を履修していることが望ましい。

	1年次	2年次	3年次	4年次	
基幹科目 88単位以上	必修科目 (42単位)	学問と社会 基礎演習Ⅰ・Ⅱ 地理学入門 地理学実習 人文地理学Ⅰ・Ⅱ 自然地理学Ⅰ・Ⅱ 地誌学 地図学基礎	地理学講読・調査法 地理学分析・表現法	地理学地域調査演習	地理学演習 卒業論文
	選択科目A群 (8単位以上)	日本地誌概論 地理情報科学概論	計量地理学概論 環境地理学概論		
	選択科目B群 (16単位以上)		都市地理学 村落地理学 経済地理学 観光・交通地理学 人口地理学 災害地理学		地理学特殊講義
	選択科目C群 (4単位以上)		測量技法 GISデータ分析技法 海外巡検	応用地図技法	
	選択科目D群 (18単位以上)	現代史 政治学 自然の保護	経営学 法学	経済学 現代社会と法 メディア学	社会学 生態学
			比較文化論		
情報科目 (4単位以上)	情報リテラシー 情報倫理 コンピュータ基礎論	情報処理	画像編集	動画編集	

※上記は資格を前提としていないため、資格取得希望者は必要な科目を適宜選択して履修すること。
 ※教職免許（社会、地理歴史）を取る学生は、網かけの科目を「教科及び教科の指導法に関する科目」としても数えることができる。

・「歴史的まちなみ・景観文化」コースの履修モデル

地域の歴史と文化に焦点を当てたコース。さまざまな地域の歴史性を踏まえて地図（絵図）、景観、観光、交通といったキーワードを通して整理する。またそうした観点から地域のあり方を考え、将来的発展の可能性を模索することも目的とする。

		1年次	2年次	3年次	4年次
基幹科目 88単位以上	必修科目 (42単位)	学問と社会 基礎演習Ⅰ・Ⅱ 地理学入門 地理学実習 人文地理学Ⅰ・Ⅱ 自然地理学Ⅰ・Ⅱ 地誌学 地図学基礎	地理学講読・調査法 地理学分析・表現法	地理学地域調査演習	地理学演習 卒業論文
	選択科目A群 (8単位以上)	日本地誌概論 世界地誌概論Ⅱ	世界地誌概論Ⅰ 地理情報科学概論		
	選択科目B群 (16単位以上)		歴史地理学 村落地理学 気候学	都市地理学 観光・交通地理学 地形学	地理学特殊講義
	選択科目C群 (4単位以上)		フィールドワーク技法 海外巡検	応用地図技法	
	選択科目D群 (18単位以上)	日本史Ⅰ・Ⅱ 哲学・思想Ⅰ	宗教学 文化人類学 考古学Ⅰ・Ⅱ	文学 比較文化論 言語学 民俗学	
情報科目 (4単位以上)	情報リテラシー 情報倫理 コンピュータ基礎論	情報処理	画像編集	動画編集	

※上記は資格を前提としていないため、資格取得希望者は必要な科目を適宜選択して履修すること。
 ※教職免許（社会、地理歴史）を取る学生は、網かけの科目を「教科及び教科の指導法に関する科目」としても数えることができる。

・「地球環境・自然災害」コースの履修モデル

人類が環境をどの様に受容し克服してきたかを学び、当面する自然災害や地球環境問題を考えるための基礎を身につけることを目的とするコース。自然環境に関する基礎的講義科目のほか、リモートセンシング、GIS、測量学等、自然環境の解析に必要な技術科目も配置した。

下表に示す履修例において、選択科目C群のGISデータ分析技法、リモートセンシング技法は、情報技術に関わる科目であるため、事前に情報教育科目のコンピュータ基礎論、情報処理を履修していることが望ましい。リモートセンシング技法に関しては、上記に加えて、事前に情報科目の画像編集も履修していることが望ましい。

	1年次	2年次	3年次	4年次	
基幹科目 88単位以上	必修科目 (42単位)	学問と社会 基礎演習Ⅰ・Ⅱ 地理学入門 地理学実習 人文地理学Ⅰ・Ⅱ 自然地理学Ⅰ・Ⅱ 地誌学 地図学基礎	地理学講読・調査法 地理学分析・表現法	地理学地域調査演習	地理学演習 卒業論文
	選択科目A群 (8単位以上)	日本地誌概論 計量地理学概論	地理情報科学概論 環境地理学概論		
	選択科目B群 (16単位以上)		災害地理学 水文学 都市地理学	地形学 気候学 村落地理学	地理学特殊講義
	選択科目C群 (4単位以上)		測量技法 リモートセンシング技法 海外巡検	GISデータ分析技法	
	選択科目D群 (18単位以上)	生態学 環境科学Ⅰ・Ⅱ 化学	生物進化学 数学 現代史	自然の保護 物理学 教育学	
情報科目 (4単位以上)	情報倫理 情報リテラシー 情報処理 プログラミング基礎 コンピュータ基礎論		画像編集	WebプログラミングⅠ・Ⅱ	

※上記は資格を前提としていないため、資格取得希望者は必要な科目を適宜選択して履修すること。
 ※教職免許（社会、地理歴史）を取る学生は、網かけの科目を「教科及び教科の指導法に関する科目」としても数えることができる。

・「GIS・データサイエンス」コースの履修モデル

地理空間情報システム（GIS）およびリモートセンシングを中心とした技術に焦点を当てたコース。これらの技術の地理学における位置づけについて学ぶとともに、関連する技術として統計処理、プログラミング、データベース、画像処理に関する高度な技術を身につけることを目的とする。

下表に示す履修例において、選択科目C群のGISデータ分析技法、リモートセンシング技法は、情報技術に関わる科目であるため、事前に情報科目のコンピュータ基礎論および情報処理を履修していることが望ましい。リモートセンシング技法に関しては、上記に加えて、事前に情報科目の画像編集も履修していることが望ましい。

	1年次	2年次	3年次	4年次	
基幹科目 88単位以上	必修科目 (42単位)	学問と社会 基礎演習Ⅰ・Ⅱ 地理学入門 地理学実習 人文地理学Ⅰ・Ⅱ 自然地理学Ⅰ・Ⅱ 地誌学 地図学基礎	地理学講読・調査法 地理学分析・表現法	地理学地域調査演習	地理学演習 卒業論文
	選択科目A群 (8単位以上)	日本地誌概論 計量地理学概論	地理情報科学概論 環境地理学概論		
	選択科目B群 (16単位以上)		都市地理学 経済地理学 地形学	村落地理学 人口地理学 気候学	地理学特殊講義
	選択科目C群 (4単位以上)		GISデータ分析技法 海外巡検	リモートセンシング技法	
	選択科目D群 (18単位以上)	現代史 数学	経営学 社会学	物理学 政治学	情報学 メディア学
			国際関係論		
情報科目 (4単位以上)	情報倫理 情報リテラシー 情報処理 プログラミング基礎 コンピュータ基礎論		データ分析法Ⅱ WebプログラミングⅠ・Ⅱ		

※上記は資格を前提としていないため、資格取得希望者は必要な科目を適宜選択して履修すること。
 ※教職免許（社会、地理歴史）を取る学生は、網かけの科目を「教科及び教科の指導法に関する科目」としても数えることができる。

5) 地理学科限定取得可能資格

・測量士補資格

測量士補は測量法第51条1号に規定される「大学において、測量に関する科目を修め、当該大学を卒業した者」に与えられる国家資格であり、奈良大学では地理学科開設当時から認定を受けている。下表に示した測量に関する科目（40単位）を修得し、卒業後、国土地理院に申請をした場合、測量士補が認定される。なお、測量士補の資格取得後、最低1年の実務経験を積み、その実務証明をもって国土地理院に申請すれば、測量士の資格を得ることができる。

測量法施行令に規定する分類	必要最低単位	本学授業科目名
測量学	4	測量学概論、地図学基礎
測量学実習	2	測量技法
地形学・第四紀学	2	自然地理学Ⅰ・Ⅱ、地形学
都市地理	4	都市地理学、村落地理学、人口地理学
地理調査法	6	地理学実習、地理学講読・調査法、地理学地域調査演習
気候学・陸水学	4	気候学、水文学、地理学特殊講義（自然系）
人文地理学	6	人文地理学Ⅰ・Ⅱ、地誌学、日本地誌概論、世界地誌概論Ⅰ・Ⅱ、地理学特殊講義（人文系）
応用地理学	6	災害地理学、経済地理学、歴史地理学、観光・交通地理学、地理学特殊講義（自然系・人文系）
地理情報科学	6	地理情報科学概論、計量地理学概論、GISデータ分析技法、リモートセンシング技法、応用地図技法

〈測量士補及び測量士の資格申請について〉

資格に必要な単位を満たした者は、卒業後各自で以下の要領により申請を行うこと。

〔申請方法〕



〔申請書類〕

測 量 士 補			測 量 士		
必要書類	部数	取扱部署	必要書類	部数	取扱部署
測量士補登録申請書	1部	測量協会	測量士登録申請書	1部	測量協会
卒業証明書	1部	学生支援センター(教務担当)	卒業証明書	1部	学生支援センター(教務担当)
成績(単位修得)証明書	1部	学生支援センター(教務担当)	成績(単位修得)証明書	1部	学生支援センター(教務担当)
			実務証明書	1部	測量会社

〔書類の提出先〕

〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番 国土交通省 国土地理院 総務部 総務課 御中
(TEL) 0298-64-1111

※郵送の場合は、必ず書留郵便にすること。

〔申請書類の入手先〕

国土地理院 WEB サイト (<http://www.gsi.go.jp/>) の「測量士・測量士補国家試験及び登録」コーナー (<http://www.gsi.go.jp/LAW/SHIKEN/SHIKEN-top.htm>) より無料でダウンロードすることができる。(2023年2月現在)

・GIS 学術士資格

GIS 学術士は地理空間情報システム（GIS）に関する資格であり、下表に示したGIS に関する科目を修得することに加えて、GIS を利用した卒業論文を執筆し、卒業後に公益社団法人日本地理学会に申請することにより認められる。

卒業論文ではGIS を利用して複数の主題図を作成するとともに、1 つ以上の手法の空間分析を実行した卒業論文の執筆が条件となっており、成績証明書に加えて、GIS を利用した結果を示す複数の図を含む卒業論文要旨を提出しなければならない。

GIS 学術士は測量との関係も深いため、測量士補資格とあわせて取得することが望ましい。また、高等学校の地理総合の科目にもGIS が含まれているため、教職を希望する学生も取得しておくことが望ましい。なお、本学大学院地理学専攻にて所定の単位を取得することで得られるGIS 専門学術士はGIS 学術士の上位資格であり、あらかじめGIS 学術士を取得済みであることが条件となる。

本資格の詳細については日本地理学会資格専門委員会の WEB サイトを参照すること。

<http://ajg-certi.jp/>

科目種別	科目名	備考
【A群】 (1 単位以上)	情報倫理	GIS に関連する情報を中心とする科目。
	情報リテラシー	
【B群】 (2 単位以上)	地理情報科学概論	GIS の基本的機能と空間データの講義を中心とする科目。
	計量地理学概論	
【C群】 (2 単位以上)	GIS データ分析技法	GIS による地図作成・空間分析の実習を中心とする科目。
	リモートセンシング技法	
	応用地図技法	
【D群】 (4 単位以上)	卒業論文	GIS を利用した卒業論文の執筆。GIS を利用して複数の主題図を作成するとともに、1 つ以上の手法の空間分析を実行した卒業論文の執筆が条件となる。この科目については成績証明書に加えて、GIS を利用した結果を示す複数の図を含む卒業論文要旨を提出しなければならない。

・地域調査士

地域調査士は地域調査の知識や技術を用いて地域の自然、社会、人文現象等を総合的にとらえる調査能力をもった地域調査の専門家のことである。下表に示した地域調査に関する科目を修得することに加えて、地域調査に関する卒業論文を提出し、地域調査士講習会を受講することが資格取得の条件となる。これらの条件を満たした上で卒業後に公益社団法人日本地理学会に申請することにより認められる。本学における認定科目など、詳細についてはオリエンテーション時に指示する。

なお、在学中に一定の単位を取得して地域調査士講習会を受講した場合は地域調査士取得見込み証明書の発行を受けることができる。

本資格の詳細については日本地理学会資格専門委員会の WEB サイトを参照すること。

<http://ajg-certi.jp/>

大項目	小項目	科目名
地域の概念及び特性に関する科目	地域の概念を扱う科目	人文地理学Ⅰ
		人文地理学Ⅱ
	日本の地域特性を扱う科目	日本地誌概論
		自然地理学Ⅰ
地域の自然を扱う科目	自然地理学Ⅱ	
	地理学実習	
地域調査の技法に関する科目	統計処理に関する科目	地図学基礎
	地図に関する科目	地理学地域調査演習
地域調査実習に関する科目	フィールドワーク	

6) 地理学科基幹科目配当表

区分	科目名	単位	配当 年次	備考	
必修科目	学問と社会	2	1	42単位必修 合計88単位 以上必修	
	基礎演習Ⅰ	2	1		
	基礎演習Ⅱ	2	1		
	地理学入門	2	1		
	地理学実習	2	1		
	人文地理学Ⅰ	2	1		
	人文地理学Ⅱ	2	1		
	自然地理学Ⅰ	2	1		
	自然地理学Ⅱ	2	1		
	地誌学	2	1		
	地図学基礎	2	1		
	地理学講読・調査法	2	2		
	地理学分析・表現法	2	2		
	地理学地域調査演習	4	3		
	地理学演習	4	4		
卒業論文	8	4			
選択科目	A群	日本地誌概論	2	1-2	8単位以上必修
		世界地誌概論Ⅰ	2	1-2	
		世界地誌概論Ⅱ	2	1-2	
		測量学概論	2	1-2	
		地理情報科学概論	2	1-2	
		計量地理学概論	2	1-2	
		環境地理学概論	2	1-2	
	B群	都市地理学	2	2-4	16単位以上必修
		経済地理学	2	2-4	
		村落地理学	2	2-4	
		歴史地理学	2	2-4	
		観光・交通地理学	2	2-4	
		人口地理学	2	2-4	
		地形学	2	2-4	
		気候学	2	2-4	
		水文学	2	2-4	
		災害地理学	2	2-4	
	地理学特殊講義	2	3-4		
	C群	測量技法	2	2-4	4単位以上必修
		応用地図技法	2	2-4	
		フィールドワーク技法	2	2-4	
		リモートセンシング技法	2	2-4	
		G I Sデータ分析技法	2	2-4	
		G I Sマネジメント技法	2	2-4	
G I Sプログラミング技法		2	2-4		
海外巡検	2	2-4			

選択科目	D群	哲学・思想Ⅰ	2	1-4	18単位以上必修
		哲学・思想Ⅱ	2	1-4	
		宗教学	2	1-4	
		倫理学	2	1-4	
		日本史Ⅰ	2	1-4	
		日本史Ⅱ	2	1-4	
		外国史Ⅰ	2	1-4	
		外国史Ⅱ	2	1-4	
		文学	2	1-4	
		心理学	2	1-4	
		社会学	2	1-4	
		教育学	2	1-4	
		文化人類学	2	1-4	
		現代史	2	1-4	
		民俗学	2	2-4	
		政治学	2	1-4	
		法学	2	1-4	
		日本国憲法	2	1-4	
		経済学	2	1-4	
		生物進化学	2	1-4	
		生態学	2	1-4	
		情報学	2	1-4	
		人間学Ⅰ	2	1-4	
		人間学Ⅱ	2	1-4	
		考古学Ⅰ	2	2-4	
		考古学Ⅱ	2	2-4	
		美術史Ⅰ	2	2-4	
		美術史Ⅱ	2	2-4	
		差別・人権問題論	2	1-4	
		奈良文化論	2	1-4	
		国際関係論	2	2-4	
		現代社会と法	2	1-4	
		自然の保護	2	1-4	
		環境科学Ⅰ	2	1-4	
		環境科学Ⅱ	2	1-4	
		言語学	2	2-4	
		経営学	2	1-4	
		メディア学	2	3-4	
		数学	2	1-4	
		化学	2	1-4	
物理学	2	1-4			
比較文化論	2	3-4			
販売管理論Ⅰ	2	2-4			
販売管理論Ⅱ	2	2-4			
販売管理論Ⅲ	2	2-4			
海外研修	2	1-4			
プロジェクト	1	1-4			
[注記] 必修科目42単位、選択科目A群8単位以上、選択科目B群16単位以上、選択科目C群4単位以上、 選択科目D群18単位以上、合計88単位以上					

(4) 文学部・文化財学科

歴史遺産に恵まれた古都奈良を拠点として、日本から世界へと広く視野を広げながら歴史や文化を学ぶ。考古学・美術史学・史料学・保存科学の専攻分野に分かれて専門知識や研究方法を学ぶとともに、文化財を総合的に理解して、文化財の保護・活用に積極的に取り組めるような人材を目指す。

1) 卒業に必要な単位

科目区分		単位数	
基幹科目	必修科目	40以上	
	選択科目	A群	12以上
		B群	8以上
		C群	10以上
		D群	18以上
外国語科目	A群(英語)	4以上	A、B群から 4以上
	B群(ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語)		
	C群(日本語 [※留学生のみ])		
健康・スポーツ科目	スポーツ実技Ⅰ・Ⅱ、健康科学Ⅰ・Ⅱ	2以上	
情報科目	情報倫理、情報リテラシー	4	4以上
キャリア科目	キャリアデザイン	2	2以上
上記の区分のすべての科目(外国語科目C群は留学生のみ履修可)の卒業要件を超えて修得した単位 指定する他学部・他学科科目 他大学単位互換科目			20以上
合計			124

各科目区分の最低要件のみでは計104単位(88単位+8単位+2単位+4単位+2単位)であり、卒業要件124単位にはさらに20単位必要である。この20単位については基幹科目の選択科目を最低要件を超えて履修するか、あるいは、基幹科目以外の科目区分の選択科目、指定する他学部・他学科科目、他大学単位互換科目を興味関心に応じて履修することができる。

※留学生はC群(日本語)から4単位に加え、母語を除くA、B、C群から4単位、合計8単位

2) 専攻分野とコース

・文化財学科の分野構成

文化財学科は、次の4分野で構成される。

各自の専攻分野は、3年次配当の演習の選択により決定する。2年次の1月にガイダンスを行う。

考古学…埋もれた遺跡を発掘し、出土した様々な考古資料を研究して、人類の歴史を再構成する学問である。そのために必要な知識や技術を学び研究する。

美術史学…美術作品(絵画・彫刻・工芸など)の形態的特徴やその変遷、成立背景、来歴などを研究し、美術の歴史を研究する。また、その意味や機能について考察する。

史料学…木簡、金石文、古文書、古記録など、文字の書かれた文化財(文献史料)を使って、主に古代の歴史や文化を考究する。

保存科学…文化財を保存するための科学的な研究を行う。また、保存のための実践的な技術を学ぶ。

3) 基幹科目の構成

基幹科目は、下表のように構成されている。

	科目区分	単位数	配当年次	科目の概要
必修科目	学問と社会	1科目2	1	大学で学ぶ「学問」の考え方が、専門分野を超えて社会の様々な場面で応用し、将来に生かすための科目
	基礎演習	2科目4	1	各学科の学修内容も入れつつ、大学での学びの技法（スタディ・スキルズ）を身に付けるための科目
	文化財学研究法	2科目4	1	文化財学への入門講座的な科目
	講読	3科目6	2	文献講読、史料読解、外国語学習など
	文化財演習	2科目4	2	各専門分野の導入的な演習科目
	実習	4科目4	3	文化財を「見る・触る・修理する」の実践
	演習	4科目8	3-4	研究テーマの設定、成果の発表
	卒業論文	1科目8	4	研究テーマについての論文作成
選択科目	A群	12以上	1-4	概論（各分野の基礎的学習）
	B群	8以上	3-4	特殊講義（各分野の専門的・個別的学習）
	C群	10以上	2-4	文化財に関する多彩な講義
	D群	18以上	1-4	学科教育に関連する人文・社会、自然にまたがる幅広い知識や教養

4) 履修上の注意

- ・ 3年次配当科目は、原則として2年次末までに卒業要件46単位以上を修得しなければ履修できない。
- ・ 2年生までの修得単位が46単位未満のものは、3・4年生の演習を同時履修することはできない。ただし、3年時において演習の成績が不可となった場合は、同時履修を認めることがある。
- ・ 必修科目の履修方法
 1. 学問と社会は、1年次に1科目履修。
 2. 基礎演習は、1年次に2科目履修。
 3. 文化財学研究法はIとIIがある。Iは1年次の前期に、IIは1年次の後期に、それぞれ指定されたクラスで履修する。
 4. 講読は4分野からなり、それぞれIとIIがある。その中から3科目を選び、2年次に履修する。
 5. 文化財演習は、IとIIがある。Iは2年次の前期に、IIは2年次の後期に、それぞれ指定されたクラスで履修する。
 6. 実習は3分野からなり、それぞれIからIVまでである。その中から1分野を選び、IからIVまでを3年次に履修する。なお、演習との対応関係に制限がある（この点については、1月に開催予定の学科ガイダンスで説明する）。
 7. 演習は4分野からなり、それぞれIからIVまでである。その中から1分野を選び、I・IIを3年次に、III・IVを4年次に履修する。なお、演習の選択に際しては、原則として希望する専攻分野の講読と概論I・IIを修得していることが必要である。
 8. 卒業論文は演習と同じ分野で作成するものとする。
- ・ 選択科目の履修方法
 1. A群は4分野の概論からなり、それぞれIとIIがある。その中から6科目を履修する。1年次から履修できる。
 2. B群は4分野の特殊講義からなる。その中から4科目を履修する。
 3. C群は18科目の講義からなる。その中から5科目を履修する。2年次から履修できる。
 4. D群…学科教育に関連する人文、社会、自然にまたがる幅広い知識や教養を身につける。

- ・「環境科学Ⅰ」と「環境科学Ⅱ」は2科目で1つの授業であり、2時限連続して開講されるので、各科目を個別単独には履修できない。必ず、指定された組合せに従い2科目同時に履修すること。
- ・「販売管理論Ⅰ～Ⅲ」は、リテールマーケティング（販売士）資格取得のための科目である。通常授業とは別に資格試験対策講座も適宜実施する。履修上の注意や方法については、88ページを改めて参照すること。
- ・海外研修は、実際の海外での研修に加え、事前事後にも授業を実施する。履修上の注意や方法については、89ページを改めて参照すること。
- ・プロジェクトは、対象事業のスケジュール次第なので、授業は不定期に実施する。履修上の注意や方法については、90ページを改めて参照すること。

・その他

既に単位を修得した科目は再び履修できない。ただし、選択科目B群（特殊講義）については、この限りでない。

5) 学年進行と履修モデル

以上をまとめた年次別の履修モデルが次に示す表である。なお、D群の海外研修やプロジェクト、外国語科目、健康・スポーツ科目、情報科目、キャリア科目、指定する他学部他学科科目、他大学単位互換科目の履修も含めた学年進行にともなう履修上の注意や方法については、88ページ以下を改めて参照すること。

基幹科目 88単位以上	1年次	2年次	3年次	4年次		
必修科目 (40単位)	学問と社会 基礎演習Ⅰ・Ⅱ 文化財学研究法Ⅰ・Ⅱ	文化財演習Ⅰ・Ⅱ 考古学講読Ⅰ・Ⅱ 美術史講読Ⅰ・Ⅱ 史料学講読Ⅰ・Ⅱ 保存科学講読Ⅰ・Ⅱ	考古学演習Ⅰ・Ⅱ 美術史演習Ⅰ・Ⅱ 史料学演習Ⅰ・Ⅱ 保存科学演習Ⅰ・Ⅱ 考古学実習Ⅰ～Ⅳ 美術史実習Ⅰ～Ⅳ 保存科学実習Ⅰ～Ⅳ	考古学演習Ⅲ・Ⅳ 美術史演習Ⅲ・Ⅳ 史料学演習Ⅲ・Ⅳ 保存科学演習Ⅲ・Ⅳ 卒業論文		
選択科目A群 (12単位)	考古学概論Ⅰ・Ⅱ 美術史概論Ⅰ・Ⅱ 史料学概論Ⅰ・Ⅱ 保存科学概論Ⅰ・Ⅱ					
選択科目B群 (8単位)	/		考古学特殊講義 美術史特殊講義 史料学特殊講義 保存科学特殊講義			
選択科目C群 (10単位)	/		文化財情報学 先史考古学 工芸史 文化財環境学 文化財修復学	考古学研究法 日本絵画史 文化財分析学 世界考古学 東洋美術史	日本彫刻史 文化財修景学 仏教考古学 宗教文化史 建築史	歴史考古学 文献史料学 世界遺産学
選択科目D群 (18単位以上)	奈良文化論 哲学・思想Ⅰ・Ⅱ 日本史Ⅰ・Ⅱ 宗教学	外国史Ⅰ・Ⅱ 文学 文化人類学 民俗学				

※教職免許（社会、地理歴史）を取る学生は、網かけの科目を「教科及び教科の指導法に関する科目」としても数えることができる。

- 1年次
 1. 必修科目の文化財学研究法Ⅰ・Ⅱを履修する（クラス指定あり）。
 2. 必修科目の基礎演習Ⅰ・Ⅱを履修する（Ⅰはクラス指定あり）。
 3. 必修科目の学問と社会を履修する。
 4. 選択科目A群を履修する。卒業に必要な12単位（6科目分）は、1年次に修得しておくことが望ましい。
 5. 選択科目D群を履修する。卒業に必要な18単位（9科目分）は、1～2年次に修得しておくことが望ましい。
- 2年次
 1. 必修科目の文化財演習Ⅰ・Ⅱを履修する（クラス指定あり）。
 2. 必修科目の講読を履修する。卒業に必要な6単位（3科目分）は、2年次に修得しておくことが望ましい。
 3. 選択科目C群を履修する。卒業に必要な10単位（5科目分）は、2年次に修得しておくことが望ましい。
- 3年次
 1. 必修科目の実習Ⅰ～Ⅳを履修する（3分野から1つを選択）。
 2. 必修科目の演習Ⅰ・Ⅱを履修する（4分野から1つを選択）。
 3. 選択科目B群を履修する。卒業に必要な8単位（4科目分）は、3年次の終わりまでに修得しておくことが望ましい。
- 4年次
 1. 必修科目の演習Ⅲ・Ⅳ（原則として3年次の演習Ⅰ・Ⅱと同一教員が担当をするもの）を履修する。
 2. 卒業論文を作成する。

6) 文化財学科基幹科目配当表

区分	科目名	単位	配当年次	備考		
必修科目	学問と社会	2	1	40単位必修 合計88単位以上必修		
	文化財学研究法Ⅰ	2	1			
	文化財学研究法Ⅱ	2	1			
	基礎演習Ⅰ	2	1		3科目6単位	
	基礎演習Ⅱ	2	1			
	文化財演習Ⅰ	2	2			
	文化財演習Ⅱ	2	2			
	考古学講読Ⅰ	2	2			
	考古学講読Ⅱ	2	2			
	美術史講読Ⅰ	2	2			
	美術史講読Ⅱ	2	2			
	史料学講読Ⅰ	2	2			
	史料学講読Ⅱ	2	2			
	保存科学講読Ⅰ	2	2			
	保存科学講読Ⅱ	2	2			
	考古学実習Ⅰ	1	3		4科目4単位	
	考古学実習Ⅱ	1	3			
	考古学実習Ⅲ	1	3			
	考古学実習Ⅳ	1	3			
	美術史実習Ⅰ	1	3			
	美術史実習Ⅱ	1	3			
	美術史実習Ⅲ	1	3			
	美術史実習Ⅳ	1	3			
	保存科学実習Ⅰ	1	3			
	保存科学実習Ⅱ	1	3			
	保存科学実習Ⅲ	1	3			
	保存科学実習Ⅳ	1	3			
	考古学演習Ⅰ	2	3		4科目8単位	
	考古学演習Ⅱ	2	3			
	考古学演習Ⅲ	2	4			
	考古学演習Ⅳ	2	4			
	美術史演習Ⅰ	2	3			
	美術史演習Ⅱ	2	3			
美術史演習Ⅲ	2	4				
美術史演習Ⅳ	2	4				
史料学演習Ⅰ	2	3				
史料学演習Ⅱ	2	3				
史料学演習Ⅲ	2	4				
史料学演習Ⅳ	2	4				
保存科学演習Ⅰ	2	3				
保存科学演習Ⅱ	2	3				
保存科学演習Ⅲ	2	4				
保存科学演習Ⅳ	2	4				
卒業論文	8	4				
選択科目	A群	考古学概論Ⅰ	2	1-4	12単位以上必修	
		考古学概論Ⅱ	2	1-4		
		美術史概論Ⅰ	2	1-4		
		美術史概論Ⅱ	2	1-4		
		史料学概論Ⅰ	2	1-4		
		史料学概論Ⅱ	2	1-4		
		保存科学概論Ⅰ	2	1-4		
		保存科学概論Ⅱ	2	1-4		
	B群	考古学特殊講義	2	3-4	8単位以上必修	
		美術史特殊講義	2	3-4		
		史料学特殊講義	2	3-4		
		保存科学特殊講義	2	3-4		

C群	文化財情報学	2	2-4	10単位以上必修		
	文化財修景学	2	2-4			
	文化財分析学	2	2-4			
	文化財環境学	2	2-4			
	文化財修復学	2	2-4			
	考古学研究法	2	2-4			
	先史考古学	2	2-4			
	歴史考古学	2	2-4			
	仏教考古学	2	2-4			
	世界考古学	2	2-4			
	東洋美術史	2	2-4			
	日本彫刻史	2	2-4			
	日本絵画史	2	2-4			
	工芸史	2	2-4			
	文献史科学	2	2-4			
	宗教文化史	2	2-4			
	世界遺産学	2	2-4			
	建築史	2	2-4			
	D群	哲学・思想Ⅰ	2		1-4	18単位以上必修
		哲学・思想Ⅱ	2		1-4	
宗教学		2	1-4			
倫理学		2	1-4			
日本史Ⅰ		2	1-4			
日本史Ⅱ		2	1-4			
外国史Ⅰ		2	1-4			
外国史Ⅱ		2	1-4			
文学		2	1-4			
心理学		2	1-4			
社会学		2	1-4			
教育学		2	1-4			
文化人類学		2	1-4			
現代史		2	1-4			
民俗学		2	2-4			
政治学		2	1-4			
法学		2	1-4			
日本国憲法		2	1-4			
地理学Ⅰ		2	1-4			
地理学Ⅱ		2	1-4			
地誌学Ⅰ		2	1-4			
地誌学Ⅱ		2	1-4			
経済学		2	1-4			
情報学		2	1-4			
人間学Ⅰ		2	1-4			
人間学Ⅱ		2	1-4			
差別・人権問題論		2	1-4			
奈良文化論		2	1-4			
国際関係論		2	2-4			
現代社会と法		2	1-4			
自然の保護		2	1-4			
環境科学Ⅰ		2	1-4			
環境科学Ⅱ		2	1-4			
言語学		2	2-4			
経営学		2	1-4			
販売管理論Ⅰ		2	2-4			
販売管理論Ⅱ		2	2-4			
販売管理論Ⅲ		2	2-4			
メディア学		2	3-4			
人と防災		2	2-4			
世界の人口問題	2	2-4				
比較文化論	2	3-4				
海外研修	2	1-4				
プロジェクト	1	1-4				
[注記] 必修科目40単位、選択科目A群12単位以上、選択科目B群8単位以上、選択科目C群10単位以上、 選択科目D群18単位以上、合計88単位以上						

(5) 社会学部・心理学科

心理学科では、社会心理学と臨床心理学を柱として、人の心や人間関係のメカニズムと機能、心理的多様性や人間関係上の諸問題、心理学的援助技法等を学ぶ。これらの知識の修得を通して、心理学の基礎に立脚して実践的に問題解決のできる人材の育成を目指している。

心理学科では、卒業論文の作成に際して、「社会心理学コース」または「臨床心理学コース」を設けている。「社会心理学コース」では、実証的心理学の基礎知識と技術を学び、「人間の心のメカニズムと機能」が、人間と社会の相互作用の上に成り立っていることへの理解を目指す。「臨床心理学コース」では、科学的心理学の基礎を学んだ上で、現代社会の「心の問題」に対処する知識や技術の修得を目指す。学生諸君はいずれかに所属する教員のもとで指導を受けることとなるが、入学直後からいずれかを重点的に学ぶのではなく、まずは両方のコースの知識と技術を偏りなく修得していることが大切である。

1年次と2年次においては、社会心理学と臨床心理学の基礎的知識と技術を両方の分野にわたって偏りなく学ぶため、心理学の数多くの分野の講義を受講しながら、両方のコースの実習科目を履修して専門的な研究方法の修得を目指す。そして、3～4年次には「社会心理学演習」または「臨床心理学演習」を履修して、いずれかのコースの専門分野の研究を深めて卒業論文に取り組むこととなる。

1) 卒業に必要な単位

科目区分			単位数			
基幹科目	必修科目		36			88 以上
	選択科目	A群	6以上	A、B、C群から 20以上	34 以上	
		B群	8以上			
		C群				
		D群				
		18以上				
外国語科目	A群（英語）	4以上	A、B群から 4以上		8 以上	
	B群（ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語）					
	C群（日本語 [※留学生のみ]）					
健康・スポーツ科目	スポーツ実技Ⅰ・Ⅱ、健康科学Ⅱ		2以上		2 以上	
情報科目	情報倫理、情報リテラシー	4			4 以上	
キャリア科目	キャリアデザイン	2			2 以上	
上記の区分のすべての科目（外国語科目C群は留学生のみ履修可）の卒業要件を超えて修得した単位 指定する他学部・他学科科目 他大学単位互換科目					20 以上	
合計					124	

各科目区分の最低要件のみでは計104単位（88単位＋8単位＋2単位＋4単位＋2単位）であり、卒業要件124単位にはさらに20単位必要である。この20単位については基幹科目の選択科目を最低要件を超えて履修するか、あるいは、基幹科目以外の科目区分の選択科目、指定する他学部・他学科科目、他大学単位互換科目を興味関心に応じて履修することができる。

※留学生はC群（日本語）から4単位に加え、母語を除くA、B、C群から4単位、合計8単位

2) 基幹科目の構成

基幹科目は、下表のように構成されている。

	科目区分	単位数	配当年次	科目の概要
必修科目	学問と社会	1科目2	1	大学で学ぶ「学問」の考え方が、専門分野を超えて社会の様々な場面で応用し、将来に生かすための科目
	基礎演習	2科目4	1	各学科の学修内容も入れつつ、大学での学びの技法（スタディ・スキルズ）を身に付けるための科目
	心理学概論	1科目2	1	心理学全般の基礎となる講義
	社会心理学概論	1科目2	1	社会心理学に関する基礎的知識の修得
	臨床心理学概論	1科目2	1	臨床心理学に関する基礎的知識の修得
	心理学統計法 I	1科目2	1	記述統計と推測統計の基礎の修得
	心理学実験	1科目2	1	研究技法と結果報告の基礎の修得
	心理学研究法	1科目2	2	心理学の研究方法の基礎の修得
	社会心理学基礎実習	1科目1	2	社会心理学の研究方法を実習する
	臨床心理学基礎実習	1科目1	2	臨床心理学の研究方法を実習する
	社会心理学演習	4科目8	3 - 4	少人数の演習による研究の実践
	臨床心理学演習	4科目8	3 - 4	少人数の演習による研究の実践
	卒業論文	1科目8	4	各人の研究テーマに関する論文作成
選択科目	A群	6以上	2 - 4	心理学の各領域の概論系科目群
	B群	8以上	1 - 4	テーマを絞った各論系科目群
	C群		3 - 4	方法論や実習に関する科目群
	D群	18以上	1 - 4	隣接領域を中心に幅広く学ぶ

3) 学年進行と履修モデル

次に示す表は、年次別の履修モデルである。なお、D群の海外研修やプロジェクト、外国語科目、健康・スポーツ科目、情報科目、キャリア科目、指定する他学部他学科科目、他大学単位互換科目の履修も含めた学年進行にともなう履修上の注意や方法については、88ページ以下を改めて参照すること。

基幹科目 88単位以上	1年次	2年次	3年次	4年次
必修科目 (36単位)	学問と社会 基礎演習Ⅰ・Ⅱ 心理学概論 社会心理学概論 臨床心理学概論 心理学統計法Ⅰ 心理学実験	心理学研究法 社会心理学基礎実習 臨床心理学基礎実習	社会心理学演習Ⅰ・Ⅱ 臨床心理学演習Ⅰ・Ⅱ	社会心理学演習Ⅲ・Ⅳ 臨床心理学演習Ⅲ・Ⅳ 卒業論文
選択科目A群 (6単位以上)		知覚・認知心理学Ⅰ・Ⅱ 学習・言語心理学 神経・生理心理学 教育・学校心理学 発達心理学 社会・集団・家族心理学 応用社会心理学 感情・人格心理学		
選択科目B群 (8単位以上)	人体の構造と機能及び疾病			
		青年心理学 進化心理学 応用心理学 集団力学 対人社会心理学 産業・組織心理学 文化心理学 障害者・障害児心理学 福祉心理学 心理学的支援法Ⅰ・Ⅱ 司法・犯罪心理学 健康・医療心理学 精神疾患とその治療 臨床心理学特殊講義 社会心理学特殊講義		
選択科目C群 (選択A群・ B群・C群から 20単位以上)			心理学統計法Ⅱ 公認心理師の職責 関係行政論 心理的アセスメントⅠ・Ⅱ 心理演習(カウンセリング)Ⅰ・Ⅱ 社会心理学実験演習	
				心理実践演習 (心理実習)
選択科目D群 (18単位以上)	哲学・思想Ⅰ・Ⅱ 宗教学 倫理学 日本史Ⅰ 外国史Ⅰ 文学 社会学 教育学 文化人類学 現代史 政治学 法学 日本国憲法 地理学Ⅰ 地誌学Ⅰ 経済学 生物進化学 生態学 情報学 人間学Ⅰ・Ⅱ 差別・人権問題論 奈良文化論 現代社会と法 自然の保護 環境科学Ⅰ・Ⅱ 経営学 数学 化学 物理学 海外研修 プロジェクト			
		民俗学 考古学Ⅰ・Ⅱ 美術史Ⅰ・Ⅱ 国際関係論 言語学 人と防災 世界の人口問題 販売管理論Ⅰ～Ⅲ		
			メディア学	

4) 履修上の注意

- ・3年次配当科目は、原則として2年次末までに卒業要件46単位以上を修得しなければ履修できない。
- ・臨床心理学演習・社会心理学演習について、Ⅰ・Ⅱをともに修得していない場合、本学の交換留学制度の利用など、心理学科が特に認めた場合を除き、Ⅲ・Ⅳの履修はできない。
- ・必修科目の履修方法
 1. 学問と社会は、1年次に1科目履修。
 2. 基礎演習は、1年次に2科目履修。
 3. 1年次に以下の科目を履修する。
 - ・「心理学概論」「社会心理学概論」「臨床心理学概論」、「心理学統計法Ⅰ」、「心理学実験」合計10単位（「学問と社会」「基礎演習Ⅰ」「基礎演習Ⅱ」を含めると16単位）を修得すること。このうち、「心理学実験」は実習科目であり、他の科目に比べて出席と課題提出の比重が高いため注意すること。
 4. 2年次に以下の科目を履修する。
 - ・「心理学研究法」「社会心理学基礎実習」「臨床心理学基礎実習」合計4単位を修得すること。このうち、「社会心理学基礎実習」「臨床心理学基礎実習」は実習科目であり、他の科目に比べて出席と課題提出の比重が高いため注意すること。
 - ・基礎実習科目の履修方法の詳細は、3月末に行うガイダンスで指示する。
 5. 演習科目を3、4年次に履修する。
 - ・「社会心理学演習」「臨床心理学演習」のどちらかについて、Ⅰ～Ⅳそれぞれ2単位ずつ合計8単位を修得しなければならない。
 - ・演習科目のⅠ～Ⅳは、原則として同一教員のクラスを履修しなければならない。
 - ・演習科目のクラス配属は、本人の希望と2年次の成績などに基づいて、2年次後期に決定する。配属方法の詳細は、2年次後期に行うガイダンスで指示する。
 6. 卒業論文を4年次に履修する。
 - ・「卒業論文」は、原則として演習科目と同一教員の指導を受け、卒業論文を作成する。
- ・選択科目の履修方法
 - ・34単位を2年次～4年次に履修する。
 - ・既に単位を修得した科目を再び履修することはできない。ただし、社会心理学特殊講義、臨床心理学特殊講義については、講義名の後の漢数字が異なる場合は、別科目として扱われる。
 - ・A群…9科目の中から3科目6単位以上を履修する必要がある。
 - ・B群…17科目の中から4科目8単位以上を履修する必要がある。
 - ・C群…C群には最低限履修すべき単位数は設定されていない。ただし、A群、B群、C群の合計で34単位以上を履修する必要がある（A群、B群のみで34単位以上にしてもよい）。
 - ・D群…学科教育に関連する人文、社会、自然にまたがる幅広い知識や教養を身につける。18単位以上を履修する必要がある。
 - ・「環境科学Ⅰ」と「環境科学Ⅱ」は2科目で1つの授業であり、2時限連続して開講されるので、各科目を個別単独には履修できない。必ず、指定された組合せに従い2科目同時に履修すること。
 - ・「販売管理論Ⅰ～Ⅲ」は、リテールマーケティング（販売士）資格取得のための科目である。通常授業とは別に資格試験対策講座も適宜実施する。履修上の注意や方法については、88ページを改めて参照すること。
 - ・海外研修は、実際の海外での研修に加え、事前事後にも授業を実施する。履修上の注意や方法については、89ページを改めて参照すること。
 - ・プロジェクトは、対象事業のスケジュール次第なので、授業は不定期に実施する。履修上の注意や方法については、90ページを改めて参照すること。
 - ・心理的アセスメントⅡは、心理的アセスメントⅠを修得していないと履修できない。
 - ・心理演習（カウンセリング）Ⅱは、心理演習（カウンセリング）Ⅰを修得していないと履修できない。

5) 専攻分野とコース

• 心理学科のコース

3年次から卒業時までの演習配属とそこでの卒業論文の作成に際して、「社会心理学コース」と「臨床心理学コース」の2コースがある。

社会心理学コース：実証的心理学の基礎知識と技術を学び、人間の精神活動が人間と社会の関係に基づくものであることの理解を目指す。

臨床心理学コース：科学的心理学の基礎を学んだ上で、現代社会の「ここらに関する問題」の解決を目指すための知識や技術の修得を目指す。

それぞれのコースごとに推奨する履修モデルは下記の表の通りであるが、これは一応の目安に過ぎない（必修科目および選択科目D群はコースごとに異ならないため、表には含まれていない）。なお、「2年次」の欄には、2年次～4年次に履修可能な科目が記載されている。この全てを2年次で履修することは難しいので、実際には各自で履修順序を決めて、いくつかの科目を3年次で履修することになる。諸君が幅広くかつ深く、一人ひとりの問題意識に立脚した学びが実現できるように、各自が工夫して履修計画を立てて差し支えない。4年間の充実した学びとなることを願ってやまない。

社会心理学コース 履修モデル

	1年次	2年次	3年次	4年次
選択科目A群 (6単位以上)		知覚・認知心理学Ⅰ 学習・言語心理学 神経・生理心理学 知覚・認知心理学Ⅱ 発達心理学 教育・学校心理学 社会・集団・家族心理学 応用社会心理学 感情・人格心理学		
選択科目B群 (8単位以上)		青年心理学 進化心理学 応用心理学 集団力学 対人社会心理学 産業・組織心理学 文化心理学 司法・犯罪心理学 健康・医療心理学	臨床心理学特殊講義 社会心理学特殊講義	
選択科目C群			心理学統計法Ⅱ 社会心理学実験演習	

臨床心理学コース 履修モデル

	1年次	2年次	3年次	4年次
選択科目A群 (6単位以上)		知覚・認知心理学Ⅰ 学習・言語心理学 神経・生理心理学 知覚・認知心理学Ⅱ 発達心理学 教育・学校心理学 社会・集団・家族心理学 感情・人格心理学		
選択科目B群 (8単位以上)	人体の構造と機能及び疾病	青年心理学 産業・組織心理学 障害者・障害児心理学 福祉心理学 心理学的支援法Ⅰ 心理学的支援法Ⅱ 司法・犯罪心理学 健康・医療心理学 精神疾患とその治療	臨床心理学特殊講義 社会心理学特殊講義	
選択科目C群			心理的アセスメントⅠ・Ⅱ 心理演習(カウンセリング)Ⅰ・Ⅱ	

注：公認心理師資格取得希望者については別途必要となる科目があるため、下記を参照すること。

6) 心理学科限定取得資格

・公認心理師

1. 資格の性質

公認心理師資格は、心理職の国家資格であり、保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、心理に関する支援等を行う者である。公認心理師になるには、大学で必要な科目を修めて卒業し、かつ、大学院において必要な科目を修めてその課程を修了もしくは施行規則で定める施設において定められた業務に従事したのち、資格試験に合格しなければならない。

2. 取得に必要な科目

- 1) 次ページに示す表の①～⑳の25科目(50単位)をすべて修得する。
- 2) 資格取得に必須ではないが、「心理的アセスメントⅡ」と「心理演習(カウンセリング)Ⅱ」は修得することを強く推奨する。
- 3) 資格取得に必要な科目に関する履修モデルを次ページに示すので参考にする。

3. 心理演習(カウンセリング)Ⅰの履修について

- 1) 必ず事前オリエンテーションに参加すること。これに遅刻・欠席した場合、実習の履修資格を失う場合があるので注意すること。
- 2) 受講者数は原則として45名までとする。

4. 心理実践演習(心理実習)の履修について

- 1) 本科目を履修しようとする者は、前年度までに以下の要件を満たしている必要がある。
 - i 次ページの表の①～㉔の科目のうち、心理学科の必修科目5科目(②～⑥)すべて、かつ選択科目19科目(①⑦～㉔)中13科目以上を修得している。
 - ii 卒業要件に含まれる科目を100単位以上修得している。
 - iii 本科目を履修する前年度の終了時にGPAが原則として2.0以上である。
- 2) 事前オリエンテーションおよび事後オリエンテーションに遅刻・欠席した場合、実習の参加資格を失ったり、単位を修得できなくなる場合があるので注意すること。
- 3) 実習への参加態度によっては、実習を中断することがあるため、注意すること。
- 4) 実習費が必要となる。
- 5) 受講者数は原則として30名までとする。

公認心理師資格取得に必要な科目

	科目	単位数		科目	単位数
①	公認心理師の職責	2	⑭	心理的アセスメント I	2
②	心理学概論	2	⑮	心理学的支援法 I	2
③	臨床心理学概論	2	⑯	健康・医療心理学	2
④	心理学研究法	2	⑰	福祉心理学	2
⑤	心理学統計法 I	2	⑱	教育・学校心理学	2
⑥	心理学実験	2	⑲	司法・犯罪心理学	2
⑦	知覚・認知心理学 I	2	⑳	産業・組織心理学	2
⑧	学習・言語心理学	2	㉑	人体の構造と機能及び疾病	2
⑨	感情・人格心理学	2	㉒	精神疾患とその治療	2
⑩	神経・生理心理学	2	㉓	関係行政論	2
⑪	社会・集団・家族心理学	2	㉔	心理演習（カウンセリング） I	2
⑫	発達心理学	2	㉕	心理実践演習（心理実習）	2
⑬	障害者・障害児心理学	2			

履修モデル

	1年次	2年次	3年次	4年次
必修科目	心理学概論 臨床心理学概論 心理学統計法 I 心理学実験	心理学研究法		
選択科目	人体の構造と機能及び疾病	知覚・認知心理学 I 学習・言語心理学 感情・人格心理学 神経・生理心理学 社会・集団・家族心理学 発達心理学 障害者・障害児心理学 心理学的支援法 I	公認心理師の職責 健康・医療心理学 福祉心理学 教育・学校心理学 司法・犯罪心理学 産業・組織心理学 精神疾患とその治療 関係行政論 心理的アセスメント I 心理演習(カウンセリング) I (心理的アセスメント II) (心理演習(カウンセリング) II)	心理実践演習（心理実習）

• 認定心理士

1. 資格の性質

「4年制大学における心理学科、またはそれに準ずる課程を修了した人（ないしは、それと同等の学力を有すると認められた人）を対象に、心理学の専門家としての職務を遂行するのに必要な最小限の標準的、基礎的学力と技能を修得していると認定された人」に対して、社団法人日本心理学会が資格認定する。以下の科目の単位を修得した上、卒業後に審査・認定料合計44,000円（2024年度現在）を添えて申請する。

2. 取得に必要な履修科目

- ・次ページの表に示す合計36単位以上を修得する。
- ・本学における単位数認定と認定心理士資格認定における単位数認定が異なる科目があるため、基礎領域cについては必修科目のみの履修のみでは要件を満たさない。必修科目に加えて「心理的アセスメントⅠ」、「心理演習（カウンセリング）Ⅰ」「社会心理学実験演習」の3科目のうち、いずれか1科目を修得することが必要である。
- ・「卒業研究」は8単位だが、認定心理士資格認定では4単位として扱われる。
- ・「e. 生理・比較」領域に該当する科目は、本学では「神経・生理心理学」1科目のみの開講のため、この領域で4単位以上を修得することはできない。
- ・認定心理士資格認定において、（*）の科目は他領域に該当する場合や、1単位（元々1単位科目の場合は0.5単位）として扱われる場合がある。

3. 申請手続き

資格取得希望者は、社団法人日本心理学会から申請用紙を取り寄せ、必要事項を記入した上、心理学担当教員の押印と卒業証明書・審査料を添えて日本心理学会に申請する。詳細については4年次末にオリエンテーションを実施するので、必ず出席すること。

認定心理士科目表

領域		科目	必修単位	
基礎	a. 心理学概論	心理学概論 社会心理学概論（*） 臨床心理学概論（*）	4	12
	b. 心理学研究法	心理学研究法 心理学統計法 I	4	
	c. 心理学実験実習	心理学実験 社会心理学基礎実習 臨床心理学基礎実習（*） 社会心理学実験演習 心理的アセスメント I・II 心理演習（カウンセリング） I・II（*）	4	
選択	d. 知覚・学習	知覚・認知心理学 I・II 学習・言語心理学	4	3領域で 各4単位 以上を含 み、合計 16単位以 上
	e. 生理・比較	神経・生理心理学	4	
	f. 教育・発達	発達心理学 教育・学校心理学 青年心理学 進化心理学（*）	4	
	g. 臨床・人格	司法・犯罪心理学 感情・人格心理学 健康・医療心理学 福祉心理学 障害者・障害児心理学 心理学的支援法 I・II 精神疾患とその治療（*） 臨床心理学特殊講義（*）	4	
	h. 社会・産業	応用社会心理学 集団力学 応用心理学 文化心理学 社会・集団・家族心理学 対人社会心理学 産業・組織心理学 社会心理学特殊講義（*）	4	
その他	i. その他	社会心理学演習 I～IV 臨床心理学演習 I～IV	8	
		卒業論文	4	

7) 心理学科基幹科目配当表

区分	科目名	単位	配当 年次	備考		
必修科目	学問と社会	2	1	36単位必修	合計88単位 以上必修	
	心理学概論	2	1			
	社会心理学概論	2	1			
	臨床心理学概論	2	1			
	基礎演習Ⅰ	2	1			
	基礎演習Ⅱ	2	1			
	臨床心理学演習Ⅰ	2	3			} 1科目2単位
	社会心理学演習Ⅰ	2	3			
	臨床心理学演習Ⅱ	2	3			} 1科目2単位
	社会心理学演習Ⅱ	2	3			
	臨床心理学演習Ⅲ	2	4			} 1科目2単位
	社会心理学演習Ⅲ	2	4			
	臨床心理学演習Ⅳ	2	4			} 1科目2単位
	社会心理学演習Ⅳ	2	4			
	卒業論文	8	4			
	心理学研究法	2	2			
	心理学統計法Ⅰ	2	1			
	心理学実験	2	1			
臨床心理学基礎実習	1	2				
社会心理学基礎実習	1	2				
選択科目	A群	知覚・認知心理学Ⅰ	2	2-4	6単位以上必修	A群、B群、C群から 20単位以上必修
		学習・言語心理学	2	2-4		
		神経・生理心理学	2	2-4		
		知覚・認知心理学Ⅱ	2	2-4		
		発達心理学	2	2-4		
		教育・学校心理学	2	2-4		
		社会・集団・家族心理学	2	2-4		
		応用社会心理学	2	2-4		
		感情・人格心理学	2	2-4		
	B群	青年心理学	2	2-4	8単位以上必修	
		進化心理学	2	2-4		
		応用心理学	2	2-4		
		集団力学	2	2-4		
		対人社会心理学	2	2-4		
		産業・組織心理学	2	2-4		
		文化心理学	2	2-4		
		障害者・障害児心理学	2	2-4		
		福祉心理学	2	2-4		
		心理学的支援法Ⅰ	2	2-4		
		心理学的支援法Ⅱ	2	2-4		
		司法・犯罪心理学	2	2-4		
		健康・医療心理学	2	2-4		
		精神疾患とその治療	2	2-4		
	人体の構造と機能及び疾病	2	1-4			
	臨床心理学特殊講義	2	2-4			
	社会心理学特殊講義	2	2-4			
	C群	心理学統計法Ⅱ	2	3-4		
関係行政論		2	3-4			
公認心理師の職責		2	3-4			
心理実践演習(心理実習)		2	4			
心理的アセスメントⅠ		2	3-4			
心理的アセスメントⅡ		2	3-4			
心理演習(カウンセリング)Ⅰ		2	3-4			
心理演習(カウンセリング)Ⅱ		2	3-4			
社会心理学実験演習	2	3-4				

選択科目	D群	哲学・思想Ⅰ	2	1-4	18単位以上必修
		哲学・思想Ⅱ	2	1-4	
		宗教学	2	1-4	
		倫理学	2	1-4	
		日本史Ⅰ	2	1-4	
		外国史Ⅰ	2	1-4	
		文学	2	1-4	
		社会学	2	1-4	
		教育学	2	1-4	
		文化人類学	2	1-4	
		現代史	2	1-4	
		民俗学	2	2-4	
		政治学	2	1-4	
		法学	2	1-4	
		日本国憲法	2	1-4	
		地理学Ⅰ	2	1-4	
		地誌学Ⅰ	2	1-4	
		経済学	2	1-4	
		生物進化学	2	1-4	
		生態学	2	1-4	
		情報学	2	1-4	
		人間学Ⅰ	2	1-4	
		人間学Ⅱ	2	1-4	
		考古学Ⅰ	2	2-4	
		考古学Ⅱ	2	2-4	
		美術史Ⅰ	2	2-4	
		美術史Ⅱ	2	2-4	
		差別・人権問題論	2	1-4	
		奈良文化論	2	1-4	
		国際関係論	2	2-4	
		現代社会と法	2	1-4	
		自然の保護	2	1-4	
		環境科学Ⅰ	2	1-4	
		環境科学Ⅱ	2	1-4	
		言語学	2	2-4	
		経営学	2	1-4	
		メディア学	2	3-4	
		人と防災	2	2-4	
		世界の人口問題	2	2-4	
		数学	2	1-4	
化学	2	1-4			
物理学	2	1-4			
販売管理論Ⅰ	2	2-4			
販売管理論Ⅱ	2	2-4			
販売管理論Ⅲ	2	2-4			
海外研修	2	1-4			
プロジェクト	1	1-4			
[注記] 必修36単位、選択科目A群6単位以上、選択科目B群8単位以上、 選択科目A群、B群、C群から20単位以上、選択科目D群から18単位以上、合計88単位以上					

(6) 社会学部・総合社会学科

総合社会学科は、社会学部開設以来の伝統である「リサーチ・オリエンテッド」を教育の柱としている。様々な社会科学の専門分野を学ぶうえで重要なのは、正確な情報を入手し、これを的確に分析し、現状を正しく理解することである。そして今日、情報化社会の進展の中で、情報を専門に扱う技術や、そのための倫理に対する社会的な要請が高まっている。その結果、正しい手続きでデータを収集し、その意味を的確に分析する社会調査の幅広い知識は、現代社会を生きるうえで必須となる。

本学科では、広い視野に立って、社会に対する関心を高め、資料に基づいて多面的・多角的に考察することを目標としており、中学校「社会」、高等学校「公民」の教職免許も取得することができる。

1) 卒業に必要な単位

科目区分		単位数			88 以上
基幹科目	必修科目	32			
	選択科目	A群	10以上	A、B群から 34 以上	
		B群	10以上	14以上	
		C群	4以上		
	D群	18以上			
外国語 科目	A群（英語）	4以上	A、B群から 4以上		8 以上
	B群（ドイツ語、フランス語、 中国語、韓国語）				
	C群（日本語【※留学生のみ】）				
健康・スポーツ科目	スポーツ実技Ⅰ・Ⅱ、 健康科学Ⅰ・Ⅱ	2以上		2 以上	
情報科目	情報倫理、情報リテラシー	4			4 以上
キャリア科目	キャリアデザイン	2			2 以上
上記の区分のすべての科目（外国語科目C群は留学生のみ履修可）の卒業要件を超えて修得した単位 指定する他学部・他学科科目 他大学単位互換科目					20 以上
合計					124

各科目区分の最低要件のみでは計104単位（88単位＋8単位＋2単位＋4単位＋2単位）であり、卒業要件124単位にはさらに20単位必要である。この20単位については基幹科目の選択科目を最低要件を超えて履修するか、あるいは、基幹科目以外の科目区分の選択科目、指定する他学部・他学科科目、他大学単位互換科目を興味関心に応じて履修することができる。

※留学生はC群（日本語）から4単位に加え、母語を除くA、B、C群から4単位、合計8単位

2) 基幹科目の構成

基幹科目は、下表のように構成されている。

	科目区分	単位数	配当年次	科目の概要
必修科目	学問と社会	1科目2	1	大学で学ぶ「学問」の考え方が、専門分野を超えて社会の様々な場面で応用し、将来に生かすための科目
	基礎演習	2科目4	1	各学科の学修内容も入れつつ、大学での学びの技法（スタディ・スキルズ）を身に付けるための科目
	社会調査概論	1科目2	1	社会調査の基礎について学ぶ
	社会学基礎	1科目2	1	社会学の基礎について学ぶ
	社会調査法	1科目2	1	社会調査の実施技術について学ぶ
	経済学	1科目2	1	経済学の基礎について学ぶ
	社会体験実習	1科目2	2	学外での活動を通して大学で学ぶ意義を発見する
	演習	4科目8	3-4	研究課題を発見し、研究を進める
	卒業論文	1科目8	4	学修の集大成として論文を書く
選択科目	A群	5科目10以上	1-4	各領域の概論的な内容を学ぶ
	B群	5科目10以上	2-4	各領域の応用的な内容を学ぶ
	C群	2科目4以上	1-4	方法論や実習に関する科目
	D群	9科目18以上	1-4	幅広い知識と教養について学ぶ

3) 学年進行と履修モデル

次に示す表は、年次別の履修モデルである。なお、C群の海外研修やプロジェクト、外国語科目、健康・スポーツ科目、情報科目、キャリア科目、指定する他学部他学科科目、他大学単位互換科目の履修も含めた学年進行にともなう履修上の注意や方法については、88ページを改めて参照すること。

基幹科目 88単位以上	1年次	2年次	3年次	4年次
必修科目 (32単位)	学問と社会 基礎演習Ⅰ・Ⅱ 社会調査概論 社会学基礎 社会調査法 経済学	社会体験実習	演習Ⅰ 演習Ⅱ	演習Ⅲ 演習Ⅳ 卒業論文
選択科目A群 (10単位以上) (選択科目A群・ B群から14単位 以上)	情報学	政治学 家政学 地域社会学 家族社会学 国際政治学 現代社会と哲学 現代社会と倫理 社会統計学Ⅰ 産業社会学 情報社会学 環境社会学 消費社会学 地域政策学 経済社会学		
選択科目B群 (10単位以上) (選択科目A群・ B群から14単位 以上)		デジタルアーカイブ概論 文化情報論 国際社会学 ジェンダーとライフコース 産業と技術の発展 消費者行動分析 企業倫理と消費者 組織社会学 地域行政学 開発社会学 災害社会学 サステナビリティ論 人工知能概論 計算社会科学	総合社会学特殊講義	
選択科目C群 (4単位以上)		社会統計学Ⅱ 知的財産管理論 量的分析法 質的分析法	プログラミング言語Ⅰ プログラミング言語Ⅱ 社会調査実習	
選択科目D群 (18単位以上)	それぞれの関心や、所属を希望するコース・演習の内容を参考にしながら、広く教養を深め、専門的な研究にも利するよう、履修科目を選択する。			

※教職免許（社会、公民）を取る学生は、網かけの科目を「教科及び教科の指導法に関する科目」としても数えることができる。

4) 履修上の注意

- ・3年次配当科目は、原則として2年次末までに卒業要件46単位以上を修得しなければ履修できない。

なお、演習はローマ数字の順番で履修する必要がある。したがって演習Ⅰと演習Ⅲ、演習Ⅱと演習Ⅳを4年次において同時履修することはできない。

ただし、3年次において演習Ⅰあるいは演習Ⅱに履修登録しかつ成績が不可となった場合、もしくは3年次において本学の交換留学制度によって留学した場合に限り、4年次において演習Ⅰと演習Ⅲ、演習Ⅱと演習Ⅳの同時履修を認めることがある。

どの演習に配属になるかは2年次中に行う演習配属手続きの結果で決定するので、その手続きを必ず行うこと。手続きの詳細については別途、掲示・ポータル等で案内するので、確認すること。

・必修科目の履修方法

1. 基礎演習は、1年次に2科目履修。
2. 学問と社会は、1年次に1科目履修。
3. 「社会調査概論」「社会学基礎」「社会調査法」「経済学」「情報学」は1年次で履修する。
4. 「社会体験実習」は2年次（通年）で履修する。
5. 「演習」Ⅰ～Ⅳは3・4年次に履修する。
 - (ア)「演習Ⅰ」から「演習Ⅳ」まで、それぞれ2単位ずつ合計8単位を修得しなければならない。
 - (イ) 演習科目のⅠ～Ⅳは、原則として同一教員のクラスを履修しなければならない。
 - (ウ) 演習科目の配属は2年次後期に決定する。配属方法の詳細は、2年次後期に行うガイダンスで指示する。
6. 「卒業論文」を4年次に履修する。必ず3年次3月の履修登録期間中に履修登録すること。
 - (ア) 卒業論文は、演習科目と同一教員の指導を受けて作成する。
7. 必修科目は配当された学年において必ず履修し、単位を修得すること。不合格として単位修得が認められなかった場合は、不合格となった必修科目を翌年度に再履修しなければならない。

・選択科目の履修方法

1. 選択科目A群に分類されている科目から、10単位以上を2～4年次に履修する。ただし、「情報学」については1年次から履修することができる。
2. 選択科目B群に分類されている科目から、10単位以上を2～4年次に履修する。
3. 上記の単位数に加えて、選択科目A群と選択科目B群に分類されている科目から、14単位以上を2～4年次に履修する。ただし「情報学」については1年次から履修することができる。
4. 選択科目C群に分類されている科目から、4単位以上を2～4年次に履修する。
5. 選択科目D群に分類されている科目から、18単位以上を1～4年次に履修する。
6. 既に単位を修得した科目を再び履修することはできない。ただし、「総合社会学特殊講義」については、講義名の後の漢数字が異なる場合は別科目として扱われる。
7. 社会調査協会認定の「社会調査士」資格を取得する者は、以下の科目を履修しなければならない。

社会調査概論・社会調査法・社会統計学Ⅰ・社会統計学Ⅱ・質的分析法または量的分析法・社会調査実習
8. 選択科目D群の「環境科学Ⅰ」と「環境科学Ⅱ」は2科目で1つの授業であり、2時間連続して開講されるので、各科目を個別単独には履修できない。必ず、指定された組合せに従い2科目同時に履修すること。
9. 選択科目D群の「販売管理論Ⅰ～Ⅲ」は販売士資格取得のための科目である。通常授業とは別に資格試験対策講座も適宜実施する。履修上の注意や方法について、88ページを改めて参照すること。
10. 選択科目D群の海外研修は、実際の海外での研修に加え、事前事後にも授業を実施する。履修上の注意や方法については、89ページを改めて参照すること。
11. 選択科目D群のプロジェクトは、対象事業のスケジュール次第なので、授業は不定期に実施する。履修上の注意や方法については、90ページを改めて参照すること。

・講義要項（シラバス）における「総合力項目」の表示について

総合社会学科では学生が社会で活躍するために必要な「総合力」（多角的な視点と知識、経験）を身につけることを重視している。具体的には「問題解決力」「思考力」「実行力」「コミュニケーション力」「情報処理力」を総合力5項目として採用しており、必修・選択A群・選択B群の各科目については講義要項（シラバス）の中に、その科目が特にどの総合力項目の育成を重視するのかが表示されている。総合力に関する自分の得意、不得意を自己分析した上で、総合力5項目の表示を参考にしながら科目の履修を行うこと。

5) 専門領域とコース

総合社会学科では、学生の専門知識の修得の効率性を考慮して、コース制を導入している。総合社会学科の学生は全員、以下に挙げる3つのコースのいずれかに所属し、コースごとに設定された推奨科目を履修することになる。

・1年次に配当された必修科目は、どのコースにおいても入り口となる専門科目であり、これを履修していないと2年次以降の専門科目の履修に支障が出る可能性が高い。1年次に配当された必修科目は、1年次のうちに履修しておくことを強く推奨する。

①地域社会論コース

1年次において必修科目「社会学基礎」を履修し、合格することが強く望まれる。2年次においては選択科目A群およびB群より「地域社会学」「地域政策学」「地域行政学」「国際社会学」「組織社会学」「開発社会学」「災害社会学」などを履修することが望ましい。

②経済社会論コース

1年次において必修科目「経済学」を履修し、合格することが強く望まれる。2年次においては選択科目A群およびB群より「経済社会学」「消費社会学」「産業社会学」「サステナビリティ論」を、3年次においては選択科目B群より「消費者行動分析」「企業倫理と消費者」などを履修することが望ましい。

③情報社会論コース

1年次においては選択科目A群より「情報学」、情報科目から「プログラミング基礎」を履修し、合格することが強く望まれる。2年次においては選択科目B群より「人工知能概論」「計算社会科学」などを、3年次においては選択科目A群およびC群より「情報社会学」「プログラミング言語Ⅰ」「プログラミング言語Ⅱ」などを履修することが望ましい。

6) 総合社会学科の資格

1. 社会調査士

①資格の性質

社会調査士とは、社会調査の知識や技能を用いて、世論や市場動向、社会事象等をとらえることのできる能力を有する「調査の専門家」のことである。この社会調査士は、4年制大学の卒業者を対象に、社会調査に関する基礎的な知識・技能、相応の応用力と倫理観を身につけた人に対して、一般社団法人社会調査協会が資格認定する。以下の「標準カリキュラム」の科目単位を取得し、卒業時に認定審査手数料を添えて申請すると、審査の上、卒業後の6月頃に社会調査士の認定証が送付される。なお、2年以上在学し、以下の「標準カリキュラム」の認定科目の単位を3科目以上取得している場合は、認定審査手数料14,000円を添えて社会調査協会に申請すれば、「社会調査士（取得見込み）」の証明書の交付を受けることができる。ただし卒業後、正規の社会調査士資格へ変更申請する際に、資格変更手数料が追加が必要となる。

②標準カリキュラム（取得に必要な科目）

社会調査協会標準カリキュラム	対応する本学の科目(認定科目)	本学での科目の分類	学年配当
A. 社会調査の基本的事項	社会調査概論	必修科目	1年
B. 調査設計と実施法	社会調査法	必修科目	1年
C. 基本的な資料とデータの分析	社会統計学Ⅰ	選択科目（A群）	2年
D. 社会調査に必要な統計学	社会統計学Ⅱ	選択科目（C群）	2年
E. 量的データ解析の方法*	量的分析法	選択科目（C群）	2年
F. 質的な分析の方法*	質的分析法	選択科目（C群）	2年
G. 社会調査の実習	社会調査実習	選択科目（C群）	3年

*Eと*Fについては、2科目のうち1科目を選択することができる。

A・B・C・DおよびGは全て必修。

③申請手続き

社会調査士資格の取得希望者（その年の卒業生）は毎年3月末に、申請用紙に必要な事項を記入し、成績証明書、成績通知書および認定審査手数料の領収書コピーを添えて、本学の連絡責任者である教員に提出する（まとめて社会調査協会に申請する）。詳細については、毎年の卒業式後に卒業生を対象とした説明会を実施するので、必ず出席すること。

「社会調査士（取得見込み）」の申請については、申請時期（3年次の10月）に連絡責任者である教員に問い合わせること。

2. ファイナンシャル・プランニング（FP）技能士3級

①資格の性質

FP技能検定とは、顧客の資産に応じた貯蓄・投資等のプランの立案・相談に必要な技能の程度を検定するものである。FP技能検定3級の国家試験に合格した人には、FP技能士3級の資格が与えられる。この資格の取得に向けた学習の取り組みにより、様々な金融商品や資産運用についての知識が得られるだけでなく、今後の人生をより計画的・合理的に生きるための指針を持つことができると期待される。また、FP技能士3級の資格取得を、自らの就職活動や将来のキャリアアップに役立てることもできよう。

②資格取得のプロセス

このFP技能検定3級の受験を希望する学生は、「家政学」（2年次生以上履修可能）を履修し、さらに連動している資格試験直前対策講座（スクーリング、通常は休日に実施）を受講すれば、受験に必要な知識を身につけることができる。詳しくは、オリエンテーション・ガイダンス等において説明するので、必ず出席のこと。

3. 知的財産管理技能士3級

①資格の性質

知的財産管理技能士とは、「企業や団体の中にながら知的財産を適切に管理・活用して、その企業や団体に貢献できる能力を有する人」（知的財産教育協会）のことである。そのうちの知的財産管理技能士3級は、知的財産分野について初歩的な管理能力があると認められている。具体的には、企業・団体（学校・官公庁等）において知的財産分野の特にブランド保護、技術保護、コンテンツ保護、デザイン保護、契約、エンフォースメント（権利行使）に関する初歩的知識を有し、それに関する課題を発見することができ、一定条件下ではその課題の解決までできる技能があるとされている。この知的財産管理技能士3級を資格取得することにより、知的財産に関して日常生活に役立つ知識が身につく、就職や将来のキャリアアップに資格を利用することができ、ひいては、現在日本が目指す「知的財産立国」の一翼を担うことが期待される。

②資格取得のプロセス

この知的財産管理技能検定3級の受験を希望する学生は、「知的財産管理論」（2年次生以上履修可能）を履修し、さらに連動している資格試験直前対策講座（スクーリング、通常は休日に実施）を受講すれば、受験に必要な知識を身につけることができる。詳しくは、オリエンテーション・ガイダンス等において説明するので、必ず出席のこと。

7) 総合社会学科基幹科目配当表

区分	科目名	単位	配当年次	備考		
必修科目	学問と社会	2	1	32単位必修	合計88単位以上必修	
	基礎演習Ⅰ	2	1			
	基礎演習Ⅱ	2	1			
	社会調査概論	2	1			
	社会学基礎	2	1			
	社会調査法	2	1			
	経済学	2	1			
	社会体験実習	2	2			
	演習Ⅰ	2	3			
	演習Ⅱ	2	3			
	演習Ⅲ	2	4			
	演習Ⅳ	2	4			
	卒業論文	8	4			
	選択科目	A群	情報学			2
政治学			2	2-4		
家政学			2	2-4		
地域社会学			2	2-4		
家族社会学			2	2-4		
国際政治学			2	2-4		
現代社会と哲学			2	2-4		
現代社会と倫理			2	2-4		
社会統計学Ⅰ			2	2-4		
産業社会学			2	2-4		
情報社会学			2	2-4		
環境社会学			2	2-4		
消費社会学			2	2-4		
地域政策学			2	2-4		
経済社会学		2	2-4			
B群		デジタルアーカイブ概論	2	2-4	10単位以上必修	
		文化情報論	2	2-4		
		国際社会学	2	2-4		
		ジェンダーとライフコース	2	2-4		
		産業と技術の発展	2	2-4		
		消費者行動分析	2	2-4		
		企業倫理と消費者	2	2-4		
		組織社会学	2	2-4		
		地域行政学	2	2-4		
		開発社会学	2	2-4		
		災害社会学	2	2-4		
		サステナビリティ論	2	2-4		
		人工知能概論	2	2-4		
	計算社会科学	2	2-4			
総合社会学特殊講義	2	3-4				
C群	社会統計学Ⅱ	2	2-4	4単位以上必修		
	知的財産管理論	2	2-4			
	量的分析法	2	2-4			
	質的分析法	2	2-4			
	プログラミング言語Ⅰ	2	3-4			
	プログラミング言語Ⅱ	2	3-4			
	社会調査実習	2	3-4			

選択科目	D群	哲学・思想 I	2	1-4	18単位以上必修
		宗教学	2	1-4	
		倫理学	2	1-4	
		日本史 I	2	1-4	
		日本史 II	2	1-4	
		外国史 I	2	1-4	
		外国史 II	2	1-4	
		文学	2	1-4	
		心理学	2	1-4	
		教育学	2	1-4	
		現代史	2	1-4	
		民俗学	2	2-4	
		法学	2	1-4	
		日本国憲法	2	1-4	
		地理学 I	2	1-4	
		地理学 II	2	1-4	
		地誌学 I	2	1-4	
		地誌学 II	2	1-4	
		生物進化学	2	1-4	
		生態学	2	1-4	
		考古学 I	2	2-4	
		考古学 II	2	2-4	
		美術史 I	2	2-4	
		美術史 II	2	2-4	
		差別・人権問題論	2	1-4	
		奈良文化論	2	1-4	
		自然の保護	2	1-4	
		環境科学 I	2	1-4	
		環境科学 II	2	1-4	
		言語学	2	2-4	
		メディア学	2	3-4	
		人と防災	2	2-4	
		世界の人口問題	2	2-4	
数学	2	1-4			
化学	2	1-4			
物理学	2	1-4			
比較文化論	2	3-4			
販売管理論 I	2	2-4			
販売管理論 II	2	2-4			
販売管理論 III	2	2-4			
海外研修	2	1-4			
プロジェクト	1	1-4			
[注記] 必修科目32単位、選択科目 A 群10単位以上、選択科目 B 群10単位以上、選択科目 C 群4単位以上、 選択科目 A 群、B 群から14単位以上、選択科目 D 群から18単位以上、合計88単位以上					

(7) 各学科基幹科目D群の特記事項

1) 実務関係資格に係る科目

リテールマーケティング（販売士）資格関係科目 販売管理論Ⅰ～Ⅲについて

1. 資格の性質

リテールマーケティング（販売士）とは、小売業・卸売業など、消費者サービスの向上を図ることを目的として、日本商工会議所および全国商工会連合会（経済産業省・中小企業庁後援）が認定する、昭和46（1971）年度に発足した資格制度である。全国的に認知度は高く、これまでに70万人以上の「リテールマーケティング（販売士）」が誕生している。資格試験には、1級・2級・3級の3種類がある。この資格を取得するには検定試験を受験することが必要であるが、下記のプログラム（奈良大学方式）を通じて準備することにより、本学受験生の合格率は3級・2級ともに極めて高くなっている。平成17（2005）年度よりさらに上をめざす意欲ある学生のために、1級合格を目標とする科目（現・販売管理論Ⅲ）が新設されて今日に至っている。

2. 資格取得のプロセス

講義受講とともに、以下の手続きが必要となる。詳しくはオリエンテーション・ガイダンス等において説明するので、必ず出席すること。

【3級取得の場合】

①「販売管理論Ⅰ」の受講（2年次生以降履修可能）

授業内容は、リテールマーケティング（販売士）3級資格取得のための注意事項、および、「リテールマーケティング（販売士）検定試験」の科目と関連したものである。なお、連続して2級講座（不定期）を受講すると、効果的にステップアップが可能である。

②対策講座の申し込み

対策講座（有料）を受講し、一定の要件を満たすとリテールマーケティング（販売士）検定試験の科目免除（1科目）が適用される。受講は任意だが、奈良大学生には割安料金が適用される。

③対策講座の開講

スクーリングで、3級試験の合格に向けた要点を懇切丁寧に指導する。試験科目免除の要件なので、科目免除を受けたい学生は必ず出席すること。

④リテールマーケティング（販売士）3級の検定試験

【2級取得の場合】

①2級受験のための説明会

試験の科目免除（1科目）を受けたい学生は、対策講座を受講する必要がある。その申し込みに関する説明が行われる。

②「販売管理論Ⅱ」の受講（2年次生以降履修可能）

この講義の中で、リテールマーケティング（販売士）2級取得のための注意事項を説明する。

③対策講座の開催

スクーリングで、2級検定試験の合格に向けた要点を懇切丁寧に指導する。

④リテールマーケティング（販売士）2級の検定試験

【1級取得の場合】

①1級受験のための説明会

1級に関しては、対策講座を受講しても科目免除は受けられないが、合格のためには受講することが望ましい。そのための申し込みに関する説明会が行われる。

②「販売管理論Ⅲ」（2年次以降履修可能）及び販売士試験対策の「総合社会学特殊講義」（3年次以降履修可能）の履修。

この2つの講義の中で販売士1級取得（科目合格含む）のための注意事項を説明する。

③対策講座の開催

社会学部が実施するセミナーで、1級試験の合格（科目合格含む）に向けた要点を懇切丁寧に指導する。

④リテールマーケティング（販売士）1級の試験

3. 受験手続き

リテールマーケティング（販売士）検定試験は、テストセンターにおいてインターネットを介して試験が行われる。検定料は、各自が商工会議所に願書とともに支払う必要がある。申請方法、検定料の金額等は、願書申請時期に講義の中で通知する。

参考 上記以外にも、総合社会学科では、

- ・ ファイナンシャル・プランニング（FP）技能士3級
- ・ 知的財産管理技能士3級

の試験対策に資する科目を独自に開設している。これらの資格も実務に関連が強い資格である。詳細は85ページを参照のこと。

2) 海外研修

国際社会においては、異なる国や地域の文化や考え方を理解するとともに、自らが身を置く文化を正しく発信することが重要である。本学では、そうした資質能力を実地で修得する機会を学生に提供するための科目として海外研修を開設している。

履修上の注意

海外研修は、実際に海外を訪れ研修を行う授業である。次の点に注意すること。

- ・ 新年度の履修登録に先立ち『講義要項』（シラバス）を熟読したうえで実施予定の事前ガイダンスに参加し、研修内容や費用、諸条件を把握したうえで履修登録を行うこと。
- ・ 次年度以降の再度の履修も可能である。
- ・ 海外での研修を伴う授業なので、研修先の国あるいは地域での研修が諸事情（政情不安・自然災害、感染症流行等）により実施できなくなる可能性もある。万が一そうなった場合、その時点で「海外研修」の授業そのものが中止となる。この場合、履修登録は取り消され、単位の認定は行われない。
- ・ 履修者自身の事情で海外での研修ができない場合は、出席不足となるため、単位の認定は行われない。
- ・ 海外での研修実施が2月以降になる授業については、4年次生については、原則として4年次生演習と卒業論文以外の科目を履修しなければ卒業要件を充当できない者は履修登録をすることはできない。

3) プロジェクト

「アクティブラーニング」とは、「学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称」（文部科学省）と定義され、今日、大学教育においても必要性が叫ばれている。この科目「プロジェクト」では、学生が担当教員の指導を受けながら、主体的・能動的なプロジェクト活動（Project-Based Learning）に従事することで、このアクティブラーニングを効果的に実践してゆくことを目指している。

履修上の注意

- ・この科目は全学生に対して開講されているので、専門分野にかかわらず、どの学部・学科の学生でも参加できる。
- ・この科目は後期開講となっているが、実際には後期だけでなく、不定期（前期を含む）に、あるいは夏休み・冬休み期間中などもプロジェクト活動が行われることがある。
- ・この科目は学内の教室でも行われるが、学外でのプロジェクト活動が入ることもある。
- ・毎年度、前期の早い時期（4月上旬ごろ）に、担当教員によりこの科目の「説明会」が行われる。興味を持った学生は説明会に必ず出席して、プロジェクトの活動内容や日程等をよく確認し、履修するかどうかを決めること。
- ・この科目で単位を取得した場合、次の年度以降も引き続いてこの科目を履修登録することはできない。しかしプロジェクト活動に参加すること自体はできる場合があるので、複数年度にわたって参加したい学生は担当教員に相談してみることを。

2. 外国語科目

(1) 外国語科目の目標

本学では、学生がグローバル化に対応すると同時に、学問を深め教養ある人間として広く他国の文化を理解し尊重できるように、英語科目を必修とするとともに、学生が興味関心に応じて幅広く学べるようにドイツ語、フランス語、中国語、韓国語を配置している。

また、外国人留学生のために、外国語としての日本語を学修する科目も設置している。

(2) 外国語科目の構成・概要

1) 科目区分

- ・外国語科目は、A群（英語）とB群（ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）、そしてC群（日本語）から構成されている。
- ・A群は、「オーラルコミュニケーション」「実践英語」「英語読解」「上級英語」の4分野に区分され、そのうち「オーラルコミュニケーション」「実践英語」「英語読解」は初級と中級に分かれている。
- ・B群は、「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「韓国語」の4分野に区分され、さらに初級、中級に分かれている。
- ・C群は、「日本語」である。これは外国人留学生のために開設している科目であり、外国人留学生しか履修できない。

2) 科目概要

(外国語A群)

分野	種類	概要
オーラルコミュニケーション	初級Ⅰ・Ⅱ	ネイティブスピーカーの教員が担当する授業を通して、自分のことや身の回りのことについて英語で話せることを目指す。
	中級Ⅰ・Ⅱ	ネイティブスピーカーの教員が担当する授業を通して、日常会話が行えるようになることを目指す。
実践英語	初級Ⅰ・Ⅱ	TOEICなどの英語検定試験を視野に入れて、実用的な英語運用の基礎力を養成する。
	中級Ⅰ・Ⅱ	TOEICなどの英語検定試験を視野に入れて、実用的な英語運用能力を養成する。
英語読解	初級Ⅰ・Ⅱ	さまざまな英文を読むことを通して、基本的な文法・語彙・表現を復習しつつ、英語運用の基礎力を養成する。
	中級Ⅰ・Ⅱ	さまざまな英文を読むことを通して、標準的な文法・語彙・表現を確認しつつ、英語運用能力を養成する。
上級英語	Ⅰ・Ⅱ	より高度な英語運用能力を養成する。

(外国語B群)

分野	種類	概要
ドイツ語	初級Ⅰ・Ⅱ	ドイツ語の発音の基本と基礎文法を学び、平易な文章を読む。基礎レベルの会話力を身につける。
	中級Ⅰ・Ⅱ	ドイツ語の中級レベルの文法を学び、長文を読む。中級レベルの会話力を身につける。
フランス語	初級Ⅰ・Ⅱ	フランス語の発音の基本と基礎文法を学び、平易な文章を読む。基礎レベルの会話力を身につける。
	中級Ⅰ・Ⅱ	フランス語の中級レベルの文法を学び、長文を読む。中級レベルの会話力を身につける。
中国語	初級Ⅰ・Ⅱ	中国語の発音の基本と基礎文法を学び、平易な文章を読む。基礎レベルの会話力を身につける。
	中級Ⅰ・Ⅱ	中国語の中級レベルの文法を学び、長文を読む。中級レベルの会話力を身につける。
韓国語	初級Ⅰ・Ⅱ	韓国語の発音の基本と基礎文法を学び、平易な文章を読む。基礎レベルの会話力を身につける。
	中級Ⅰ・Ⅱ	韓国語の中級レベルの文法を学び、長文を読む。中級レベルの会話力を身につける。

(外国語C群)

分野	概要
日本語	日本語の基礎的運用力の習得。

(3) 外国語科目の履修上の注意

同一科目を複数履修することはできない。

《卒業要件》

- ・外国語A群4単位選択必修、外国語A群またはB群から4単位選択必修、合計8単位以上修得しなければならない。
- ・外国人留学生はC群から4単位以上、母語を除くA群、B群またはC群から4単位以上、合計8単位以上修得しなければならない。

《履修方法》

- ・各科目の登録人数（受講できる人数）には制限があるので、必ず予備登録（抽選）にて事前申し込みを行わなければならない。予備登録（抽選）を行わなければ、履修登録することはできない。予備登録の方法や時期についてはオリエンテーションやガイダンスにて説明する。

《その他の注意事項》

- ・開講期間は半期単位であるが、同一教員による同一言語で同一レベルの科目のクラスをセットで1年間を通じて履修することが望ましい。

(4) 外国語科目配当表

区分	科目名	単 位	配 当 年 次	備 考
A 群	オーラルコミュニケーション初級Ⅰ	1	1-4	8単位以上必修
	オーラルコミュニケーション初級Ⅱ	1	1-4	
	実践英語初級Ⅰ	1	1-4	
	実践英語初級Ⅱ	1	1-4	
	英語読解初級Ⅰ	1	1-4	
	英語読解初級Ⅱ	1	1-4	
	オーラルコミュニケーション中級Ⅰ	1	1-4	
	オーラルコミュニケーション中級Ⅱ	1	1-4	
	実践英語中級Ⅰ	1	1-4	
	実践英語中級Ⅱ	1	1-4	
	英語読解中級Ⅰ	1	1-4	
	英語読解中級Ⅱ	1	1-4	
	上級英語Ⅰ	1	1-4	
	上級英語Ⅱ	1	1-4	
B 群	ドイツ語初級Ⅰ	1	1-4	
	ドイツ語初級Ⅱ	1	1-4	
	ドイツ語中級Ⅰ	1	1-4	
	ドイツ語中級Ⅱ	1	1-4	
	フランス語初級Ⅰ	1	1-4	
	フランス語初級Ⅱ	1	1-4	
	フランス語中級Ⅰ	1	1-4	
	フランス語中級Ⅱ	1	1-4	
	中国語初級Ⅰ	1	1-4	
	中国語初級Ⅱ	1	1-4	
	中国語中級Ⅰ	1	1-4	
	中国語中級Ⅱ	1	1-4	
	韓国語初級Ⅰ	1	1-4	
	韓国語初級Ⅱ	1	1-4	
韓国語中級Ⅰ	1	1-4		
韓国語中級Ⅱ	1	1-4		
C 群	日本語Ⅰ	1	1-4	留学生のみ履修可
	日本語Ⅱ	1	1-4	留学生のみ履修可
	日本語Ⅲ	1	1-4	留学生のみ履修可
	日本語Ⅳ	1	1-4	留学生のみ履修可
	日本語Ⅴ	1	1-4	留学生のみ履修可
	日本語Ⅵ	1	1-4	留学生のみ履修可
	日本語Ⅶ	1	1-4	留学生のみ履修可
	日本語Ⅷ	1	1-4	留学生のみ履修可
[注記] A群から4単位以上、A群またはB群から4単位以上、合計8単位以上 外国人留学生はC群から4単位以上、母語を除くA群、B群またはC群から4単位以上、合計8単位以上				

3. 健康・スポーツ科目

(1) 健康・スポーツ科目の目標

本学では、健康に関する最新情報を科学的・多角的に理解し、さらに、スポーツを通じた他者理解とコミュニケーション力の醸成と自らの身体運動機能への理解を深めることで、生涯を通じて自らの健康を管理・改善し健やかに生きる力を身につけることを目的に、健康とスポーツ実技に関する科目を配置している。

(2) 健康・スポーツ科目の構成・概要

健康・スポーツ科目は、科目は以下の科目から構成されている。なお、学科により設置していない科目、または履修できない科目があるので注意すること。

必修・選択区分、科目名		単位数	配当年次	科目の概要	開設学科
選択	スポーツ実技Ⅰ	1	1 - 2	自発的な身体運動の理解を深め、スポーツを段階的に学び、継続する態度・能力をつける。	全学部 全学科
選択	スポーツ実技Ⅱ	1	2	学生相互に協力しながら実践できる態度を身につけ、将来にわたるスポーツを継続的に取り組む姿勢を学ぶ。	全学部 全学科
選択	健康科学Ⅰ	2	1 - 2	健康な心身を保つしくみを、生理学・解剖学・病理学的に理解し、生涯を通じて自らの健康を把握・管理・改善する力を養う。	文学部全学科、 社会学部総合 社会学科 (心理学科生 履修不可)
選択	健康科学Ⅱ	2	1 - 2	先端医療が提起する人間の生死の課題、健康を守り・支える社会的基盤など、健康について多角的に学び、生涯を通じた健やかな生き方のために選択、行動する力を養う。	全学部 全学科

(3) 健康・スポーツ科目の履修上の注意

《卒業要件》

- ・健康・スポーツ科目の中から興味関心や必要に応じ任意の科目を2単位以上修得すること。

《履修方法》

- ・「スポーツ実技Ⅰ」及び「スポーツ実技Ⅱ」の登録人数（受講できる人数）には制限があるので、必ず予備登録にて事前申し込みを行わなければならない。予備登録の方法や時期についてはオリエンテーションやガイダンスにて説明する。

《その他の注意事項》

- ・教育職員免許状を取得しようとする学生は、教育職員免許法施行規則第66条の6で修得が定められている「体育」に対応する科目として「スポーツ実技Ⅰ」及び「スポーツ実技Ⅱ」の2科目2単位を修得しなければならない。

(4) 健康・スポーツ科目配当表

区分	科目名	単位	配当年次	備考
健康・ スポーツ科目	スポーツ実技Ⅰ	1	1 - 2	2単位以上必修 心理学科生履修不可
	スポーツ実技Ⅱ	1	2	
	健康科学Ⅰ	2	1 - 2	
	健康科学Ⅱ	2	1 - 2	
[注記] 2単位以上				

4. 情報科目

(1) 情報科目の目標

本学では、学生が情報機器を用いたデータ処理技術のみならず、インターネット社会における諸問題に対応できる能力を身につけることができるよう情報科目を設け、必要な科目を配置している。

(2) 情報科目の構成・概要

情報科目は以下の科目から構成されている。なお、学科により設置していない科目、または履修できない科目があるので注意すること。

1) 科目の構成

必修・選択区分、科目名		単位数	配当年次	設置学科					
				国文	史	地理	文化財	心理	総合社会
必修	情報倫理	2	1 - 4	○	○	○	○	○	○
必修	情報リテラシー	2	1	○	○	○	○	○	○
選択	コンピュータ基礎論	2	1 - 4	○	○	○	○	○	○
選択	情報処理	2	1 - 4	○	○	○	○	○	○
選択	画像編集	2	1 - 4	○	○	○	○	○	○
選択	動画編集	2	1 - 4	○	○	○	○	○	○
選択	プログラミング基礎	2	1 - 4	○	○	○	○	○	○
選択	データベース論	2	2 - 4	○	○		○	○	○
選択	データ分析法Ⅰ	2	2 - 4	○	○		○	○	○
選択	データ分析法Ⅱ	2	3 - 4		○	○	○		○
選択	WebプログラミングⅠ	2	3 - 4	○		○		○	
選択	WebプログラミングⅡ	2	3 - 4			○		○	

2) 科目の概要

必修・選択区分、科目名		単位数	配当年次	科目の概要
必修	情報倫理	2	1 - 4	功罪両面をもつインターネットを、節度をもって利用するための知識や倫理観を身につける。
必修	情報リテラシー	2	1	情報科目等を学ぶ上で必要なPCに関する知識や情報・データ分析の概念を概観し、以後の活用を図る。
選択	コンピュータ基礎論	2	1 - 4	情報・データ、コンピュータおよびインターネットのしくみ等の基礎を学ぶ。
選択	情報処理	2	1 - 4	表計算ソフトを中心とした大学での学修に不可欠なソフトの利用を学ぶ。
選択	画像編集	2	1 - 4	画像編集ソフトを使い、写真加工や作図の初歩を学ぶ。
選択	動画編集	2	1 - 4	プレゼンテーションで動画を活用し情報を発信するために動画作成・編集およびプレゼンの基礎と技術を学ぶ。
選択	プログラミング基礎	2	1 - 4	プログラミング実習によって基本的な制御処理とアルゴリズムを学ぶ。

選択	データベース論	2	2 - 4	データベースシステムの概要とデータベース設計技術を学ぶ。
選択	データ分析法Ⅰ	2	2 - 4	G I Sにおける分析手法。
選択	データ分析法Ⅱ	2	3 - 4	心理統計法の基礎。
選択	W e bプログラミングⅠ	2	3 - 4	プログラミングを通じて論理的思考を学ぶ。
選択	W e bプログラミングⅡ	2	3 - 4	様々な言語を用いて、アプリケーションの設計と実装を行う。

(3) 情報科目の履修上の注意

《卒業要件》

- ・「情報倫理」及び「情報リテラシー」の2科目4単位を含む4単位以上を修得すること。

《履修方法》

- ・「情報リテラシー」は、1年次で履修すること。
- ・「コンピュータ基礎論」「情報処理」「画像編集」「動画編集」「プログラミング基礎」「データベース論」「データ分析法Ⅰ」「データ分析法Ⅱ」「W e bプログラミングⅠ」「W e bプログラミングⅡ」は、自分の興味関心や進路等での必要に応じて自由に履修することができる。自学科にない科目でも他学部他学科履修が可能な科目は履修することができる。他学部他学科履修の可否については『開講科目表』を参照すること。
- ・実習をとまなう科目では、登録人数（受講できる人数）には制限がある。予備登録にて事前申し込みを行わなければならないことがあるので注意すること。予備登録を実施する科目、その方法や時期についてはオリエンテーションやガイダンスにて説明する。
- ・実習をとまなう科目では、使用する教室によってはパソコンを毎回持参する必要がある（各自のパソコンを使用して授業を行う）。シラバスおよび教室をよく確認してから履修登録（予備登録を含む）すること。

《その他の注意事項》

- ・教育職員免許状を取得しようとする学生は、教育職員免許法施行規則第66条の6で修得が定められている「情報機器の操作」に対応する科目として「情報処理」「画像編集」「動画編集」「プログラミング基礎」のいずれか1科目2単位を修得しなければならない。

(4) 情報科目配当表

区分	科目名	単位	配当年次	備考	
情報科目	情報倫理	2	1 - 4	4単位以上必修	
	情報リテラシー	2	1		
	コンピュータ基礎論	2	1 - 4		
	情報処理	2	1 - 4		
	画像編集	2	1 - 4		
	動画編集	2	1 - 4		
	プログラミング基礎	2	1 - 4		
	データベース論	2	2 - 4		地理学科生履修不可
	データ分析法Ⅰ	2	2 - 4		地理学科生履修不可
	データ分析法Ⅱ	2	3 - 4		心理学科生履修不可
	W e bプログラミングⅠ	2	3 - 4		総合社会学科生履修不可
	W e bプログラミングⅡ	2	3 - 4		総合社会学科生履修不可
[注記] 情報倫理と情報リテラシー2科目4単位を含む4単位以上					

5. キャリア科目

(1) キャリア科目の目標

本学では、学生が卒業後の将来を考え、進路実現に向けた計画を立案し、実行する能力を修得できるようにキャリア科目を設け、必要な科目を配置している。

(2) キャリア科目の構成・概要

全学部全学科のキャリア科目は以下の科目から構成されている。

必修・選択区分、科目名		単位数	配当年次	科目の概要
必修	キャリアデザイン	2	2	いかなる分野に進んでも社会人として活躍できるように、社会や仕事について必須の知見を修得する。
選択	インターンシップ概論	2	1-2	2年次のインターンシップ実習に先立ち、キャリアデザイン、企業研究、マナー研修等を通じて現場での実習に必要な知識を習得し、就業意識を高める。
選択	インターンシップ実習	2	2-3	夏期休業期間に原則2週間の就業体験を行う。実際の現場での体験を通じて、働くことの意義を確認し就業意識の確立を目指す。(年間を通じての事前・事後研修を含む)
選択	生涯学習概論	2	2-4	変化の著しい現代社会にあって生涯に渡り学び続ける意義を学ぶとともに、学校教育以外の場での学びについて考察する。

(3) キャリア科目の履修上の注意

全学部全学科のキャリア科目は以下のとおり履修すること。

1) 「キャリアデザイン」

・必修科目であり、原則として2年次生前期に履修すること。

2) 「インターンシップ概論」・「インターンシップ実習」

- ・インターンシップ概論では、企業で実習する上で必要な講義を行う。インターンシップ実習を履修する場合はあらかじめインターンシップ概論を修得していること。
- ・インターンシップ実習では、夏休み期間に、企業において実習（10日間程度）を実施し、後期に報告会を開催する。
- ・これらの科目は、学生支援センター（教務担当）への履修登録とともに、インターンシップ実習の場合のみ、キャリアセンターへの実習参加申し込みが必要である。
- ・インターンシップ実習を履修できるのは原則として2年次生と3年次生のみである。
- ・詳しくは、3月ないし4月に実施されるガイダンスにおける説明を参照のこと。

3) 「生涯学習概論」

- ・博物館学芸員資格（114ページ）及び司書資格（119ページ）の必修科目であるので、これらの資格取得希望者は履修要項の該当ページを参照のうえ必ず履修し、単位を修得すること。

(4) キャリア科目配当表

区分	科目名	単位	配当年次	備考
キャリア科目	キャリアデザイン	2	2	2単位以上必修 先修条件 インターンシップ概論
	インターンシップ概論	2	1-2	
	インターンシップ実習	2	2-3	
	生涯学習概論	2	2-4	
[注記] キャリアデザイン1科目2単位を含む2単位以上				

6. 指定する他学部・他学科科目の履修

奈良大学は学生各自の個性的で主体的な学修を可能にするため、指定する他学部・他学科科目の履修を認めている。

履修上の注意

1. 他学部・他学科科目を履修できるのは原則として2年次生以上であり、さらにその学科・学部の配当年次以上でなければ受講できない。
2. 学部・学科により、履修が制限される科目がある。履修できる科目は、別冊『開講科目表』の、各学科の開講科目一覧表の「他学部・他学科受講の可否」を参照すること。受講可否の記号はつぎのとおりである。
 - = 受講可、
 - △ = その学科の許可を得た場合のみ受講可、
 - ◇ = 同一学部の他学科のみ受講可、
 - × = 受講不可
3. 他学部・他学科科目の登録単位は、各学期毎24単位、年間48単位の履修登録単位数制限（121ページ参照）に含まれる。

7. 他大学単位互換科目の履修

(1) 単位互換制度

奈良大学は、学生各自の個性的で主体的な学修を可能にするため、単位互換制度による他大学の科目履修を認めている。

単位互換制度とは、学生諸君が他大学の科目を各大学で履修し、それを一定の条件のもとに本学の単位として認定する制度である。

本学では、奈良教育大学、奈良県立大学、帝塚山大学、天理大学、奈良学園大学、奈良女子大学、奈良県立医科大学、放送大学との単位互換の協定を結んでいる。本学にない分野の科目を学んでみたい学生には、この制度を活用することを勧める。

さらに、本学が交換留学協定を結んでいる海外の大学に留学した場合、留学先で履修した科目で、本学が認めたものは本学の単位として認定する。

(2) 履修上の注意

1. 他大学単位互換科目は2年次生から、放送大学科目は1年次生後期から4年次生前期まで履修できる。ただし、4年次生前期に履修した科目を、後期に再受験した場合、その科目の単位認定は行わない。
2. 放送大学科目を他大学単位互換科目として履修できるのは、12単位までである。
3. 単位互換科目の履修単位は、各学期毎24単位、年間48単位の履修登録単位数制限（124ページ参照）に含まれる。
4. 放送大学科目の履修単位は、各学期毎24単位、年間48単位の履修登録単位数制限（124ページ参照）に含まれない。
5. 協定大学の科目一覧およびシラバス等の資料は学生支援センター（教務担当）に備え付けてある。放送大学の科目については、学生支援センター（教務担当）で希望者に配付する。
6. 他大学単位互換科目の履修には、あらかじめ所定の手続きをする必要がある。詳細は学生支援センター（教務担当）に問い合わせること。
7. 海外交換留学協定に基づく留学は前年度末までの所定の単位数を修得した2年次生以上が対象となる。協定大学の一覧や留学制度の詳細について質問がある場合は、学生支援センター（学生担当）にて問い合わせること。

資格取得

Ⅲ. 資格取得

1. 取得できる免許・資格及びプログラム

- 本学では、教育職員課程、学校図書館司書教諭課程、司書課程、博物館学芸員課程及び学校司書プログラムを設けている。ただし、取得できる資格、履修できるプログラムは学部・学科によって異なる（下表を参照）。
- 免許・資格取得及びプログラムの履修には、様々な規則または取り決めがあるので、その指示に従うこと。

免許・資格及びプログラムの種類		取得できる学部・学科	
教育職員	中学校教諭1種免許状	(国語)	文学部 国文学科
		(社会)	文学部 史学科、地理学科、文化財学科 社会学部 総合社会学科
	高等学校教諭1種免許状	(国語)	文学部 国文学科
		(地理歴史)	文学部 史学科、地理学科、文化財学科
		(公民)	社会学部 総合社会学科
学校図書館司書教諭		文学部	国文学科、史学科、地理学科、文化財学科
		社会学部	総合社会学科
司書		文学部	国文学科、史学科、地理学科、文化財学科
		社会学部	心理学科、総合社会学科
博物館学芸員		文学部	国文学科、史学科、地理学科、文化財学科
学校司書		文学部	国文学科、史学科、地理学科、文化財学科
		社会学部	心理学科、総合社会学科

2. 各資格の取得方法

(1) 教育職員科目履修の手引

《教員免許状の取得心得》	
国文学科	中学「国語」・高校「国語」の2教科の免許状取得を前提に科目を履修すること。
史・地理・文化財学科	中学「社会」・高校「地理歴史」の2教科の免許状取得を前提に科目を履修すること。やむを得ず、1免許状のみ取得する場合も「社会科教育法Ⅰ」「社会科教育法Ⅱ」「地理歴史科教育法」「社会科教材研究Ⅰ」「社会科教材研究Ⅱ」「地理歴史科教材研究」は必ず履修すること。
総合社会学科	中学「社会」・高校「公民」の2教科の免許状取得を前提に履修すること。やむを得ず、1免許状のみ取得する場合も、「社会科教育法Ⅰ」「社会科教育法Ⅱ」「公民科教育法」「社会科教材研究Ⅰ」「社会科教材研究Ⅱ」「公民科教材研究」は必ず履修すること。

1) 教育免許法施行規則第66条の6に定める科目

1. 日本国憲法（2単位）を必ず修得すること。
2. スポーツ実技Ⅰ・Ⅱ（2単位）を必ず修得すること。
3. 外国語科目のいずれかより合計2単位を必ず修得すること。
4. 「情報処理」「画像編集」「動画編集」「プログラミング基礎」（各2単位）のいずれかを必ず修得すること。
5. 上記で修得した科目の単位は、1は基幹科目、2は健康・スポーツ科目、3は情報科目の卒業要件単位数に含まれる。

2) 「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」、「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち「教科の指導法に関する科目」

1. 免許状を取得する場合は、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」、「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち「教科の指導法に関する科目」（107ページ参照）の科目を修得すること。なお、これらの科目を配当年次に単位修得できなかった者は、原則として教育職員免許状を取得できなくなるので注意すること。
2. 教育実習指導の履修方法
教育実習指導は、3年次に教育実習事前指導、4年次に教育実習直前及び事後指導を行い、2年間継続履修して単位が与えられる。単位の認定は4年次の教育実習と同時に行う。3年次の教育実習指導（一）の成績が芳しくない場合は、4年次の教育実習指導（二）の受講ができない。その結果、教育実習参加資格を欠くことになり、4年次での教育実習の受講は認められないので、注意すること。

注意：教育実習参加資格の判定

教育実習参加資格の合否は、参加資格に必要な科目の単位修得と教育実習指導（一）の認定及び教育実習オリエンテーション出席などを総合的に評価し、委員会において判定される。その結果は、4年次の4月の履修登録前に掲示にて発表するので確認のうえ、「教育実習」を登録すること。

3. 教育実習の履修方法

- イ) 3年次の終了までに、卒業要件科目の単位数を計100単位以上、教育原理、教職論、教育行政・制度論、教育心理学、特別支援教育、教育課程論、道徳教育論、特別活動・総合的な学習の時間の指導法、教育方法・技術論（ICTの活用含む）、生徒指導論、教育相談心理学、人権教育の研究、教科教育法（必修指定の科目）、教科教材研究（必修指定の科目）を修得しなければ、4年次で教育実習は履修できない。〔実習校の都合により、3年次に教育実習を行

う者においては、3年次終了時に、上記科目の単位修得の見込みのない者は教育実習の履修はできない。]

- ロ) 3年次終了時の全科目 GPA が一定の基準を満たさない者(2.0未満の者)、その他、所属学科が設ける基準を満たさない者は、4年次で教育実習は履修できない。
 - ハ) 教育実習オリエンテーションに欠席したり、教育実習の諸手続きが遅れた場合も教育実習参加資格を失うことになるので注意すること。
 - ニ) 4年次生の教育実習には、中学校教諭免許状(高等学校教諭免許状含む)を取得するための**教育実習Ⅰ**と、高等学校教諭免許状のみを取得するための**教育実習Ⅱ**があるので、間違えないで履修すること。
4. 教職実践演習(中・高)の履修について
- 4年次後期の教育実習終了後(もしくは教育実習と並行して)に履修する必要があり、教職課程の集大成となる科目として位置づけられている。そのため教育実習指導、教育実習Ⅰまたは教育実習Ⅱの単位を修得しても教職実践演習(中・高)を未修得の場合、教員免許状授与要件を満たすことはできず、教員免許状は取得できない。

3) 大学が独自に設定する科目

- 1. 人権教育の研究、道徳教育論を必ず修得すること。
- 2. 道徳教育論は中学校教諭免許状では「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」に充当される。

4) 「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち「教科に関する専門的事項科目」

「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち「教科に関する専門的事項科目」は、各自が所属している学科の基幹科目から履修できるので、以下の事項に注意して履修すること。

- 1. 国語〈国文学科〉
 - ①「国語」の免許状を取得する場合は、次に掲げる「4. 教科及び教科の指導法に関する科目」「教科に関する専門的事項科目」一覧(1)(108ページ参照)と国文学科の基幹科目の履修要項(39ページ参照)を参照すること。
 - ②中学校教諭一種免許状を取得する場合は、「書道Ⅰ」「書道Ⅱ」のうち、1科目(2単位)を必ず修得すること。
 - ③上記で修得した科目の単位は、卒業要件のそれぞれの区分の科目としても充当される。
- 2. 社会〈史・地理・文化財学科・総合社会〉
 - ①学科によって履修科目が異なるので間違えないで履修すること。
 - ②「社会」の免許状を取得する場合は、次に掲げる「4. 教科及び教科の指導法に関する科目」「教科に関する専門的事項科目」一覧(2)(3)(4)(5)(109～112ページ参照)と各学科の基幹科目の履修要項を参照すること。
 - ③上記で修得した科目の単位は、卒業要件のそれぞれの区分の科目としても充当される。
- 3. 地理歴史〈史・地理・文化財学科〉
 - ①学科によって履修科目が異なるので間違えないで履修すること。
 - ②「地理歴史」の免許状を取得する場合は、次に掲げる「4. 教科及び教科の指導法に関する科目」「教科に関する専門的事項科目」一覧(2)(3)(4)(109～111ページ参照)と各学科の基幹科目の履修要項を参照すること。
 - ③上記で修得した科目の単位は、卒業要件のそれぞれの区分の科目としても充当される。
- 4. 公民〈総合社会学科〉
 - ①「公民」の免許状を取得する場合は、次に掲げる「4. 教科及び教科の指導法に関する科目」「教科に関する専門的事項科目」一覧(5)(112ページ参照)と総合社会学科の基幹科目の履修要項(80ページ参照)を参照すること。
 - ②上記で修得した科目の単位は、卒業要件のそれぞれの区分の科目としても充当される。

5) 履修登録単位数

- 1. 「1. 教育免許法施行規則第66条の6に定める科目」(106ページ参照)、「4. 教科及び教科の指導法に関する科目」「教科に関する専門的事項科目」(1)～(5)(108ページ以下参照)の科目は、卒業要件にも含まれるので、年間履修登録単位制限である前期24単位、後期24単位、合計48単位に含めて履修登録すること。

6) 他学部・他学科履修による他教科免許（高校：地理歴史・公民）の取得について

（対象）文学部：史学科・地理学科・文化財学科

社会学部：総合社会学科

自学科で教員免許状を取得することを前提に他学部・他学科履修による他教科免許の取得を認める。ただし、学科の特徴や学修内容と免許教科の特性から、他教科免許取得は高校「地理歴史」と「公民」のみとする（国文学科の他教科免許取得は対象外。中・高「国語」の他教科免許の取得は認めない）。

また他教科免許の取得は課程認定を受けた各学科の科目表にならって科目を修得する必要があるなどいくつかの制約があるため、他教科免許取得は申請制とする（事前に申請を行わなければ履修を認めない）。なお、他教科免許の取得についての詳細、申請については教職課程ガイダンスにて説明を行う。

7) その他

1. 免許状を取得する場合は、『教職課程ハンドブック』（1年次生対象の教職ガイダンス開催時に配付）中の「教職課程科目履修要領」を参照すること。
2. 教職課程の詳しい内容は、『教職課程ハンドブック』を参照すること。

8) 教育職員科目配当表

1. 教育免許法施行規則第66条の6に定める科目

科目区分	科目名	単位	配当年次	履修上の注意
基幹科目 選択科目 C群（総合社会学科） D群（文学部）	日本国憲法	2	1-4	1科目 2単位必修
外国語科目	オーラルコミュニケーション初級Ⅰ・Ⅱ オーラルコミュニケーション中級Ⅰ・Ⅱ 実践英語初級Ⅰ・Ⅱ 実践英語中級Ⅰ・Ⅱ 英語読解初級Ⅰ・Ⅱ 英語読解中級Ⅰ・Ⅱ 上級英語Ⅰ・Ⅱ ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱ ドイツ語中級Ⅰ・Ⅱ フランス語初級Ⅰ・Ⅱ フランス語中級Ⅰ・Ⅱ 中国語初級Ⅰ・Ⅱ 中国語中級Ⅰ・Ⅱ 韓国語初級Ⅰ・Ⅱ 韓国語中級Ⅰ・Ⅱ	各1 各1 各1 各1 各1 各1 各1 各1 各1 各1 各1 各1 各1 各1 各1	1-2 1-2 1-2 1-2 1-2 1-2 1-2 1-2 1-2 1-2 1-2 1-2 1-2 1-2 1-2	いずれか 2単位分 必修
健康・スポーツ科目	スポーツ実技Ⅰ スポーツ実技Ⅱ	1 1	1 2	2科目 2単位必修
情報科目	情報処理 画像編集 動画編集 プログラミング基礎	2 2 2 2	1-2 1-2 1-2 1-2	いずれか 1科目 2単位必修

2. 「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」、「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち「教科の指導法に関する科目」

科目名	単位	免許状種類		配当年次	備考
		中学	高校		
教育原理	2	◎	◎	2	
教職論	2	◎	◎	1	
教育行政・制度論	2	◎	◎	3	
教育心理学	2	◎	◎	1	
特別支援教育	2	◎	◎	2	
教育課程論	2	◎	◎	2	
道徳教育論	2	◎	◎	2	中学校教諭免許状取得希望者のみ ※注1)
特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2	◎	◎	2	
教育方法・技術論（ICTの活用含む）	2	◎	◎	2	
生徒指導論	2	◎	◎	2	
教育相談心理学	2	◎	◎	3	
教育実習指導	1	◎	◎	3-4	2年連続履修
教育実習Ⅰ	4	◎	◎	4	中学校(高等学校含む)教諭免許状取得希望者 } 択一、必修 高等学校教諭免許状のみ取得希望者 } ※注2)
教育実習Ⅱ	2	-	◎	4	
教職実践演習（中・高）	2	◎	◎	4	
国語科教育法Ⅰ	2	◎	◎	3	当該教科ごとに履修 ※注3) 当該免許課程を有する学科生のみ履修可
国語科教育法Ⅱ	2	◎	◎	3	
社会科教育法Ⅰ	2	◎	-	3	
社会科教育法Ⅱ	2	◎	-	3	
地理歴史科教育法	2	-	◎	3	
公民科教育法	2	-	◎	3	
国語科教材研究Ⅰ	2	◎	◎	3	
国語科教材研究Ⅱ	2	◎	◎	3	
社会科教材研究Ⅰ	2	◎	-	3	
社会科教材研究Ⅱ	2	◎	-	3	
地理歴史科教材研究	2	-	◎	3	
公民科教材研究	2	-	◎	3	

◎印は必修科目を、○印は選択科目を表わす

注1) 道徳教育論は、高等学校では「大学が独自に設定する科目」に充当される

注2) 中学校のみ、もしくは中学校・高等学校両方の免許希望者は「教育実習Ⅰ」を、高等学校の免許のみの希望者は「教育実習Ⅱ」を履修すること

注3) 教科教育法及び教科教材研究は、当該免許の教科（国語、社会、地理歴史、公民）ごとに履修すること

※開設科目と法令との関係は、別冊『教職課程ハンドブック』を参照のこと。

3. 大学が独自に設定する科目

科目名	単位	免許状種類		配当年次	履修上の注意
		中学	高校		
人権教育の研究	2	◎	◎	3	
道徳教育論	2	-	◎	2-4	高等学校教諭免許状取得希望者のみ ※注1)

◎印は必修科目を、○印は選択科目を表わす

注1) 道徳教育論は、中学校では「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」に充当（必修科目）される

※開設科目と法令との関係は、別冊『教職課程ハンドブック』を参照のこと。

※法令上「大学が独自に設定する科目」の必要単位数は、中学校では4単位、高等学校では12単位であるが、上表の科目修得で不足分は、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」若しくは「教科及び教科の指導法に関する科目」で修得した単位から、それぞれの法令上の最低修得単位数を引いた余剰分を持って充てる。

4. 教科及び教科の指導法に関する科目「教科に関する専門的事項科目」

(1) 国文学科 [国語]

科目名	単位	免許状種類		配当年次	備考
		中学	高校		
○国語学概論Ⅰ	2	◎	◎	1-2	
○国語学概論Ⅱ	2	◎	◎	1-2	
日本語の歴史Ⅰ	2	○	○	2-3	
○古典文学概論Ⅰ	2	◎	◎	1-2	
○古典文学概論Ⅱ	2	◎	◎	1-2	
○国文学史Ⅰ	2	◎	◎	1-2	
○国文学史Ⅱ	2	◎	◎	1-2	
○国文学史Ⅲ	2	◎	◎	1-2	
○国文学史Ⅳ	2	◎	◎	1-2	
言語文学Ⅰ	2	◎	◎	1	
言語文学Ⅱ	2	◎	◎	1	
神話伝承論	2	○	○	2-3	
平安文学論	2	○	○	2-3	
近世文学論	2	○	○	2-3	
近代詩歌論	2	○	○	3-4	
○中国文学概論Ⅰ	2	◎	◎	2-3	
○中国文学概論Ⅱ	2	◎	◎	2-3	
中国文学講読Ⅰ	2	○	○	2-3	
中国文学講読Ⅱ	2	○	○	2-3	
○書道Ⅰ	2	◎	-	3-4	} いずれか1科目選択必修
○書道Ⅱ	2	◎	-	3-4	
国語科教育法Ⅰ	2	◎	◎	3	
国語科教育法Ⅱ	2	◎	◎	3	
国語科教材研究Ⅰ	2	◎	◎	3	
国語科教材研究Ⅱ	2	◎	◎	3	

◎印は必修科目を、○印は選択科目を表わす

※科目名の前に○印を付している科目は教育職員免許法施行規則に定める科目区分において、**一般的包括的な内容を含む科目**を表す。「一般的包括的な内容」とは、その科目の学問領域をおおまかに網羅するもの、特定の領域に偏っていないものであり、教員免許状取得には一般的包括的な内容を含む科目を修得しなければならない。

※開設科目と法令との関係は、別冊『教職課程ハンドブック』を参照のこと。

(2) 史学科 [社会・地理歴史]

科目名	単 位	免許状種類		配当 年次	備考
		中 学	高 校		
○日本史概論Ⅰ	2	◎	◎	1-4	
○日本史概論Ⅱ	2	◎	◎	1-4	
○東洋史概論Ⅰ	2	◎	◎	1-4	
○東洋史概論Ⅱ	2	◎	◎	1-4	
○西洋史概論Ⅰ	2	◎	◎	1-4	
○西洋史概論Ⅱ	2	◎	◎	1-4	
日本史基礎講義Ⅰ～Ⅴ	2	◎	◎	2-4	いずれか1科目選択必修
日本史特殊講義Ⅰ～Ⅸ	2	◎	◎	3-4	いずれか1科目選択必修
東洋史基礎講義Ⅰ～Ⅴ	2	◎	◎	2-4	いずれか1科目選択必修
東洋史特殊講義Ⅰ～Ⅳ	2	◎	◎	3-4	いずれか1科目選択必修
西洋史基礎講義Ⅰ～Ⅴ	2	◎	◎	2-4	いずれか1科目選択必修
西洋史特殊講義Ⅰ～Ⅳ	2	◎	◎	3-4	いずれか1科目選択必修
国際交流史基礎講義Ⅰ～Ⅵ	2	◎	◎	2-4	いずれか1科目選択必修
国際交流史特殊講義Ⅰ～Ⅴ	2	◎	◎	3-4	いずれか1科目選択必修
○地理学Ⅰ	2	◎	◎	1-4	} いずれか1科目選択必修
○地理学Ⅱ	2	◎	◎	1-4	
○地誌学Ⅰ	2	◎	◎	1-4	} いずれか1科目選択必修
○地誌学Ⅱ	2	◎	◎	1-4	
○法学	2	◎	-	1-4	} いずれか1科目選択必修
○政治学	2	◎	-	1-4	
○社会学	2	◎	-	1-4	} いずれか1科目選択必修
○経済学	2	◎	-	1-4	
○哲学・思想Ⅰ	2	◎	-	1-4	} いずれか1科目選択必修
○倫理学	2	◎	-	1-4	
○宗教学	2	◎	-	1-4	
社会科教育法Ⅰ	2	◎	-	3	
社会科教育法Ⅱ	2	◎	-	3	
社会科教材研究Ⅰ	2	◎	-	3	
社会科教材研究Ⅱ	2	◎	-	3	
地理歴史科教育法	2	-	◎	3	
地理歴史科教材研究	2	-	◎	3	

◎印は必修科目を、○印は選択科目を表わす

※科目名の前に○印を付している科目は教育職員免許法施行規則に定める科目区分において、**一般的包括的な内容を含む科目**を表す。「一般的包括的な内容」とは、その科目の学問領域をおおまかに網羅するもの、特定の領域に偏っていないものであり、教員免許状取得には一般的包括的な内容を含む科目を修得しなければならない。

※開設科目と法令との関係は、別冊『教職課程ハンドブック』を参照のこと。

(3) 地理学科 [社会・地理歴史]

科目名	単 位	免許状種類		配当 年次	備考	
		中 学	高 校			
○日本史Ⅰ	2	◎	◎	1-4	} いずれか1科目選択必修	
○日本史Ⅱ	2	◎	◎	1-4		
○外国史Ⅰ	2	◎	◎	1-4	} いずれか1科目選択必修	
○外国史Ⅱ	2	◎	◎	1-4		
考古学Ⅰ	2	○	○	2-4		
考古学Ⅱ	2	○	○	2-4		
美術史Ⅰ	2	○	○	2-4		
美術史Ⅱ	2	○	○	2-4		
○人文地理学Ⅰ	2	◎	◎	1-2		} いずれか1科目選択必修
○人文地理学Ⅱ	2	◎	◎	1-2		
○自然地理学Ⅰ	2	◎	◎	1-2	} 高校免許は5科目選択必修	
○自然地理学Ⅱ	2	◎	◎	1-2		
○日本地誌概論	2	◎	◎	1-2		
○世界地誌概論Ⅰ	2	◎	◎	1-2		
○世界地誌概論Ⅱ	2	◎	◎	1-2		
環境地理学概論	2	○	◎	1-2		
都市地理学	2	○	◎	2-4		
経済地理学	2	○	◎	2-4		
村落地理学	2	○	◎	2-4		
歴史地理学	2	○	◎	2-4		
観光・交通地理学	2	○	◎	2-4		
人口地理学	2	○	◎	2-4		
地理学特殊講義	2	○	◎	3-4		
地形学	2	○	◎	2-4		
気候学	2	○	◎	2-4		
水文学	2	○	◎	2-4		
災害地理学	2	○	◎	2-4		
○法学	2	◎	-	1-4	} いずれか1科目選択必修	
○政治学	2	◎	-	1-4		
○社会学	2	◎	-	1-4	} いずれか1科目選択必修	
○経済学	2	◎	-	1-4		
○哲学・思想Ⅰ	2	◎	-	1-4	} いずれか1科目選択必修	
○倫理学	2	◎	-	1-4		
○宗教学	2	◎	-	1-4		
社会科教育法Ⅰ	2	◎	-	3		
社会科教育法Ⅱ	2	◎	-	3		
社会科教材研究Ⅰ	2	◎	-	3		
社会科教材研究Ⅱ	2	◎	-	3		
地理歴史科教育法	2	-	◎	3		
地理歴史科教材研究	2	-	◎	3		

◎印は必修科目を、○印は選択科目を表わす

※科目名の前に○印を付している科目は教育職員免許法施行規則に定める科目区分において、**一般的包括的な内容を含む科目**を表す。「一般的包括的な内容」とは、その科目の学問領域をおおまかに網羅するもの、特定の領域に偏っていないものであり、教員免許状取得には一般的包括的な内容を含む科目を修得しなければならない。

※開設科目と法令との関係は、別冊『教職課程ハンドブック』を参照のこと。

(4) 文化財学科 [社会・地理歴史]

科目名	単 位	免許状種類		配当 年次	備考	
		中 学	高 校			
○日本史Ⅰ	2	◎	◎	1-4	} いずれか1科目選択必修	
○日本史Ⅱ	2	◎	◎	1-4		
○外国史Ⅰ	2	◎	◎	1-4	} いずれか1科目選択必修	
○外国史Ⅱ	2	◎	◎	1-4		
文化財学研究法Ⅰ	2	◎	◎	1-4	} 8科目のうち6科目選択必修	
文化財学研究法Ⅱ	2	◎	◎	1-4		
考古学概論Ⅰ	2	◎	◎	1-4		
考古学概論Ⅱ	2	◎	◎	1-4		
美術史概論Ⅰ	2	◎	◎	1-4		
美術史概論Ⅱ	2	◎	◎	1-4		
史科学概論Ⅰ	2	◎	◎	1-4		
史科学概論Ⅱ	2	◎	◎	1-4		
保存科学概論Ⅰ	2	◎	◎	1-4		
保存科学概論Ⅱ	2	◎	◎	1-4		
考古学特殊講義	2	○	◎	3-4		} 高校免許は いずれか1科目選択必修
美術史特殊講義	2	○	◎	3-4		
史科学特殊講義	2	○	◎	3-4		
保存科学特殊講義	2	○	◎	3-4		
○地理学Ⅰ	2	◎	◎	1-4		} いずれか1科目選択必修
○地理学Ⅱ	2	◎	◎	1-4		
○地誌学Ⅰ	2	◎	◎	1-4	} いずれか1科目選択必修	
○地誌学Ⅱ	2	◎	◎	1-4		
○法学	2	◎	-	1-4	} いずれか1科目選択必修	
○政治学	2	◎	-	1-4		
○社会学	2	◎	-	1-4	} いずれか1科目選択必修	
○経済学	2	◎	-	1-4		
○哲学・思想Ⅰ	2	◎	-	1-4	} いずれか1科目選択必修	
○倫理学	2	◎	-	1-4		
○宗教学	2	◎	-	1-4		
社会科教育法Ⅰ	2	◎	-	3		
社会科教育法Ⅱ	2	◎	-	3		
社会科教材研究Ⅰ	2	◎	-	3		
社会科教材研究Ⅱ	2	◎	-	3		
地理歴史科教育法	2	-	◎	3		
地理歴史科教材研究	2	-	◎	3		

◎印は必修科目を、○印は選択科目を表わす

※科目名の前に○印を付している科目は教育職員免許法施行規則に定める科目区分において、**一般的包括的な内容を含む科目**を表す。「一般的包括的な内容」とは、その科目の学問領域をおおまかに網羅するもの、特定の領域に偏っていないものであり、教員免許状取得には一般的包括的な内容を含む科目を修得しなければならない。

※開設科目と法令との関係は、別冊『教職課程ハンドブック』を参照のこと。

(5) 総合社会学科 [社会・公民]

科目名	単位	免許状種類		配当年次	備考
		中学	高校		
○日本史Ⅰ	2	◎	-	1-4	} いずれか1科目選択必修
○日本史Ⅱ	2	◎	-	1-4	
○外国史Ⅰ	2	◎	-	1-4	} いずれか1科目選択必修
○外国史Ⅱ	2	◎	-	1-4	
産業と技術の発展	2	○	-	2-4	
○地理学Ⅰ	2	◎	-	1-4	} いずれか1科目選択必修
○地理学Ⅱ	2	◎	-	1-4	
○地誌学Ⅰ	2	◎	-	1-4	} いずれか1科目選択必修
○地誌学Ⅱ	2	◎	-	1-4	
○法学	2	◎	◎	1-4	
○政治学	2	◎	◎	2-4	
国際政治学	2	○	◎	2-4	
○社会学基礎	2	◎	◎	1-4	} 高校免許は 9科目のうち4科目選択必修
○経済学	2	◎	◎	1-4	
地域社会学	2	○	◎	2-4	
家族社会学	2	○	◎	2-4	
産業社会学	2	○	◎	2-4	
国際社会学	2	○	◎	2-4	
環境社会学	2	○	◎	2-4	
情報社会学	2	○	◎	2-4	
ジェンダーとライフコース	2	○	◎	2-4	
消費者行動分析	2	○	◎	2-4	
企業倫理と消費者	2	○	◎	2-4	
○哲学・思想Ⅰ	2	◎	◎	1-4	
○倫理学	2	◎	◎	1-4	
○宗教学	2	◎	◎	1-4	
○心理学	2	-	◎	2-4	
現代社会と哲学	2	○	○	2-4	
現代社会と倫理	2	○	○	2-4	
社会科教育法Ⅰ	2	◎	-	3	
社会科教育法Ⅱ	2	◎	-	3	
社会科教材研究Ⅰ	2	◎	-	3	
社会科教材研究Ⅱ	2	◎	-	3	
公民科教育法	2	-	◎	3	
公民科教材研究	2	-	◎	3	

◎印は必修科目を、○印は選択科目を表わす

※科目名の前に○印を付している科目は教育職員免許法施行規則に定める科目区分において、**一般的包括的な内容を含む科目**を表す。「一般的包括的な内容」とは、その科目の学問領域をおおまかに網羅するもの、特定の領域に偏っていないものであり、教員免許状取得には一般的包括的な内容を含む科目を修得しなければならない。

※開設科目と法令との関係は、別冊『教職課程ハンドブック』を参照のこと。

(2) 学校図書館司書教諭資格

学校図書館司書教諭とは、学校図書館法によって定められた「司書教諭」となる資格を取得するための課程である。

学校図書館法は、学校教育において欠くことの出来ない基礎的な施設として学校図書館を置くことを義務づけている。また同法では、学校図書館の専門的職務を掌らせるため、司書教諭を置かなければならないと規定されている。

この資格は教員免許状を有することが資格取得の前提条件となっており、教職課程と並行して履修しなければならない。

資料整理や読書指導などを行う資格として、司書教諭と司書はよく似ているが、混同しないように注意すること。

1) 資格取得条件

1. 教員免許状を有すること。
2. 司書教諭に関する科目の単位を修得していること。したがって、司書教諭資格を取得するには、教職課程と司書教諭の両方を履修しなければならない。

2) 履修上の注意

学校図書館司書教諭は、司書とは異なり、資格の性質上3年次生以上の、教員免許状取得希望者しか履修することが出来ない。

3) 修了証の授与

所定の単位を修得した者は、文部科学大臣に対して申請すれば講習の修了証書が授与されることになっている。なお、大学を通じた一括申請を行っている。教員免許一括申請説明会にあわせ申請方法の説明を行うので、希望者は所定の手続きにて申し込むこと。

4) 学校図書館司書教諭資格科目配当表

必修 選択別	施行規則による科目名	本学開設科目名	単 位	配 当 年 次	種 別	備考
必修 科目	学校経営と学校図書館	学校経営と学校図書館	2	2-4	◎	
	学校図書館メディアの構成	学校図書館メディアの構成	2	3-4	◎	
	学習指導と学校図書館	学習指導と学校図書館	2	3-4	◎	
	読書と豊かな人間性	読書と豊かな人間性	2	2-4	◎	
	情報メディアの活用	情報メディアの活用	2	3-4	◎	
	合 計		10		5科目10単位必修	

◎印は必修科目を、○印は選択科目を表わす

(3) 博物館学芸員資格

1) 博物館学芸員資格取得実施要領 —2023年度以降入学生適用—

博物館とは、美術館・資料館・郷土館・宝物館・考古館・民芸館・民俗館・自然史館・文学館・記念館のほか、天文館・電気館・科学館・水族館・動物館・植物園などを含むもので、これらは学校教育に対する社会教育施設として、図書館や公民館とともに地域における生涯学習推進のための中核的な拠点である。

昭和26年12月に制定された「博物館法」により、これらの博物館はその目的を達成するために、専門的職員として「学芸員」を置くことが定められた。学芸員は博物館資料の収集・保管・展示・調査研究および教育普及活動などの多様な博物館活動の推進のために重要な役割を担っている。博物館が地域における生涯学習推進のための中核的な拠点として必要な機能を果しうるかどうかは、学芸員の能力と手腕にかかっていると見える。

本学では、社会の要請に充分に応えるべく、優秀な人文科学系博物館の学芸員を養成するため、博物館学芸員課程を設置している。したがって、この課程を履修するにあたっては、積極的な意欲と真摯な研究心をもって努力することが必要である。

学芸員資格専門科目

(11科目19単位必修)

博物館法施行規則第1条		本学開設科目		
科目名	単位数	科目名	単位数	配当年次
生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	2-3
博物館概論	2	博物館概論	2	2-3
博物館経営論	2	博物館経営論	2	2-3
博物館資料論	2	博物館資料論	2	2-3
博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2	2-3
博物館展示論	2	博物館展示論	2	2-3
博物館教育論	2	博物館教育論	2	2-3
博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2	2-3
博物館実習	3	博物館実習Ⅰ	1	3
		博物館実習Ⅱ	1	3
		博物館実習Ⅲ	1	4
合計	19	合計	19	

学芸員資格選択科目

(2系列以上6科目以上12単位以上修得)

系列	科目名	系列	科目名
文化史	日本史概論Ⅰ・Ⅱ 東洋史概論Ⅰ・Ⅱ 西洋史概論Ⅰ・Ⅱ 史科学概論Ⅰ・Ⅱ 文献史科学 書物論 地図学基礎 国文学史Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 比較交流論 比較文化論 メディア文化論 メディア学	考古学	考古学概論Ⅰ・Ⅱ 考古学Ⅰ・Ⅱ 先史考古学 歴史考古学 仏教考古学 世界考古学 考古学研究法
		民俗学	民俗学 文化人類学 神話伝承論
美術史	美術史概論Ⅰ・Ⅱ 美術史Ⅰ・Ⅱ 東洋美術史 日本彫刻史 日本絵画史 工芸史 建築史	自然科学史	保存科学概論Ⅰ・Ⅱ 気候学 水文学

《博物館実習概要》

配当年次	実習区分	実習内容	摘要
3年次生	実習Ⅰ (37h)	①ガイドランス(3h) ②引率見学(16h) ③講演会(6h) ④自主見学(12h)	①引率見学・自主見学ガイドランス 概要説明およびレポート指導 ②コースを設定 選択したコースで4館見学 ③前期3回実施 ④博物館3館を各自で見学、レポート提出
	実習Ⅱ (30h)	⑤実技実習事前指導(3h) ⑥学内実習(24h) ⑦館園実習事前指導(3h)	⑤概要説明および梱包実習の事前指導 ⑥実技実習(文献資料、美術資料、考古資料、民俗資料、梱包) ⑦実習Ⅲ(4年次生)の館園実習体験発表会 に出席、レポート提出
4年次生	実習Ⅲ (36h)	⑧ガイドランス(3h) ⑨館園実習(30h) ⑩館園実習事後指導(3h)	⑧館園実習館の決定、館園実習直前指導 ⑨博物館館務実習(原則5日間以上) ⑩館園実習体験発表会に出席、館園実習感想 文提出

履修の手引

1. 博物館学芸員資格取得については、学芸員資格専門科目11科目19単位を全て修得、かつ、学芸員資格選択科目の文化史系、美術史系、考古学系、民俗学系、自然科学史系の5系列の科目群より2系列以上6科目以上12単位以上修得しなければならない。
2. 学芸員資格専門科目の「博物館概論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」「博物館情報・メディア論」「博物館実習Ⅰ」「博物館実習Ⅱ」「博物館実習Ⅲ」の履修登録は、履修登録単位数制限（前期24単位、後期24単位、通年48単位）の範囲外で登録することができる。「生涯学習概論」は卒業要件（キャリア科目）の単位として充当されるので、履修登録単位数制限内の登録となる。
また、学芸員資格選択科目の履修登録についても、卒業要件の単位として充当されるので、履修登録単位数制限内の登録となる。
3. 「博物館実習Ⅰ」「博物館実習Ⅱ」「博物館実習Ⅲ」は、法令で定められている3単位分の学修を、1単位分ずつ分割して開講している。そのため、3科目とも修得しなければ法令上の科目としては認められない。
「博物館実習Ⅰ」「博物館実習Ⅱ」を3年次配当、「博物館実習Ⅲ」を4年次配当としており、原則として各科目を配当年次に履修しなければならない。「博物館実習Ⅲ」には履修の前提条件を設けており、「博物館概論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」の5科目のうち4科目を修得し、かつ、「博物館実習Ⅰ」と「博物館実習Ⅱ」の両方を修得し、併せて、3年次終了時（博物館実習Ⅲを履修する前年度まで）の全科目GPAが2.0以上であることを必要とする。
4. 「博物館実習」の受講については、博物館実習費を必要とする。「博物館実習Ⅰ」、「博物館実習Ⅱ」、「博物館実習Ⅲ」の履修時にそれぞれ実習費を納入しなければならない。

- 付記
- | | |
|---|---|
| 1. 昭和56年3月5日 教授会決定 | これを施行し、平成24年度以降入学生及び平成24年度以降編入生に適用する。 |
| 2. 昭和61年1月16日 教授会決定
昭和60年度入学生から施行する。 | 13. 本要領の改正は平成25年12月12日文学部会で決定。平成26年4月1日からこれを施行し、平成26年度以降入学生に適用する。 |
| 3. 平成3年4月1日 教授会決定
平成2年度入学生から施行する。 | 14. 本要領の改正は平成30年12月13日文学部会で決定。平成31年4月1日からこれを施行し、平成31年度以降入学生に適用する。 |
| 4. 平成7年4月1日から施行する。 | 15. 本要領の改正は令和5年1月12日文学部会で決定。令和5年4月1日からこれを施行し、令和5年度以降入学生に適用する。 |
| 5. 平成9年4月1日から施行する。 | |
| 6. 本要領の改正は文学部会で決定。
平成10年4月1日からこれを施行し、平成8年度以降入学生に適用する。 | |
| 7. 本要領の改正は文学部会で決定。
平成12年4月1日からこれを施行する。 | |
| 8. 本要領の改正は平成13年2月8日文学部会で決定。平成13年4月1日からこれを施行する。 | |
| 9. 本要領の改正は平成16年2月26日文学部会で決定。平成16年4月1日からこれを施行する。 | |
| 10. 本要領の改正は平成17年2月26日文学部会で決定。平成17年4月1日からこれを施行し、平成16年度以降入学生に適用する。 | |
| 11. 本要領の改正は平成21年12月10日文学部会で決定。平成22年4月1日からこれを施行し、平成22年度以降入学生に適用する。 | |
| 12. 本要領の改正は平成24年2月9日文学部会で決定。平成24年4月1日からこ | |

2) 博物館学芸員資格科目配当表

1. 博物館学芸員資格必修科目

必修 選択別	施行規則による科目名	本学開設科目名	単 位	配 当 年 次	種 別	備考	
必修 科目	生涯学習概論	生涯学習概論 ※	2	2-3	◎	キャリア科目	
	博物館概論	博物館概論	2	2-3	◎		
	博物館経営論	博物館経営論	2	2-3	◎		
	博物館資料論	博物館資料論	2	2-3	◎		
	博物館資料保存論	博物館資料保存論	2	2-3	◎		
	博物館展示論	博物館展示論	2	2-3	◎		
	博物館教育論	博物館教育論	2	2-3	◎		
	博物館情報・メディア論	博物館情報・メディア論	2	2-3	◎		
	博物館実習	博物館実習Ⅰ	博物館実習Ⅰ	1	3		◎
		博物館実習Ⅱ	博物館実習Ⅱ	1	3		◎
博物館実習Ⅲ		博物館実習Ⅲ	1	4	◎		
合 計			19	11科目19単位必修			

◎印は必修科目を、○印は選択科目を表わす

※「生涯学習概論」については、司書資格取得に関する科目の単位としても充当される。

またキャリア科目選択科目として卒業要件単位に充当される。

2. 博物館学芸員資格選択科目

系列	科目名	単 位	配 当 年 次	備考
文化史系	国文学史Ⅰ	2	1-4	国文学科
	国文学史Ⅱ	2	1-4	国文学科
	国文学史Ⅲ	2	1-4	国文学科
	国文学史Ⅳ	2	1-4	国文学科
	比較交流論	2	3-4	国文学科（他学科履修不可）
	比較文化論	2	3-4	国文学科以外の基幹科目選択科目D群
	日本史概論Ⅰ	2	1-4	史学科
	日本史概論Ⅱ	2	1-4	史学科
	東洋史概論Ⅰ	2	1-4	史学科
	東洋史概論Ⅱ	2	1-4	史学科
	西洋史概論Ⅰ	2	1-4	史学科
	西洋史概論Ⅱ	2	1-4	史学科
	地図学基礎	2	1-4	地理学科
	史科学概論Ⅰ	2	1-4	文化財学科
	史科学概論Ⅱ	2	1-4	文化財学科
	文献史料学	2	2-4	文化財学科
	書物論	2	3-4	国文学科
	メディア文化論	2	3-4	国文学科（他学科履修不可）
	メディア学	2	3-4	国文学科以外の基幹科目選択科目D群
美術史系	美術史概論Ⅰ	2	1-4	文化財学科（他学科履修不可）
	美術史概論Ⅱ	2	1-4	文化財学科（他学科履修不可）
	美術史Ⅰ	2	2-4	文化財学科以外の基幹科目選択科目D群
	美術史Ⅱ	2	2-4	文化財学科以外の基幹科目選択科目D群
	建築史	2	2-4	文化財学科
	東洋美術史	2	2-4	文化財学科
	日本彫刻史	2	2-4	文化財学科
	日本絵画史	2	2-4	文化財学科
	工芸史	2	2-4	文化財学科

考古系	考古学概論Ⅰ	2	1 - 4	文化財学科（他学科履修不可）
	考古学概論Ⅱ	2	1 - 4	文化財学科（他学科履修不可）
	考古学Ⅰ	2	2 - 4	文化財学科以外の基幹科目選択科目D群
	考古学Ⅱ	2	2 - 4	文化財学科以外の基幹科目選択科目D群
	先史考古学	2	2 - 4	文化財学科
	歴史考古学	2	2 - 4	文化財学科
	仏教考古学	2	2 - 4	文化財学科
	世界考古学	2	2 - 4	文化財学科
	考古学研究法	2	2 - 4	文化財学科（他学科履修不可）
民俗系	神話伝承論	2	2 - 4	国文学科
	民俗学	2	2 - 4	各学科基幹科目選択科目D群
	文化人類学	2	1 - 4	各学科基幹科目選択科目D群
自然科学史系	保存科学概論Ⅰ	2	1 - 4	文化財学科
	保存科学概論Ⅱ	2	1 - 4	文化財学科
	気候学	2	2 - 4	地理学科
	水文学	2	2 - 4	地理学科

上表の中から、2系列以上6科目以上12単位以上修得すること。

配当科目が他学科・他学部科目の場合の履修は、2年次生以上かつ当該科目の配当年次以上でなければならない。

(4) 司書資格

図書館には、専門職員として十分な知識をそなえた「司書」を、地方公共団体の設置する公共図書館、または法人の設置する私立図書館に配置するように規定されている。

司書はこのような図書館の第一線の業務を担うので、図書館の運営と資料・情報に関する専門的な知識を身につけている必要がある。

したがって、下記に記すように多数の科目の単位修得が必要であり、単なる資格取得を目的とするならば、大きな負担となるだけである。

この司書の科目は、その多くが卒業必要単位数に含まれない科目であるから、他の科目履修状況も考慮しつつ、強い意志と十分な計画をもってあたることが望まれる。

特に、図書館への就職を希望する者にとっては、「司書」資格は、受験資格の要件となるほか、在学中の学習技術として図書館利用上の大きな武器ともなると考えられる。

1) 資格取得条件

司書となる資格を得るためには、次の条件をそなえなければならない。

1. 大学を卒業した者であること。
2. 司書に関する科目の単位を修得していること。

2) 履修上の注意

履修する科目（講義・演習等）は順序よく系統だてて受講していかないと理解が進まない。

したがって1年間で全ての科目の履修は出来ないもので注意すること。

3) 司書資格科目配当表

必修 選択別	施行規則による科目名	本学開設科目名	単 位	配 当 年 次	種 別	備考
必修 科目	生涯学習概論	生涯学習概論 ※	2	2-4	◎	キャリア科目
	図書館概論	図書館概論	2	1-4	◎	
	図書館制度・経営論	図書館制度・経営論	2	2-4	◎	
	図書館情報技術論	図書館情報技術論	2	3-4	◎	
	図書館サービス概論	図書館サービス概論	2	1-4	◎	
	情報サービス論	情報サービス論	2	3-4	◎	
	児童サービス論	児童サービス論	2	1-4	◎	
	情報サービス演習	情報サービス演習	4	3-4	◎	
	図書館情報資源概論	図書館情報資源概論	2	1-4	◎	
	情報資源組織論	情報資源組織論	2	2-4	◎	
	情報資源組織演習	4	3-4	◎		
選択 科目	図書館基礎特論	図書館基礎特論	2	3-4	○	2科目4単位以上 選択必修
	図書館情報資源特論	図書館情報資源特論	2	3-4	○	
	図書・図書館史	図書・図書館史	2	1-4	○	
	図書館施設論	図書館施設論	2	2-4	○	
	図書館総合演習	図書館総合演習	2	3-4	○	
	図書館実習	図書館実習	2	3-4	○	
	学校図書館サービス論	図書館サービス特論	2	1-4	○	
	合 計		30		13科目30単位以上	

◎印は必修科目を、○印は選択科目を表わす

※「生涯学習概論」については、学芸員資格取得に関する科目の単位としても充当される。

またキャリア科目選択科目として卒業要件単位に充当される。

(5) 学校司書プログラム

「学校司書」とは、教諭として学校図書館の専門的職務を掌る学校図書館司書教諭とともに学校図書館の管理運営を担う学校事務職員のことであり、学校図書館法により、各学校において「学校司書」を置くよう努めなければならないと規定されている。

本学の学校司書プログラムは、文部科学省が定めた学校司書モデルカリキュラムに準じて開設しており、小・中学校及び高等学校の学校図書館で勤務するために必要な知識や技能を身につけることを目的としている。学校司書モデルカリキュラムの修了者に対して、「学校司書単位修得証明書」を発行する。

図書館への就職を希望する者は、司書資格とともに本プログラムを履修することが望ましい。

1) プログラム修了条件

学校司書プログラムで指定した学校司書に関する科目の単位を修得していること。

2) 履修上の注意

学校司書プログラム科目は、司書、学校図書館司書教諭及び教職課程科目の中から、学校司書の職務に必要な科目から構成されている。学校司書プログラムのみ受講ではなく、それぞれの課程と両立し、複数の免許・資格を取得することが望ましい。

3) 学校司書単位修得証明書の発行

学校司書は、司書資格などとは異なり公的な資格ではないため、資格証明書の発行ができない。学校司書プログラムの科目を全て修得した修了者に対して、本学が「学校司書単位修得証明書」を発行する。

4) 学校司書プログラム科目配当表

	科目名	本学開設科目名	単 位	配 当 年 次	種 別	備 考
・ 学校図書館の運営・管理 サービスに関する科目	学校図書館概論	学校経営と学校図書館	2	2 - 4	◎	司書教諭
	図書館情報技術論	図書館情報技術論	2	3 - 4	◎	司書
	図書館情報資源概論	図書館情報資源概論	2	1 - 4	◎	司書
	情報資源組織論	情報資源組織論	2	2 - 4	◎	司書
	情報資源組織演習	情報資源組織演習	4	3 - 4	◎	司書
	学校図書館サービス論	図書館サービス特論	2	1 - 4	◎	司書
	学校図書館情報サービス論	情報サービス論	2	3 - 4	◎	司書
		情報サービス演習	4	3 - 4	◎	司書
教育支援に関する科目 児童生徒に対する	学校教育概論	教育原理	2	2 - 4	◎	教職
		教職論	2	1 - 4	◎	教職
		教育行政・制度論	2	3 - 4	◎	教職
		教育心理学	2	1 - 4	◎	教職
		特別支援教育	2	2 - 4	◎	教職
		教育課程論	2	2 - 4	◎	教職
	学習指導と学校図書館	学習指導と学校図書館	2	3 - 4	◎	司書教諭
	読書と豊かな人間性	読書と豊かな人間性	2	2 - 4	◎	司書教諭
合 計			36	16科目36単位必修		

◎印は必修科目を、○印は選択科目を表わす

履修登録

IV. 履修登録

1. 履修計画作成の注意

(1) 履修に関する心得と単位

1) 履修計画について

この計画において、特に次の点に注意しなければならない。

- ア) 必修科目及び選択科目は決して落とさないこと
- イ) 授業科目の配当年次に注意すること
- ウ) 各年次で相応の単位を得ること

これらの計画を入学したときから考慮に入れることは難しいことかもしれないが、各年次で各自がどの程度の単位を取ったらよいかあらかじめ考える必要がある。

2) 授業期間の形態

授業は、実施される時期・期間により以下のように区分される。

- 通年科目…1年間を通じて行う授業
- 前期科目…前期期間（4月～7月）に行う授業
- 後期科目…後期期間（9月～1月）に行う授業
- 集中講義科目…集中講義期間（原則として9月の特定期間）に行う授業
- その他の科目…上記以外で、不規則、不定期に行う授業

- 本学の授業は2学期制（セメスター）を原則としているが、一部の科目は通年科目となっている。
- 履修登録は前期に行うが、その際には1年間を見通した履修計画を立てることが肝要である。
（後期科目のみ後期授業開始前の指定期日において変更できる。通年・集中・その他の科目については、追加・変更・削除はできない。）

3) 単位制について

1: 単位とは

単位とは、大学での学修の量を計る数値のことであり、大学で開講しているそれぞれの授業科目には、全て、その種類や授業時間数・予習復習の時間数に応じた単位数を定めている。例えば、前期または後期の半年間で15回の授業を行う講義科目は**2単位**、外国語科目やスポーツ実技などの実習科目は**1単位**となっている。これらの科目を履修して合格すればその単位数を修得することができ、本学の場合、4年間各学科ごとに定められた「卒業に必要な単位」に基づき合計**124単位**以上修得すれば卒業となる。

2: 科目ごとの単位数の違い

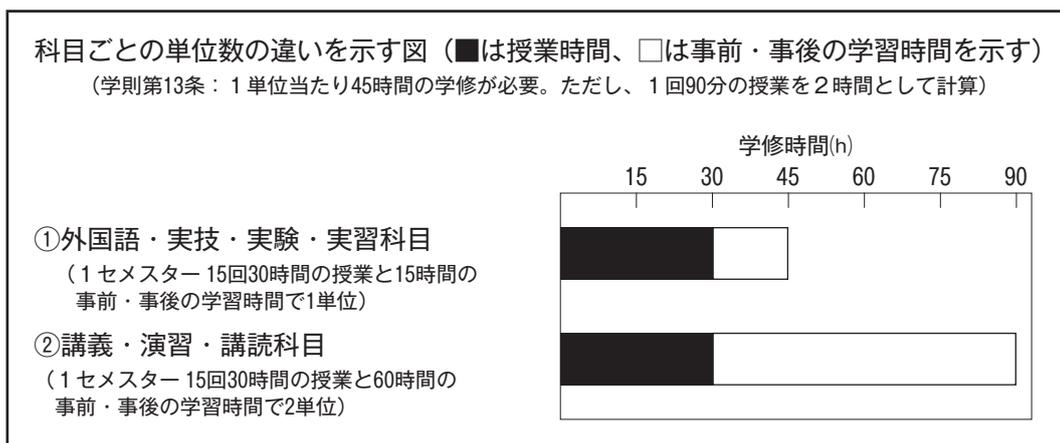
①外国語科目や実技・実験・実習科目について

前期または後期で15回の授業を行う外国語科目や実技・実験・実習科目に合格すれば、1つの科目につき**1単位**が与えられる。

②講義科目や演習・講読科目について

前期または後期で15回の授業を行う講義科目や演習・講読科目に合格すれば、1つの科目につき**2単位**が与えられる。本学で開講している講義科目や演習・講読科目のほとんどは前期または後期で完了するため、その単位数は2単位だが、一部に通年で合計30回の授業を行う通年科目もあり、その単位数は4単位になっているので注意すること。

このように、科目ごとの単位数の違いには学生の自習時間も考慮されており、大学における学修では、学生による自主的・自発的な予習・復習が不可欠であることを肝に命じていただきたい。



(2) 履修登録

1) 履修登録単位の制限

- 履修登録単位は1学年に48単位までに制限している。したがって、4年間を通じた履修登録制限単位数は次のとおりとなる。通年・集中・その他の科目について、その科目の単位数の2分の1を前期・後期それぞれに算入し、制限単位数に収まるよう登録すること。なお、年度末卒業要件 GPA が一定数以上の者については、翌年度の履修登録単位52単位以内まで登録することができる。詳細については、「GPA 制度取り扱い要項」(126ページ～)を参照すること。
- ただし、教育職員、学校図書館司書教諭、司書及び博物館学芸員の各資格を取得するための科目を履修する場合(103ページ～参照)、放送大学の科目を履修する場合(99ページ参照)は、48単位を超えて履修登録することができる。

区分		年次				計
		1年	2年	3年	4年	
全学年	前期	24単位	24単位	24単位	24単位	96単位
	後期	24単位	24単位	24単位	24単位	96単位
合計		48単位	48単位	48単位	48単位	192単位

2) 履修登録上の注意

履修計画を立て登録を行う際には、以下のような注意事項があるので、よく読んで間違いのないようにしてほしい。

・重複登録(履修)の禁止

同一曜日、同一時間においては、1科目しか登録できない。

・修得科目の再履修の禁止

前学期までに履修し単位を修得した科目を、再び履修することはできない。ただし、一部の以下の科目は例外として2回以上履修することができる。

各学科基幹科目の「講読」「演習」「特殊講義」等(学科により認められない場合もある。各学科の履修要項(39～90ページ)参照)、「海外研修」(89ページ参照)

・同一科目の二重登録

同一科目を2つ以上履修登録することはできない。特に科目名に(一)(二)のように漢数字のついている科目は同一科目として扱われるので注意すること。

例：「人間学Ⅰ(一)」と「人間学Ⅰ(二)」

(担当者・授業内容が異なっても、同一科目となる)

ただし、上に述べた再履修のできる専門科目の「演習」「講読」「特殊講義」等はこの限りではない。(学科により認められない場合もある。各学科の履修要項39～90ページを参照)

・先修条件

別の科目(先修科目)を履修した者のみに履修が許されている科目がある。詳細は、各学科基幹科目の履修上の注意を参照。

2. 履修計画作成の実際

前ページまでの履修計画作成の注意を理解した上で、各自の時間割を作成し、履修登録を行うことになる。実際には、以下の手順で1年次生は時間割表（履修計画）を作成していくことになるが、4月の履修登録で、前期・後期の両方の登録をする必要があるため、後期の科目にも注意が必要。

- ①各学科の基幹科目の必修科目、選択必修科目のうち、1年次配当のものを設定する。
この作業は、「外国語科目」「スポーツ実技Ⅰ」の予備登録（抽選）の前に設定することができるため、最初に行う。
自分が選択・登録しようとしている外国語科目やスポーツ実技が、前期・後期ともに①の時間と重複していないかを確認しておく。
- ②予備登録（抽選）の必要な科目の予備登録（抽選）は指定された日程・方法で行う。
- ③予備登録（抽選）で受講することが確定した外国語科目とスポーツ実技Ⅰを設定する。卒業要件単位のうち、何単位分を1年次に履修するかは、4年間の単位数の計画を立てた上で各自が考える。
通年科目を登録する場合は、後期に他の科目を登録できないので注意が必要。
- ④予備登録（抽選）で受講することが確定した情報科目を設定する。
- ⑤「情報倫理」「情報リテラシー」を希望する時間に設定する。
- ⑥各種資格の取得を希望する者は、空いている時間に資格科目を設定する。
- ⑦登録制限（半期24単位まで、124ページ参照）を超えない範囲で、空いている時間に、受講を希望する科目を設定する。

注意：以上によって履修計画を作成した上で、ポータルサイトより履修登録を行う。
履修登録の詳細は、ガイダンス等で説明する。

3. 単位認定と成績

履修登録を済ませ、実際に授業を履修した結果、単位が認定されるが、ここでは、単位認定に関わる基礎的な事項について記載する。詳しくは、『COLLEGE LIFE』に記載の「試験及び成績評価に関する規則」を参照すること。

(1) 試験とレポート

1) 試験の種類

試験には、定期試験、臨時試験、追試験及び再試験がある。

- 定期試験は、前期（7月）と後期（1月）の各学期毎に、一定の試験期間に行う。試験期間は学年暦を参照すること。試験の時間割は、試験期間の1週間前までに学生ポータルシステムにて発表する。
- 臨時試験は、定期試験以外に行う試験であり、実施する場合には、授業時または学生ポータルシステムにて発表する。
- 追試験は、定期試験または定期試験に準じる臨時試験を、病気などの理由で受験できなかった者に対して行う。該当者は受験料（1科目につき1,000円）を添えて「追試験願」を学生支援センター（教務担当）に提出しなければならない。（代理提出可）
- 再試験は、卒業可能年次に在籍する者で、卒業判定において卒業できない恐れが生じた者を対象に行う。その年次に履修した科目で成績評価が59点から40点の不合格科目が対象となる（3科目以内）。該当者は成績発表当日に受験料（1科目につき4,000円）を添えて「再試験願」を学生支援センター（教務担当）に提出しなければならない。

2) 試験の方法

試験は、筆答、口答、論文（レポート）によって行う。

3) レポート

レポートは試験の一種であり、定期試験または定期試験に準じる臨時試験がレポートによって行われる場合は、以下の事項に注意すること。

- 提出場所を間違えないこと（教員の研究室に持参や、授業時に回収、または学生支援センター（教務担当）窓口で受付など）。
- 提出期限を守ること。期限が守られない場合は、一切受け付けられない。
- 学生支援センター（教務担当）に提出の場合は、学生支援センター（教務担当）のカウンターに設置の「奈良大学レポート」（必要事項を記入）を表紙にして添付すること。
- 学生支援センター（教務担当）での受付は、締切日を含めて3日間で、受付時間は平日8時30分から16時30分となっている。受付期間の前後の日や、締切時間を超えた場合は一切受け付けられない。また、郵送での受付も行わない。

(2) 成績

1) 成績評価

本学における成績の評価は、各学期毎（通年科目・集中科目は後期）に行う。試験（定期試験及び臨時試験）、レポート、授業出席状況などを総合して、授業科目に対する単位の認否（合格・不合格）を各学期末に行う。

- 成績評価は100点満点とし、60点以上が合格である。成績評価は次のとおり表記する。
「S」（100～90点）、「A」（89～80点）、「B」（79～70点）、「C」（69～60点）、「D」（59点以下）、「F」（出席不足や試験欠席等により評価できない）
- 各評価にはグレードポイント（以下GP）を付与したうえ、1単位あたりの平均値（GPA…Grade Point Averageの略）を算出する。詳細は、以下の要項を参照すること。

GPA 制度取り扱い要項

（目的）

第1条 この要項は、奈良大学におけるグレードポイントアベレージ（Grade Point Average）制度の要点を整理することにより、制度の理解を深めることを目的とする。

(定義)

第2条 「GPA」とは、Grade Point Average の略で、各授業科目5段階の成績評価に対応して4～0のグレードポイント（以下「GP」という）を付与して算出する1単位あたりのGP平均値のことをいう。

2 GPA対象科目は、100点を満点として成績評価されるすべての授業科目とする。

3 成績評価が点数によらない科目及び本学が指定した以下の授業科目については、GPAの対象科目から除く。

- (1) 編入学や転入学した際の単位認定科目
- (2) 本学入学前に修得した単位認定科目
- (3) 留学や他大学との単位互換等で修得した科目

(成績評価)

第3条 前条第2項及び第3項に定めるGPA対象科目について、各科目の成績評価を以下の判定基準に従い評価し、5段階のGPを付与して1単位あたりの評点平均値を算出する。

評価	評点		GP	判定内容
合格	S	90点以上	4	当該科目の履修において、所期の目標をほとんど完全にもしくはそれを超えて達成し、特段に優れた成績を修めたもの
	A	89点～80点	3	当該科目の履修において、所期の目標を達成しているもの
	B	79点～70点	2	当該科目の履修において、不十分な点はあるものの、所期の目標を達成しているもの
	C	69点～60点	1	当該科目の履修において、不十分な点は多いものの、最低限の目標に達しているもの
不合格	D	59点以下	0	当該科目の履修において、目標を達成していないもの
	F		0	出席不足・試験欠席等により評価できない
認定	W	対象外		履修取消をした
	N		編入や留学等で単位を認定した	

2 GPAは、当該学期に履修した対象科目について、学期GPA及び通算GPAに区分し、各区分の定める方法により計算するものとする。計算値は、小数点以下第3位を四捨五入して表記するものとする。

- 1) 学期GPAは、当該学期の授業科目ごとに得たGPに当該授業科目の単位数を乗じ、その合計を当該学期に成績評価を受けた授業科目単位数の合計で除して算出する。
- 2) 通算GPAは、入学時から現在の学期までの授業科目ごとに得たGPに当該授業科目の単位数を乗じ、その合計を入学時から現在の学期までに成績評価を受けた授業科目単位数の合計で除して算出する。

GPA(Grade Point Average)の算出方法

$$\frac{\text{（修得した各科目の単位} \times \text{Grade Point）の総和}}{\text{成績評価を受けた科目の総単位数}}$$

3 通算GPA及び学期GPAは、それぞれ対象となる全科目と卒業要件対象科目とに分けて算出する。

(履修の取消)

第4条 一度履修登録した科目であっても、履修目的を達成する見込がない等の理由で、履修登録を取り消すことができる。ただし、取消に伴う追加登録はできない。

2 履修登録の取消は、指定された取消期間中にのみ行うことができる。この期間に手続きを行わなかった場合は、当初申請した履修科目が成績評価の対象となる。

3 履修登録後休学した者の休学中の履修科目については、履修の取消を学生支援センター（教務担当）で行う。

(不合格科目の再履修)

第5条 不合格科目については次学期以降に再履修することができる。再履修による評価は上書きされ、上書きされる前の履修科目単位数は、成績評価を受けた授業科目の単位数に算入しない。

(GPA の記載)

第6条 成績通知書により通知する GPA については、第3条第3項の内容をそれぞれ通算 GPA 及び学期 GPA に分けて記載する。

2 成績証明書には対象科目のうち、卒業要件科目の通算 GPA のみを記載する。

(活用)

第7条 卒業要件科目の GPA が1.1未満の者については、当該学生の所属学部の学部長による面談を行う場合がある。

2 卒業判定においては、前項も踏まえ、卒業要件科目の通算 GPA について学部会で審議を行う。

3 卒業要件科目の年度末時点の通算 GPA が3.0以上の者は、翌年度は、学期毎では26単位以内、年間では52単位以内まで登録することができる。登録手続きについては別に定める。

(その他)

第8条 この要項に定めるもののほか、GPA 及び科目履修に関し、必要な事項は履修要項他別に定める。

(要項の改廃)

第9条 この要項の改廃は、教務委員会の議を経なければならない。

附 則

この要項は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成22年7月13日から施行する。

附 則

1 この要項は、平成26年4月1日から施行する。

2 平成25年度以前の在学者については、従前の例による。

附 則

この要項は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

1 この要項は、平成31年4月1日から施行し、平成31年度入学生に適用する。

2 平成30年度以前の在学者及び在籍者の属する年次に転入学、編入学、再入学する者については、従前の例による。

附 則

1 この要項は、令和5年4月1日から施行し、令和5年度入学生に適用する。

2 令和4年度以前の在学者及び在籍者の属する年次に転入学、編入学、再入学する者については、従前の例による。

GPA の算出方法

「GPA 取り扱い要項」のとおり、履修した科目の成績に応じてグレードポイント (GP) を付与し、GPA を算出する。以下に GPA の算出例を示す。

(例)

科目名	単位数	評価 (GP)	ポイント数 (単位数×GP)
人間学Ⅰ	2	A (3)	2×3=6.0
人間学Ⅱ	2	B (2)	2×2=4.0
国際関係論	2	S (4)	2×4=8.0
教育学	2	D (0)	2×0=0.0
現代史	2	C (1)	2×1=2.0
スポーツ実技Ⅰ	1	A (3)	1×3=3.0
心理学概論	2	A (3)	2×3=6.0
数学	2	F (0)	2×0=0.0
経営学	2	C (1)	2×1=2.0
単位数計	17	ポイント数計	31.0

上記の場合の GPA : 31.0/17=1.82

2) 成績発表

履修登録した科目の単位修得ができたか否かの発表・通知は、学生ポータルシステム及び保護者宛に送付される成績通知書によって行う。

- 1～3年次生の成績通知

前期の成績結果は9月初旬頃、後期の成績結果は3月中旬頃、学生ポータルシステムにて発表し、保護者宛には成績通知書を送付により通知する。

- 4年次生以上の成績通知

前期の成績結果は9月初旬頃、学生ポータルシステムにて発表し、保護者宛には成績通知書の送付により通知する。

後期の成績結果（卒業判定結果）は2月末または3月初旬に学生ポータルシステムにて発表する。もし確認しなかったことで、本人に不利益（再試験手続きなど）が生じても、個人の責任となることを自覚しておくこと。後期の成績通知（卒業判定）の通知の日時は、11月中旬から12月初旬に学生支援センター（教務担当）にて案内する。なお、9月卒業者については、別途通知する。

成績発表は4年次生以上は卒業に、3年次生以下は履修登録に関係するので、自分自身で前学期までの単位取得状況を確認し、必要に応じ履修計画を見直すこと。

3) 成績の問い合わせ

成績結果について、以下の期間に学生支援センター（教務担当）窓口にて確認申請を行うこと。

年次	対象学期	受付期間
2年次以上	前年度後期分	学生ポータルシステムでの成績公表開始から約一週間以内 (前期：9月初旬、後期：3月初旬 具体的な日程は掲示等で連絡する)
全学年	本年度前期分	
4年次以上	本年度後期分	卒業判定結果発表時（2月末または3月初旬）

(3) 卒業論文

卒業論文は、大学での学修成果の総まとめであり、学生はこれを作成することによって、自己の学問的な立場を確立するとともに、将来の進路の基礎を得ることとなる。したがって、その意義を十分に認識し、教員の指導の下に終始積極的に論文を作成することが望まれる。下記は、論文の作成と提出についての主な注意事項であるが、『COLLEGE LIFE』に記載の「文学部卒業論文に関する規則」「社会学部卒業論文に関する規則」もあわせて参照すること。

文学部

- 論文題目の提出

論文を提出しようとする者は、5月中旬に指導教員から『卒業論文題目届』の用紙を受け取り、必要事項を記入の上、指導教員の承認印を得て、指定された期日に学生支援センター（教務担当）に提出しなければならない。

- 論文の枚数・用紙・ファイル

論文は次に掲げる様式に従わなければならない。用紙と枚数は、学科によって異なる。

〈論文表紙〉

論文用紙の大きさに合わせて、B5判またはA4判フラットファイル（緑色）。

（国文学科は学科で配付）

〈論文用紙・枚数〉

① USB や CD-R 等、電子媒体での提出は認めない。

② 概要・目次・参考文献・注・資料等は本文の枚数に含めない。

③ ワードプロソフトを使用する場合、字数・行数はワードプロソフトの設定のみに頼らず、プリントアウトを実際に確認すること。

国文学科

縦書または横書（指導教員の指示に従うこと）

B5判の白紙を使用し、縦書の場合は40字×20行で25枚以下、横書の場合は32字×25行で25枚以下とする。

史学科

縦書または横書（指導教員の指示に従うこと）

B 5判の白紙を使用し、縦書の場合は40字×10行で50枚以下、横書の場合は30字×15行で45枚以下とする。

地理学科

A 4判の白紙を使用し、横書35字×30行で20枚以下とする。

文化財学科

縦書または横書（指導教員の指示に従うこと）

A 4判の白紙を使用し、縦書の場合は50字×16行で25枚以下、横書の場合は32字×25行で25枚以下とする。

社会学部

○論文題目の提出

論文を提出しようとする者は、9月下旬に指導教員から『卒業論文題目届』の用紙を受け取り、必要事項を記入の上、指導教員の承認印を得て、指定された期日に学生支援センター（教務担当）に提出しなければならない。

○論文の枚数・用紙・ファイル

〈論文表紙〉

論文表紙は本学売店にて所定のものを購入すること。（A 4判フラットファイルー緑色）

〈論文用紙・枚数〉

①論文用紙はA 4判の白紙または原稿用紙を使用。

②枚数は、白紙の場合は1ページ40字×20行で本文15枚以上、原稿用紙の場合は400字詰で本文30枚以上。

③目次、参考文献、図表等、本文と関連するものは枚数に含める。

④必要な場合は本文とは別に付属資料を添付してもよい。

両学部共通

○論文の提出票について

『卒業論文提出票』に必要事項を記入して、論文と同時に提出すること。これらの用紙は10月中旬に配付する。（掲示に注意）

○論文題目貼付用紙について

『論文題目貼付用紙』（シール式）に論文題目他必要事項を記入の上、論文表紙の所定の位置に貼り付けること。（貼付用紙は提出票と同時配付）

貼付用紙の貼り方は右図を参照のこと。

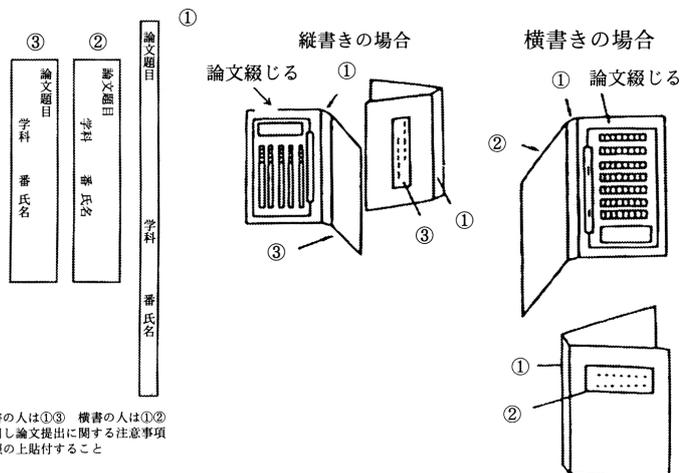
縦書…①を背に③を表紙の中央に貼付

横書…①を背に②を表紙の中央に貼付（背表紙貼付シール①は、B 5判、A 4判それぞれのファイルの大きさによって違うので貼付の際は注意する。）

○不明な点は、指導教員の指示に従うこと。

○提出時には必ず学生証を持参し呈示すること。

○手書き論文の場合は必ず黒のペン又はボールペンを使用すること。（鉛筆・シャープペンシルは不可）



論文の提出期間

卒業論文の提出期間は、締切日を含め3日間のみである。学年暦及び行事予定表で毎年発表するので各自確認しておくこと。

期間及び学生支援センター（教務担当）窓口取扱時間に遅れた場合は、一切受付できないので注意すること。

各日とも窓口取扱時間は、8時30分から16時30分まで。（日・祝日の受付はない）

プリンターの故障や、思わぬアクシデントで取扱時間に間に合わなくなる等、理由の如何に関わらず、遅れた場合は一切受付できないため、提出期間最終日ではなく、余裕をもって早目に提出できるよう、1年次からその習慣を身につけていただきたい。

奈良大学履修要項

2026年3月31日印刷
2026年4月1日発行

編集 奈良大学
発行 学生支援センター(教務担当)
〒631-8502 奈良市山陵町1500
電話 0742-419504

印刷 共同精版印刷(株)
製本
〒630-8013 奈良市三条大路2丁目2-6
電話 0742-331221(代)



学籍番号					
所 属	学 部		学 科		
氏 名					

この冊子は卒業時まで大切に保管してください。